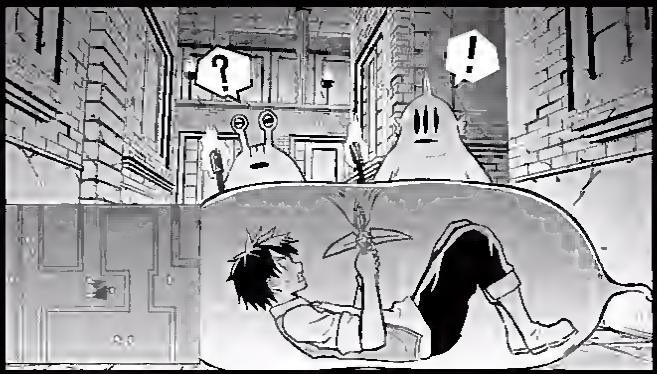
勇者が死んだ!
THE LEGENDARY HERO IS DEAD!
5
スバルイチ
SUBARUICHI
村人の俺が殺った奴ってすでに勇者が死んだ件。

Go to next page

Go to next page



スバルイチ

THE LEGENDARY HERO IS DEAD!
SUBARUICHI

勇者が死んだ！

村人の俺が
掘った落とし穴に
勇者が落ちた結果。

5

エセル▶職業：盗賊
トウカの師匠。
マルグリット▶職業：射手（アーチャー）
ファロム王国第3皇女。
屍術により
精神を移植中!!
ユナ▶職業：武闘家
トウカの幼なじみで
世話係のお姉ちゃん。
トウカ（勇者の体）▶職業：勇者
勇者シオンを（手違いで）殺してしまい、
勇者として旅する事になった村人。
フトモモフェチのクズ。
アンリ▶職業 屍術師
旧・勇者パーティの1人。
天然ボケな性格。
キャラクター紹介
▶勇者パーティ
▶前回のあらすじ
モアランの町で、ゾンビになってしまう
魔人化の魔術をかけられたユナ。
彼女を救うためのタイムリミットは24時間!!
ユナのゾンビ化を食い止めろ!!

勇者ミリィパーティ

ミリィ
人造聖剣を持つ
ユナの妹。

シャノン
気弱な男の子。

フィエリ
ユナとミリィの父親。
オッパイ教。

ドロシー
旧勇者パーティの
メンバー。
常に寝ている。

屍術師

ディエゴ
“血涙のディエゴ”

フリード
“臭水の旦那”

王都

国王
超武闘派なゴリ王。

シルエラ
四騎士の一角。

カイル
旧勇者パーティの
メンバー。
トウカに倒され、
今は牢獄生活中。

モアランの町

コリン
ゾンビ人間に
首を噛まれる。

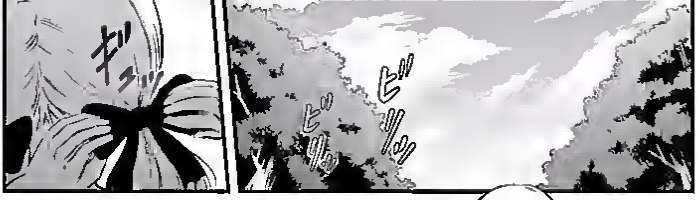
ネイガン
コリンの相棒。モアランの
町に残って戦う。

町長
モアランの町長。

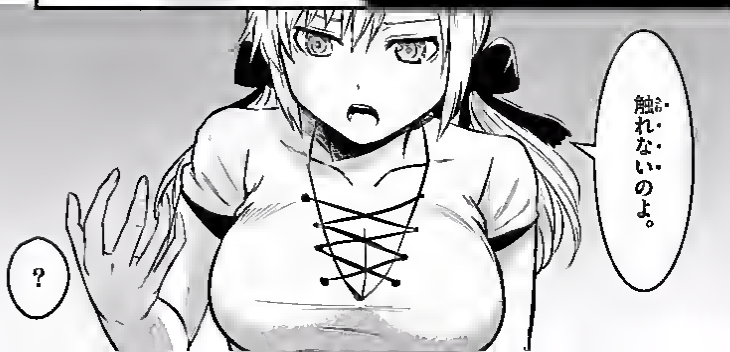
ベラーコ
100体の魔物を倒した
噂の男。

勇者が死んだ!
▶もくじ

第45話　記憶の世界・前編 ―― 5
第46話　記憶の世界・中編 ―― 23
第47話　記憶の世界・後編 ―― 41
第48話　魔術戦士隊 ―― 69
第49話　町長の財産 ―― 87
第50話　エルバニアへ ―― 113
第51話　突入 ―― 133
第52話　潜入 ―― 153
第53話　女王 ―― 169



第45話 ▶ 記憶の世界・前編



トウカのあとをずっとつけてたんだけど、私だけ誰にも認識されないし、

あの

あの

私なんです

誰なんだ!?

こちらから干渉することもできなかった。

俺と俺が身につけているものなら大丈夫なのか…

どういうことだ…？てゆーか…あとをつけてたって…あれ…

だからさっきもまさかトウカに声が届くなんて思ってなくて…

あんなひどいこと言っちゃって…

いつも通りだったけど？

うん…さんざん街の人に対して、変態行為働いてたわよね。

ご…誤解だ…俺はこの世界の謎を解き明かそうと…

何が誤解よ!!

この変態!!

ドクズ!!

ゾッ

ゾッ

ドン

ドン

ドン

ユナの言った通り
魔術で作られた世界って
考えた方がしっくりくるな。
こんにちは
それに
周りの人の顔を
よく見て…

あれって…
リーランドに
似ているような…

あっちは
顔はアイザックさんで
身体はシルエラさんね。
気色わるっ！

待てよ…

俺のよく知っている
人物に関しては
顔も人格もそのまま。
ウカと
一緒に
げる！

だけど、
外見しか知らないヤツは
まともな人格が
存在しない。
こんにちは

そして、外見すら
覚えてないヤツは、
俺の「記憶」から
「組み合わせて」作られている…

そう…
つまり
これって…

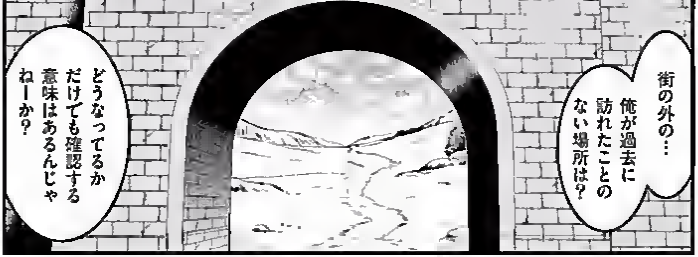
ここは「過去の世界」じゃなく…
「俺の記憶から作り出された世界」…！

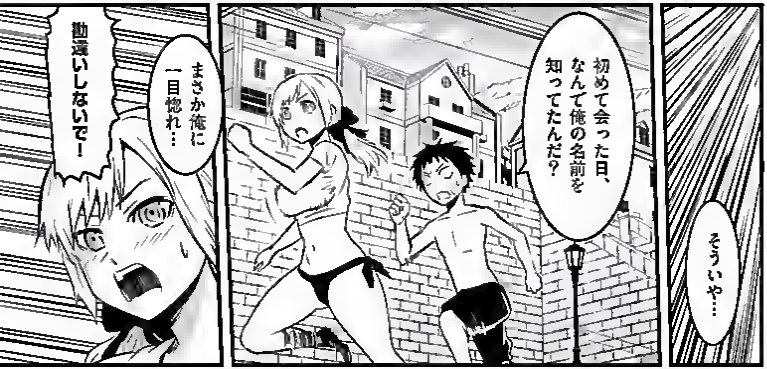
じゃあ、ユナも俺の記憶から作られたのか？
私は私よ！ 証明しようがないけど…

でも、同じ肉体の中に私の精神もいたわけだから…
たまたま巻き込まれたって考えていいんじゃない？
ユナの肉体
トウカの精神
なるほど…

なんにしても…
過去に戻ったわけじゃねーってんなら、現実世界でも同じ時間が経過している可能性が高いぞ…
早くここから出ねーと。

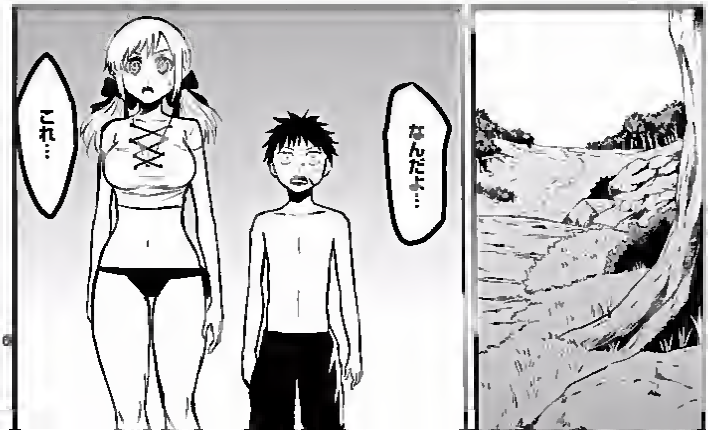
脱出するって言ってもどうすれば…
うーん…

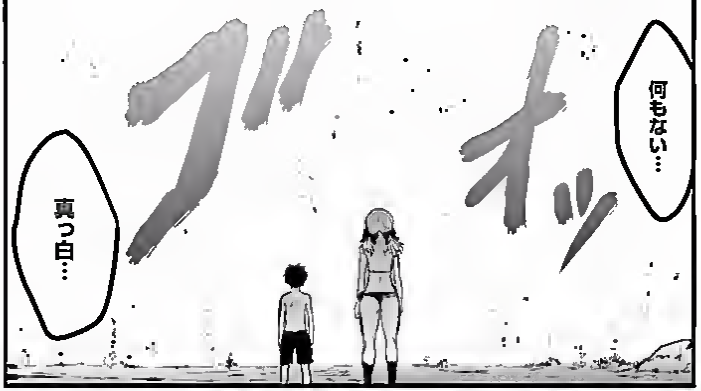

街の外の…
俺が過去に訪れたことのない場所は？
どうなってるかだけでも確認する意味はあるんじゃねーか？

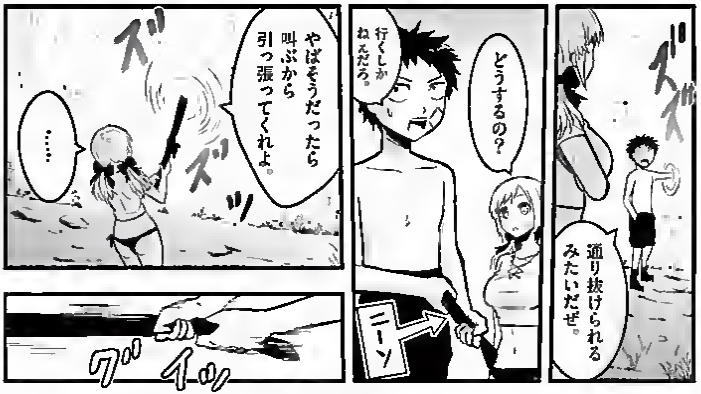

そういや…
初めて会った日、なんで俺の名前を知ってたんだ？
まさか俺に一目惚れ…
勘違いしないでー

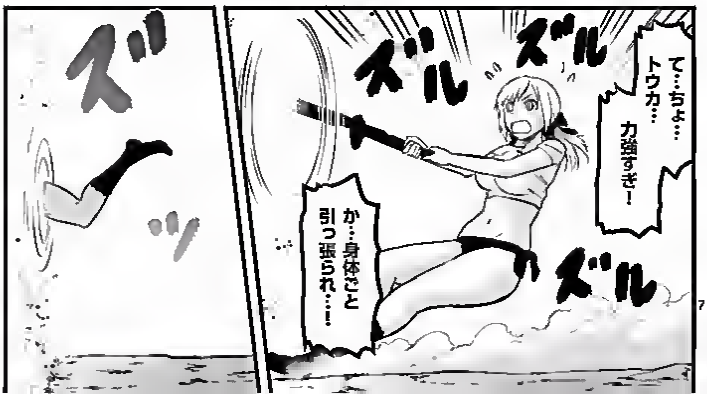
ただ…
いつもひとりで…
いつもケガしてるのが気になって…
いろんな人にトウカのこと聞いたら…
助けなきゃって思って…
それで初対面で「一緒にいてあげる」かよ…
極端すぎるぜ。
でも…
貴族様が気まぐれで手をさしのべたってだけか…
ったく、俺は捨て猫じゃねえんだぞ。
なんでそうやって、ひねくれた風に受け取るのよ！

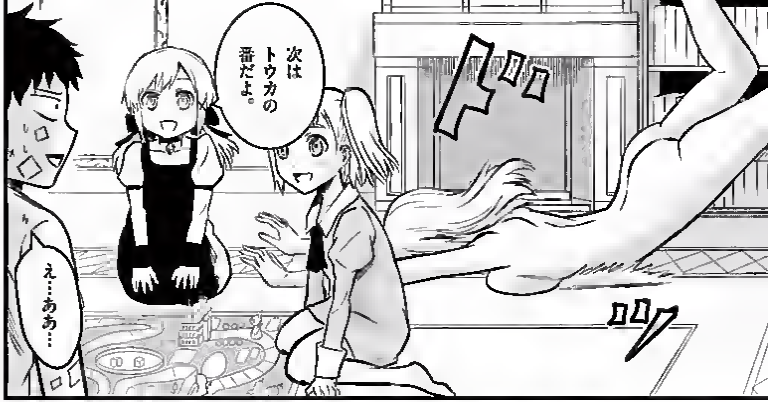
うん…

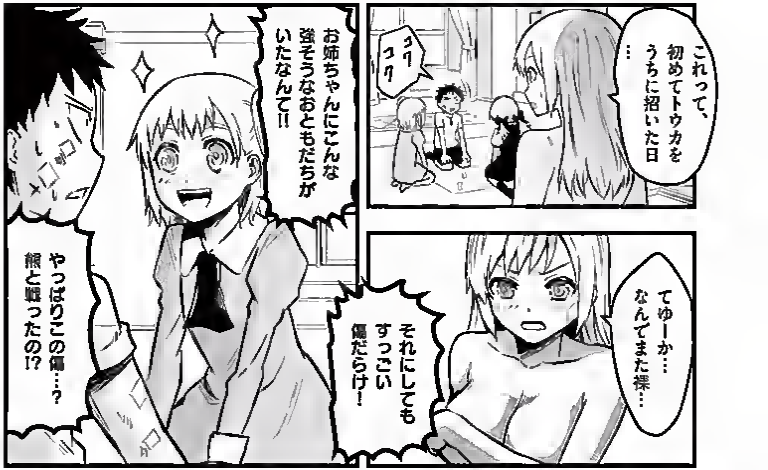


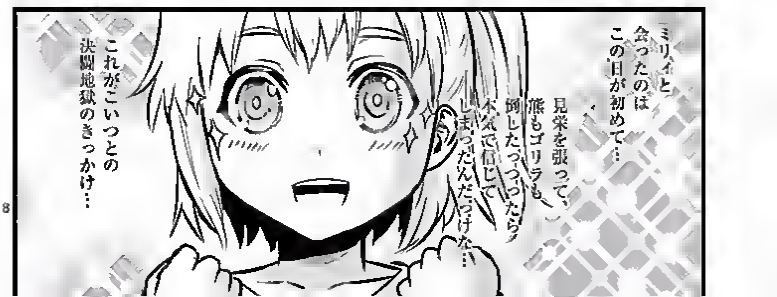

何もない…
真っ白…

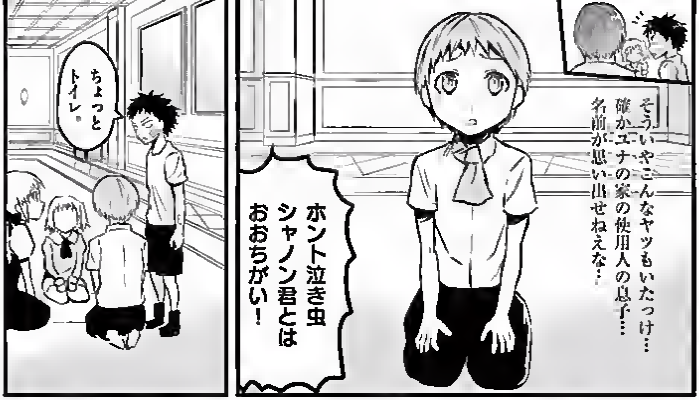

通り抜けられるみたいだぜ。
どうするの？
行くしかねぇだろ。
ニーソ
やばそうだったら叫ぶから引っ張ってくれよ。
……

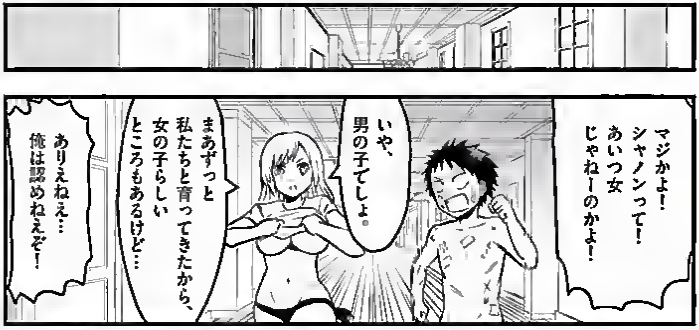

て…ちょ…トウカ…力強すぎ！
か…身体ごと引っ張られ…！！


次はトウカの番だよ。
ドロロ
え…あ…
ロロ


これって、初めてトウカをうちに招いた日…
コワコワ
てゆーか…なんでまた裸…
それにしてもすっごい傷だらけ！
お姉ちゃんにこんな強そうなおともだちがいたなんて!!
やっぱりこの傷…？熊と戦ったの!?


ミリィと会ったのはこの日が初めて…
見栄を張って、旅もゴリラも、倒したっつったら、本気で信じてしまったんだっけな…
これがこいつとの決闘地獄のきっかけ…


そういやこんなヤツもいたっけ…
確かユナの家の使用人の息子…
名前が思い出せねえな…
ホント泣き虫
シャノン君とは
おおちがい！
ちょっと
トイレ。


マジかよ！
シャノンって！
あいつ女
じゃねーのかよ！
いや、
男の子でしょ。
まあずっと
私たちと育ってきたから、
女の子らしい
ところもあるけど…
ありえねえ…
俺は認めねえぞ！

てゆーか、
さっきから
どこ向かってるの!?
トイレこっちじゃ
ないんだけど！
もう一度
あの白い空間に
飛び込むんだ！
え、また行くって！
結局出られなかった
じゃない！

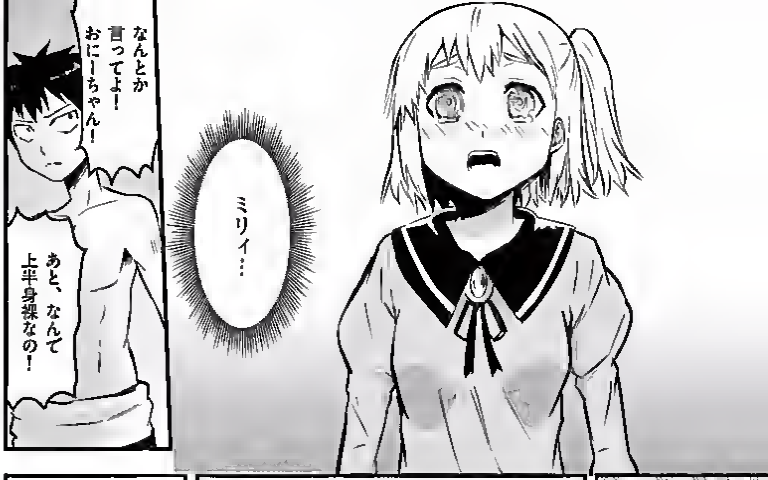
時間だよ！
時間！
白い空間に
飛び込めば
時が進む！
これを繰り返しゃ、現在に…
この世界の終わりに
辿り着けるんじゃねーの!!

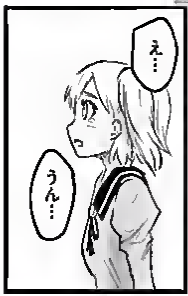
トウカたちは
時間を
進め続けた。
お兄ちゃん
決闘！
また今度な！
トウカ、
むしゃくしゃするから
一発ブン殴らせ…
ぶ!!

この変態小僧！
また娘の胸をいやらしい目で
見てたな！
ドドドドドド
そりゃ
テメーだろうが!!
似合う？
今日から私は魔法少女
マジカルユナリンよ！
それ5年後
黒歴史に
なってるぞ！

はあ…
はあ…
まさか
記憶の世界で
マラソンやる
羽目になるとは…
この日は…

5年くらい
前か…
ファロム王国と…
北の大国アラード王国が
戦争を始めた頃…
俺がエルバニアを
出る日だな…
親父が北大陸まで
火事場泥棒しに
行くっつって…
11歳の俺は…
結局親が居ねーと
生きられないって
わかってたから…
ぜったい！
帰ってきてよね！


なんとか言ってよ！おにーちゃん！
あと、なんで上半身裸なの！
ミリィ…


え…
うん…

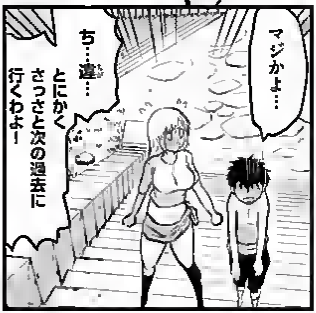
大丈夫だ！
2年後また会えるから！

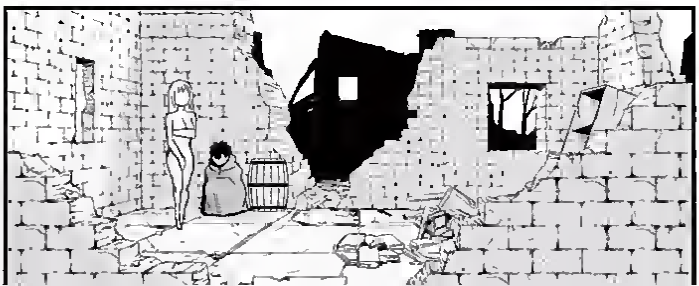
おい！さっさと来いバカガキ！

この日…ユナは来なかったんだよな…
確か俺たちケンカして…
私のタンスの靴下を全部ニーソにすり替えたのが原因でね！
あ…あれ…ハハハ…そんなことしてましたっけ…

でも…
意地張って
見送りに
行かなかったこと…
すっごい後悔したな…

え…？ マジで？
嘘！
ちょっとだけよ！
ちょっとだけ！
次の日
トウカのことなんか
すぐ忘れたんだから！


マジかよ…
ち…違…
とにかく
さっさと次の過去に
行くわよ！



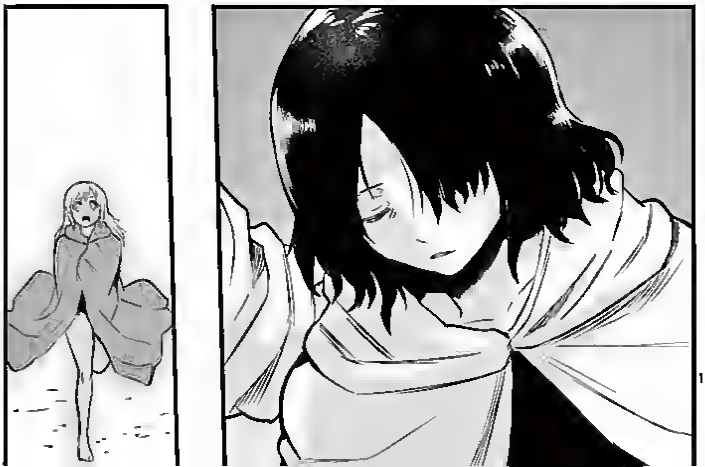
ここって…
北大陸…？
この日は…
親父が消えて…
お袋と二人で
戦場から脱出する途中で
俺が熱を出して…

お袋が一人で
薬を探しに行って…
死…

まだ間に合うかも…
お袋を救い出せるかも……！
トウカ！待って！
これは現実じゃ…

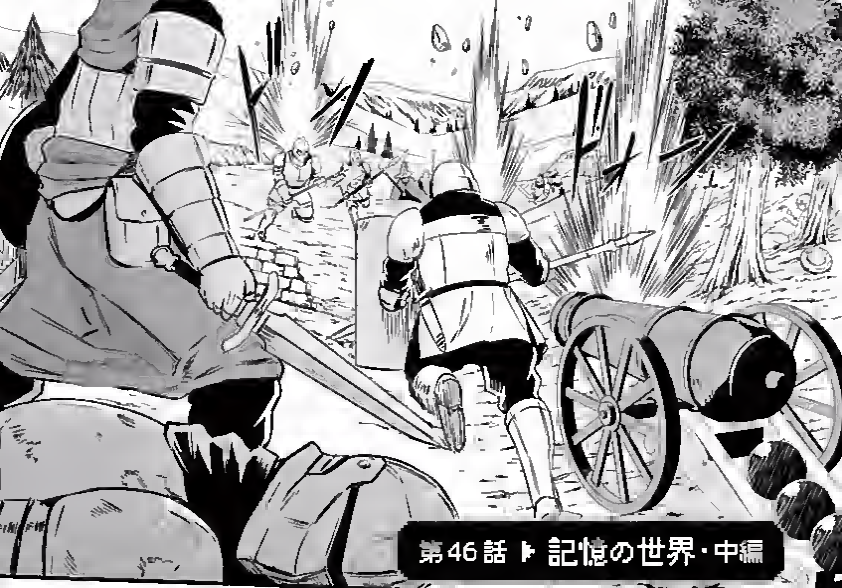
よかった…
来てくれたんだね…
母さん忘れてたから…
ユナちゃんからトウカにって渡された手紙…
預かってたこと…
ごめんね…
母さん…いつもお前がひどい目に遭うのを…見て見ぬ振りして…
卑怯で…臆病で…最低な母親だった…
こんなこと言う資格…
ないのかもしれないけど…

でも…
母さんは…
トウカのことを
愛して…



クソ…
もう4年前のことだってのに…

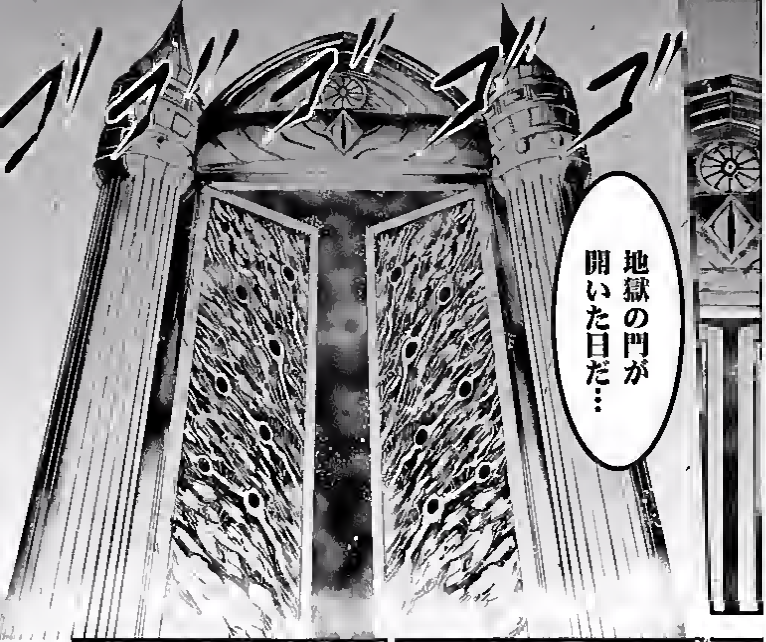
かんべんしてくれよ…！
クソ…！


第46話 ▶ 記憶の世界・中編

今度は戦場!?
ああ！
うっかり
迷い込んじ
まったんだ！

だが…
北大陸でも
時間を
進められて
安心しただぜ……

こ…
これ…
死んだら
どーなるんだ
……？
ユナ…
どうしたんだ…
そんな
暗い顔
してよ。
い…
いや…
なんでも
ない…
何この音…
そろそろか…
この日は…
人と人との
争いが終わる日…

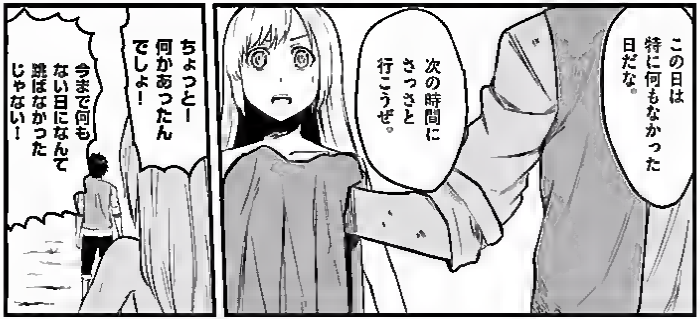

ゴゴゴゴゴ
地獄の門が開いた日だ…

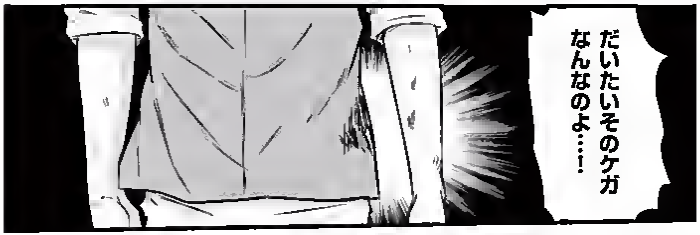
そんな！門が……！
悪魔だ……！悪魔が来るぞぉ！

ゴゴゴゴゴ
見てたの…？
ああ…

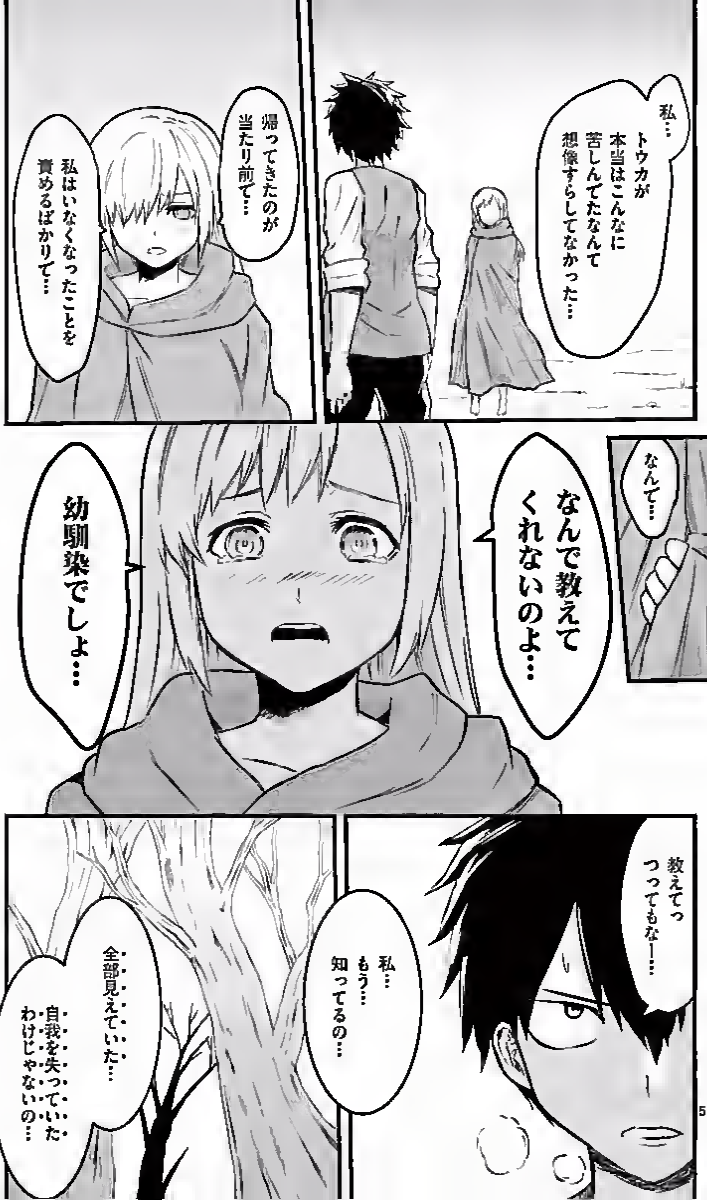
俺たちも逃げるぞ！

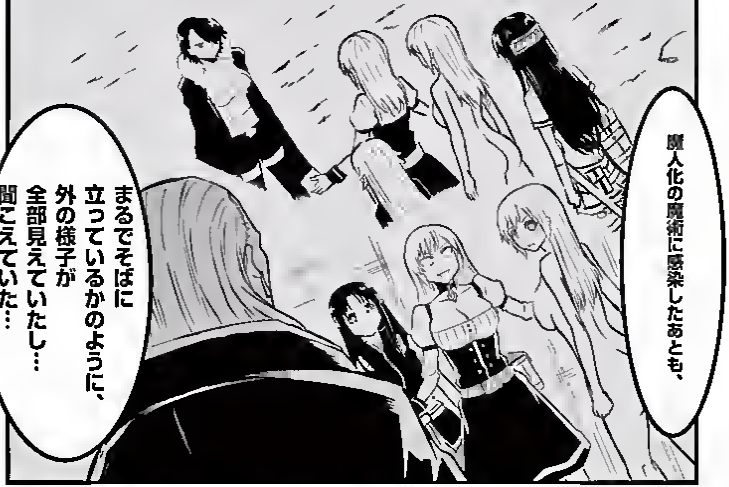
ヒュオオオオオオオ
ズッ
ズッ


この日は特に何もなかった日だな。
次の時間にさっさと行こうぜ。
ちょっとー何があったんでしょ！
今まで何もない日になんて過ごせなかったじゃない！


だいたいそのケガなんなのよ…！

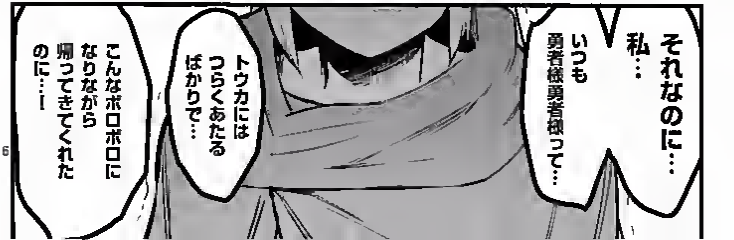
あ、そういや悪魔にちょっとやられた日だったな。
いやーなんかあったわ。
トウカ！


私…
トウカが
本当はこんなに
苦しんでたなんて
想像すらしてなかった…
帰ってきたのが
当たり前で…
私はいなくなったことを
責めるばかりで…
なんで…
なんで教えて
くれないのよ…
幼馴染でしょ…
教えてっ
つってもなー…
私…
もう…
知ってるの…
全部見えていた…
自我を失っていた
わけじゃないの…


魔人化の魔術に感染したあとも、
まるでそばに
立っているかのように、
外の様子が
全部見えていたし…
聞こえていた…

3年前…
エルバニアが襲われた日…
トウカが助けに
来てくれていた話も…
すべて
そばで聞いていた。
だから
ミリィとの話も…

たぶん意識だけが…
精神体を覆う
魔術の檻から
抜け出せたんだと思う…
…!!
意識だけが…!?


それなのに…
私…
いつも
勇者様勇者様って…
トウカには
つらくあたる
ばかりで…
こんなボロボロに
なりながら
帰ってきてくれた
のに…!

ごめん…
なさい……！
本当に
救ってくれたのは
トウカなのに…！

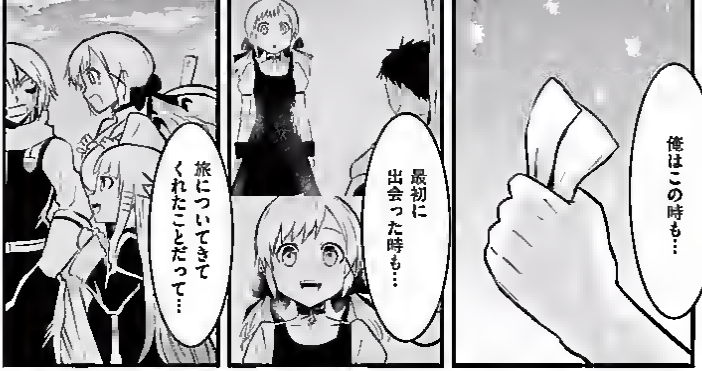
ったく…
なんでお前が
謝るんだよ…
結局お前を助けたの
勇者だし、
俺は帰りたくて
帰っただけだし…
…
この日は…
本当に
何か起きたわけ
じゃねえよ…
ただ…
この日は…

ユナの手紙を
読んだ日だ――
もう…
いいか…
全部
失った…
笑句
知らねー土地で
ひとりで死ぬとか…
俺にふさわしい…
クソみたいな…
人生の
終わりだぜ…

そういや…
読んでなかったな…
「帰ったら…
仲直りしてあげる」
…か……
は…
ちょっと待て―
これだけ!?
今までの二人の思い出を振り返ったりとか…
絶対帰ってくれるって信じてるからとか
離れ離れになってもずっと忘れないよとか
そーいうのじゃねーのかよ…!
最後まで許されてなかったとか―
ふざけんじゃねえ…

これじゃあ…
死ねないじゃねーか…

いやー!…
あの時は
ほんっと
むかついたぜ。
だ…
だってこんなことに
なってるって
思わなかったし…!
でも、
ユナらしくって、
スゲー懐かしく
なってよ。
ユナ…
たぶん俺…
この言葉じゃないと
もう一度
立ち上がれなかった。
お前は
俺が救ったって
言うけどな…


俺はこの時も…
最初に出会った時も…
旅についてきてくれたことだって…

救われてるのはいつも俺の方なんだ。

…ま…
そーいうわけだからよ…

謝る必要ないっていうか…

ちゃんと助けられなかった俺の方が謝らなきゃならないっていうか…

しっかし…

あんな手紙で救われたなんて悔しくてホントは言いたくなかったんだけどな…

あ。

そ…そういや自我を失ったあとも全部見えてたって言ってたな。

まさか俺がユナの身体に入ってたことも知って…

いやー、別に怒ったりしてないよな……
お前を救いたい一心でやったことだしな……！
あ、そういやお前さっき謝ってたよな！
これでチャラにしてやってもいいぜ！
ゴゴゴゴゴゴ
謝る必要ないって言ってたわよね？

勝手に人の身体に入って！
裸で土下座したり！
フトモモ揉んだり！
戻ったらすぐ出ないと、一生許さないんだから！
ひいい！やめて！
ケガに！
悪魔にやられたケガに響く！

え

ネフフフフ！

じょ…
上級悪魔…！
あんた
上級悪魔にも
襲われてたの…!?
いや…
あんな悪魔…
初めて見た…
え…？

まったく、トウカ・スコット君…
ずぅーっと、独り言ばかりじゃ退屈だよ。
ワタシはネェ。ニンゲンの記憶を覗くのが何よりの楽しみなんだよネェ。
楽しいよネェー ニンゲンの記憶はー
地獄にはなかった最高の娯楽だよネェ！
それなのにキミはお化けと会話するかのように独り言ばかり！
こんなストレスのたまるニンゲンは初めてだよネェ。
ワタシのために ちゃんと役割演じてくれないとネェー
まさか…
テメーがこの世界を作ったのか…

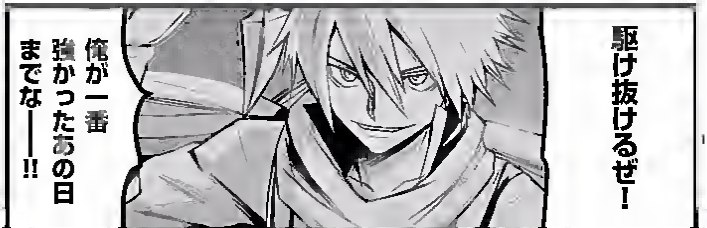
ネフフフフフ!!
その通りネェ!!
この世界は
夢の中のようなもの!
現実世界の
キミはワタシの
隣でぐっすり
寝てるヨー

記憶を喰くのに
飽いたら、
いつもこうして
精神を食べに
来るのだが…
こんなに
飽きが早いのは
始めてだよネェ。
クク…
きれい…
よりによって
精神体「魂」喰
だったのネよ。

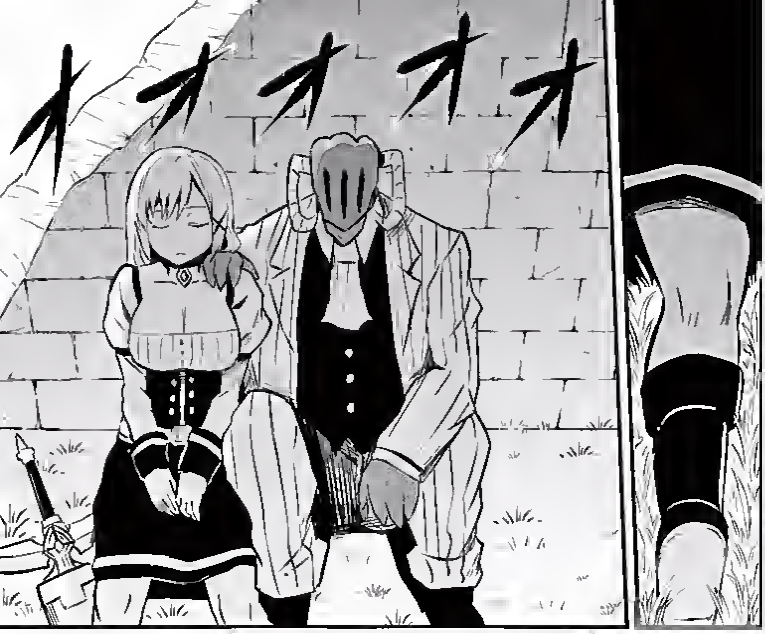
逃げるぞユナ!!
ネフフフフー
どこにも出口はないんだよネェ!!

殺出したければワタシを倒せばいいんだよネェー
無論それも不可能だろうけどネェ!

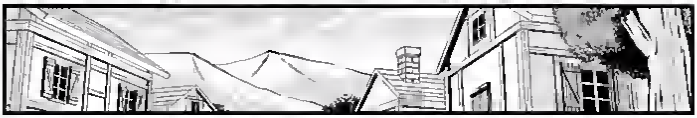
どうするのよ! 倒さないとダメって言ってるわよー
ハッ! わざわざ親切な悪魔だぜ!
なら目指すべき場所は一つだ…!!


駆け抜けるぜ!
俺が一番強かったあの日までな——!!

屋け抜けるぜ！
あの悪魔を倒す回まてな！
それなら
絶対勝てるわね！



第47話▶記憶の世界・後編



勇者シオン!!
ドロロ
そうか…
あいつなら
あの上級悪魔にだって…
おい!
勇者!
今から上級悪魔が
この村を
襲ってくる! やっつけちゃう
まってくれ!
はぁ?
なんで僕が君みたいな
ゴミクズの頼みを
聞かなきゃならないんですかあああ?
オオオオオ
誰!?
2
クソ…
あのド外道に
頼ろうとした俺が
バカだったぜ…
勇者様だけ
なんでこんなに
性格違うの!?
え?
勇者って
こんな性格
だったろ?
トウカ自身の
記憶が
改ざんされてる!
おらァ…
ものを頼む時は
ひざまずけやぁ。
靴なめながら
助けてください
勇者様って
懇願しろや。そしたら
この僕が直々に顔を
踏みつけるくらいは
してやるからよお!
ヒハハハハ!
ザッ

ゴゴゴ
ズ
ボ
ゴゴゴ
いやあああああッ!!!
勇者様があんな簡単に！
もうここはダメだ！急いで脱出するぞ！

ズズッ

…

…って、

よりによって
ここかよ!!!

1000万の私返しやがれ!

今私ぇ!!
この二セモノ!!

クセェ!!

ひいい!
まずい
このタイミングで
ヤツが来たら!

大丈夫!
この縄もトウカの
身につけている
ものだから
触れる…!

ネフフフフ!!

駄目…
間に合わない!

4

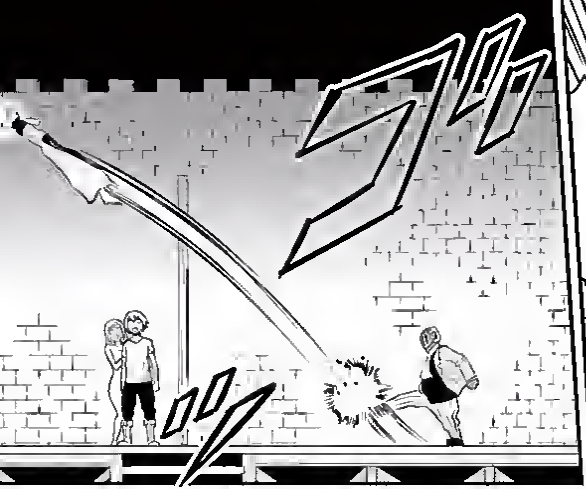
まさか、

こんなところにまで
上級悪魔がやってくるとは…

だが…
神に愛された
この俺の前では、

上級悪魔だろうと
等しく出来損ないさ。

カイル!!

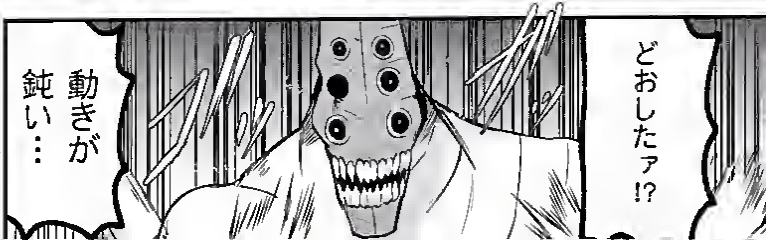

うおおお！
あいつをこんなに頼もしく感じる日が来るとは！
やっちまえカイル！

へ…？
むう 気付いたよネェ。

彼らはただの記憶にすぎない！
この世界の創造主であるワタシの前では！

無力！
ベラーコォォォ!!
無力！
ゴリヨッ!!
無りょ――――くッ!!
シルエラァァッ!!

ガッ
ギィ
ヒィーーー!!!

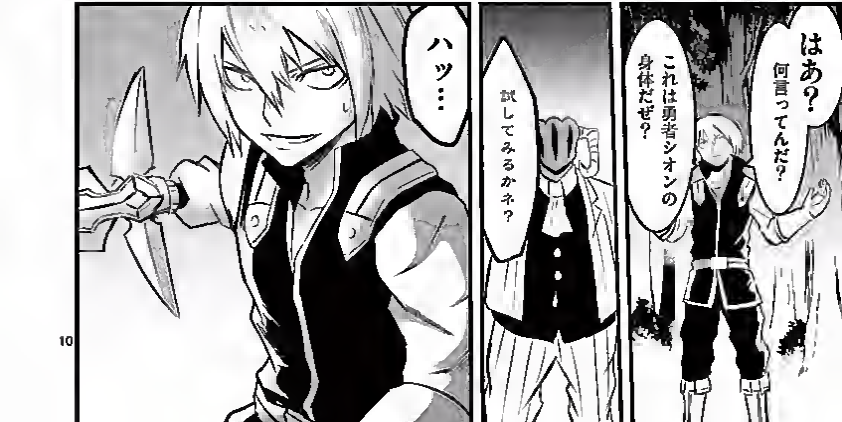

どおしたァ!?
動きが鈍い…

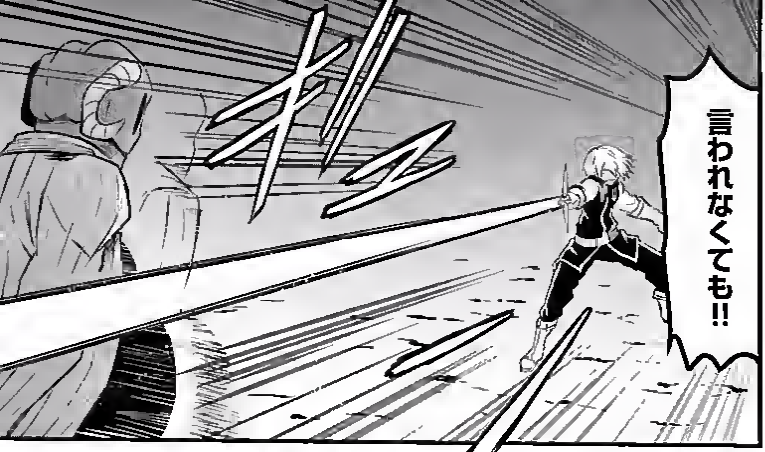
ぜ!!
ようやく
ここまで
辿り着いたぜ。
ビュルン
強さもそのまま…
これなら
ヤツと戦える…!!

全盛期の
姿で戦う！
それは賢い
選択だネェ。
また
上級悪魔が！
いったい
どうなってるんだ!?
ようやく彼が
鬼ごっこを
やめたんだヨ。
外野は黙ってて
ほしいネェ。
随分と余裕そう
じゃねえか。
まさかこの
力も弱体化
できんのか？
ネフフフ…
それができれば
いいんだけどネェ…
ワタシが
干渉できるのは
記憶で作られた
者たちだけ…
キミ自身や、キミ自身が
手にしてしまった
力や武器は、
もはやワタシには
どうしようも
できないんだヨ。

まったく…
我ながら
欠点ばかりで
嫌になるよネェ…
ワタシ自身は
精神しか食べられない
悪魔…
食事をするためには
記憶の世界で
キミを直接襲うしかない。
さらに侵入している間、
現実世界の
ワタシの肉体は無防備。
第三者が
ワタシを殺すか、
眠っているキミを
起こせば、魔術は解除されて
しまうんだヨ。
ハッ！
マジで
欠点だらけ
じゃねえか。
なんでそれを
話す？
まさか勝負を
諦めたのか？
オオオオオ
ネフフフフ…
違うんだよネェ。
ワタシが言いたいのは
これだけ欠点があっても
キミは勝てないってこと
なんだよネェ。

その理由の一つ…
現実世界では、ワタシのお友達がキミの仲間と戦っている。
つまりキミを外から助けだせるニンゲンはいないんだよネェ。
工房が…襲撃されているのか……！
そしてもう一つ…
そもそも、キミ程度の実力じゃ！
ワタシにダメージすら与えられないんだよネェ。


はあ？何言ってんだ？
これは勇者シオンの身体だぜ？
試してみるかネ？
ハッ…


言われなくても!!

すぐに!
倒して!

当たらねえ…
ネフフフフー
悪魔なんだよネエー
この世界は
魔術で作られた世界。
それはつまり
キミの頭の中を
ワタシの魔術が
読みとったということ。

まさか…
今の俺の頭の中も…
そう…キミの思考はスベテ…!
丸わかりってワケだよネェ!!
ハッ!それなら…
……
無心で戦うまでだ…!
ホントに何も考えてなかった!!
くはッ

ネフフフフ。
確かにその戦いは正解。
これまでも思考を介さず、反射だけで戦えるような連中には、何度か苦しめられたからネェ。
しかしキミはただの村人！
そんなこと簡単にできるわけないよネェ！
それにしても本当にがっかりだネェ。
勇者を殺した男の中身・・
すっごく楽しみにしてたんだけどネェ。

ちょっと不幸なだけの凡庸な人生。
こんなつまらないニンゲンに殺されてしまった勇者シオンがかわいそうだよネェー
うるせーよ、ネフネフ…

土足で
他人の頭ん中
入って…
他人の人生を
つまんねーと
吐き捨てる
テメーの方が
つまんねーんだよ。
テメーは
どうあっても悪魔だ。
大事な人間ができた
ことも
ねーんだろうがよ。
もう一度
好きに人生を
選べたとしても、
俺はまた
この人生を選ぶぜ"
ユナたちに出会えない
人生なんざ、
俺にとっちゃ
クソっくらえ
だからな!!

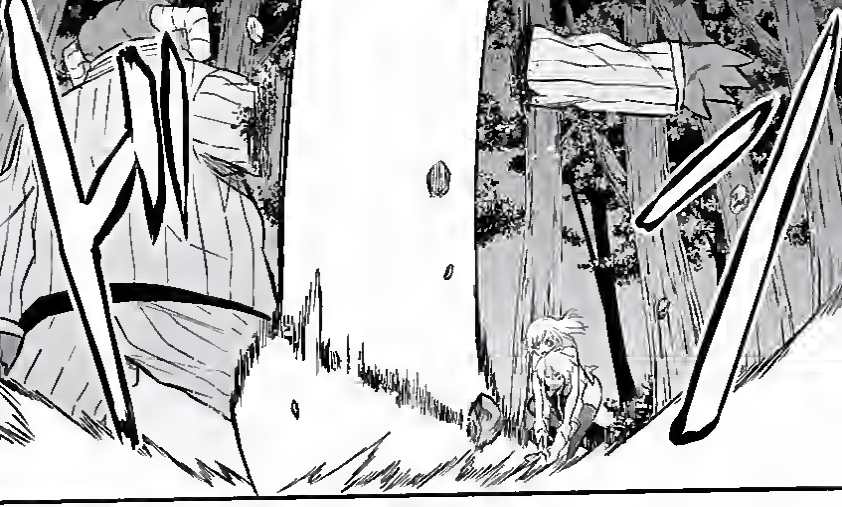
それは！
残念だネェ！
そんな人生も…
もう終わり
なんだからネェ!!!

!?
なんだ…
今の動き…
まったく
読めなかった。
やっぱり、
あいつも私のこと
見えてないのね。

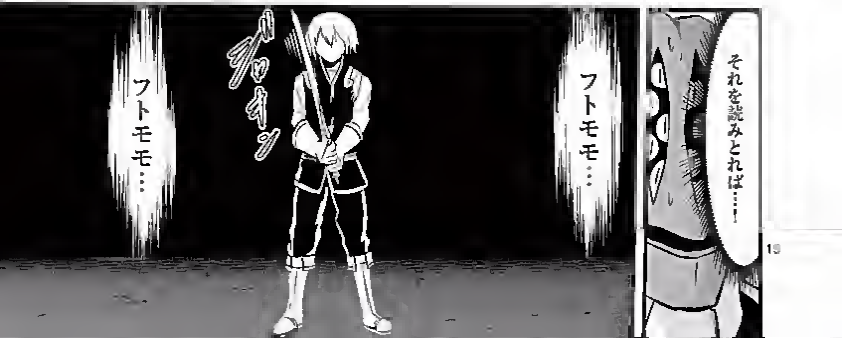
なるほど…
こいつ自身も
こいつの魔術も…
一つの身体に
精神が二つあるという
イレギュラーな状況には、
対応できてねえって
わけか…！

……!?
精神が二つ…!?
この少年がただイカれてるだけかと思ったら…
まさか…
本当にもう一人いるのかネ…!
背中…
借りるわよ…!
え?
!!

フトモモが…
ギュッ
身体を締め付ける！
トウカは
腕の動きについて
絶対に考えちゃ駄目よ！
ああ、
こっちもそんなことに
頭を使える状況じゃ
ないからな!!
ドォ
ドォ
?
行くわよ!!



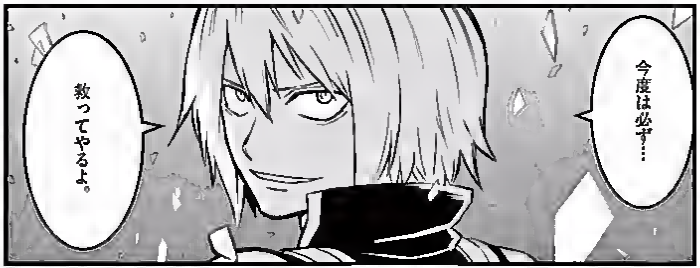
見たか！
これが俺たちの
初めての共同作業だ！
誤解を
招く
言い方
やめてよー
いったい
どういうことだネ……
ワタシが
認識できない方の精神が、
操ってるとでも
いうのかネー
いや…
だが自分の腕が
どういう風に動いてるか…
あの少年も
認識しているはず……

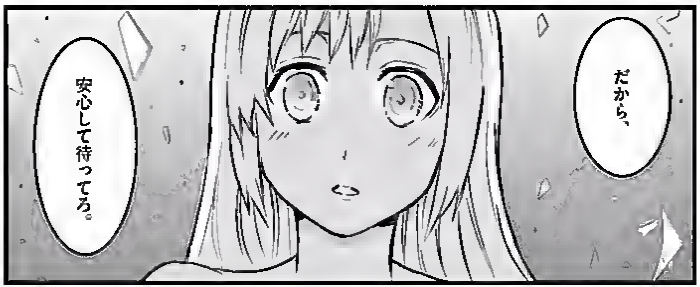

それを読みとれば……
フトモモ…
フトモモ…
ヴォイン

思考が…
フトモモ…
フトモモ…
フトモモ

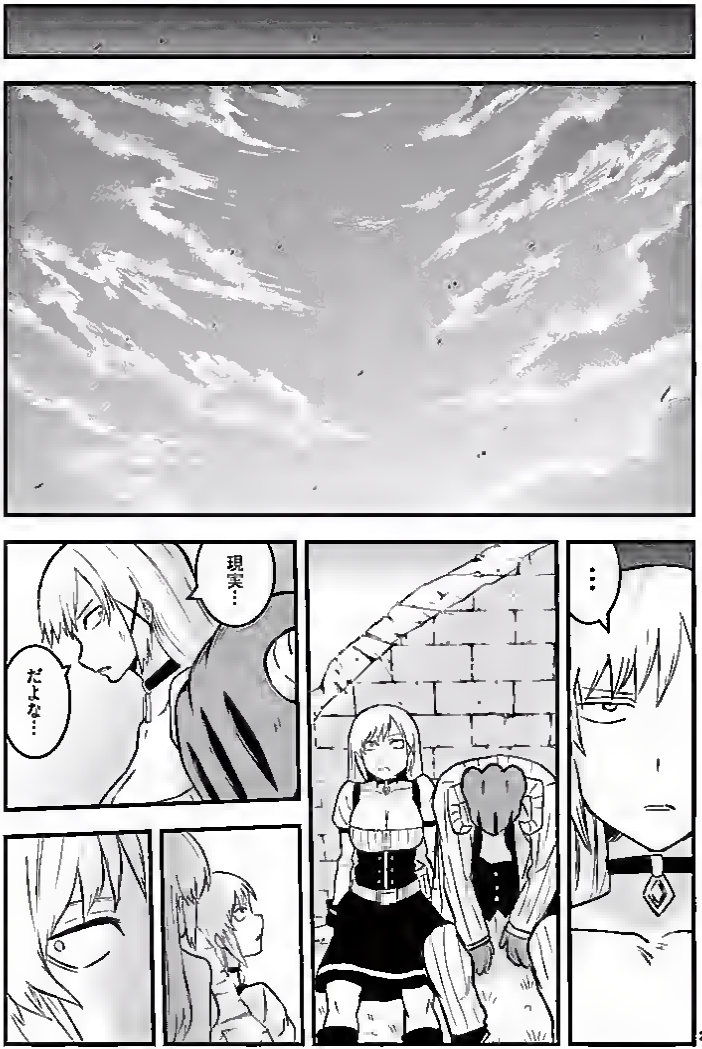
ネェ!!!
倒したの…
そうみたいだな。
!?

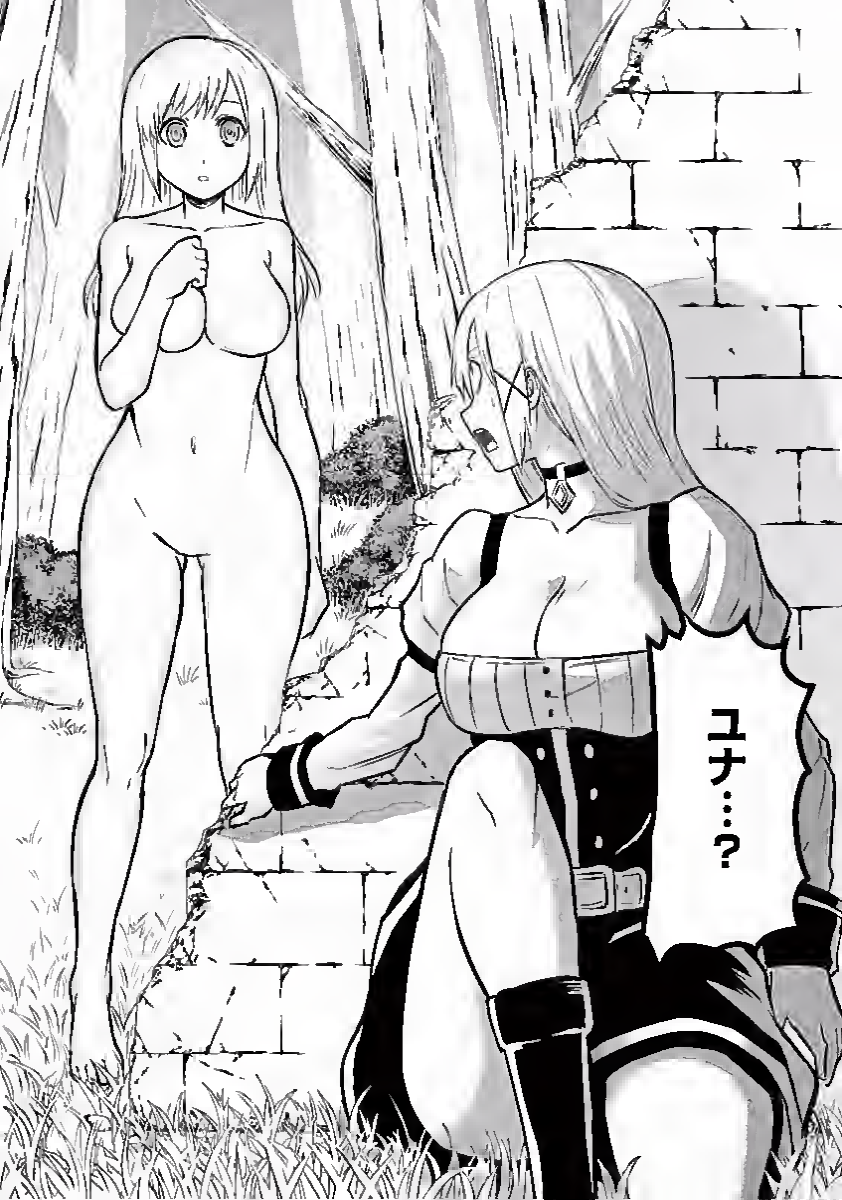
もう、これで…会えなくなるかも…
しれないんだね…
はあ…？
んなわけねーだろ！


今度は必ず…
救ってやるよ。


だから、
安心して待ってろ。

うん…
待ってるよ…

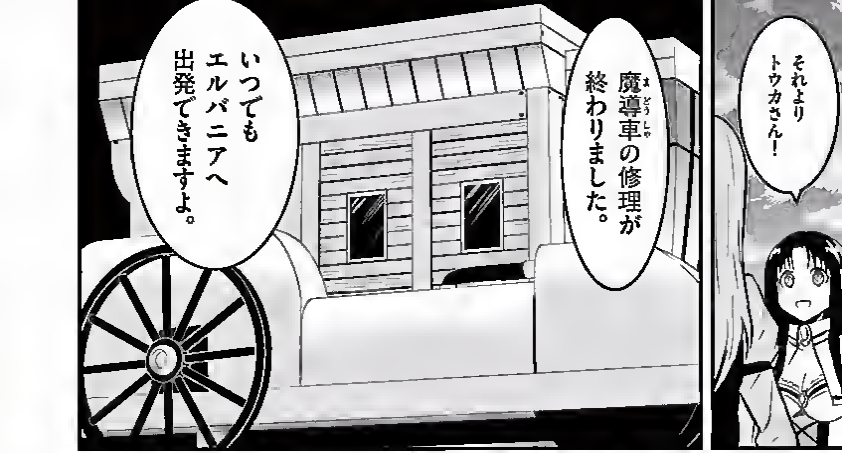

…
現実…
だよな…


ユナ…？

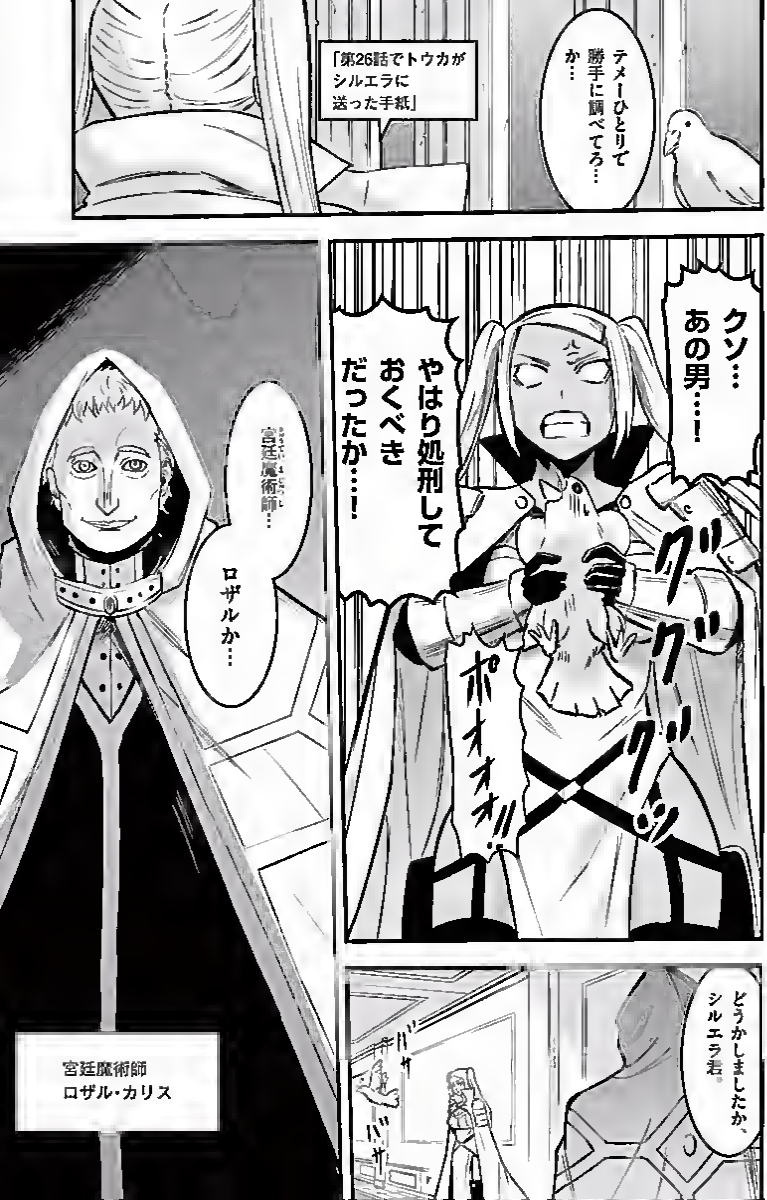
え…
うそ…
もしかして
見えてるの!?
あ…
ああ…
まさかユナの意識が
見えるようになったのか…?
ズ
ボ
触れないし…
ちょっと…!
急に触ろうとしないでよ…!

トウカ殿ー!!
うう…
ほぼ裸の女たちがピーしてピーしてピーしてるぞ…?
アンリ!
マルグリット!
ミリィ!
3人とも
無事だったのか!

工房が襲撃されてるって
敵から
聞いたんだが…
おお…
トウカ殿も
襲われていたのか!
こちらも先程
すべて
倒したところだ。
頭部が魔晶石を
破壊しな!
ほっとくと
暴術で
操られちまう
からね!
なんだよ…
心配して損したぜ…


それより
トウカさん！
魔導車の修理が
終わりました。
いつでも
エルバニアへ
出発できますよ。

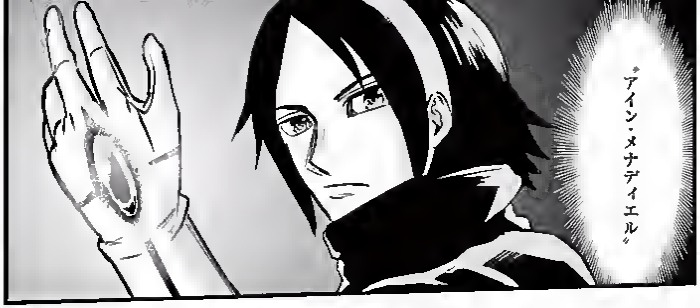
同時刻――
「ファロム王国王都」

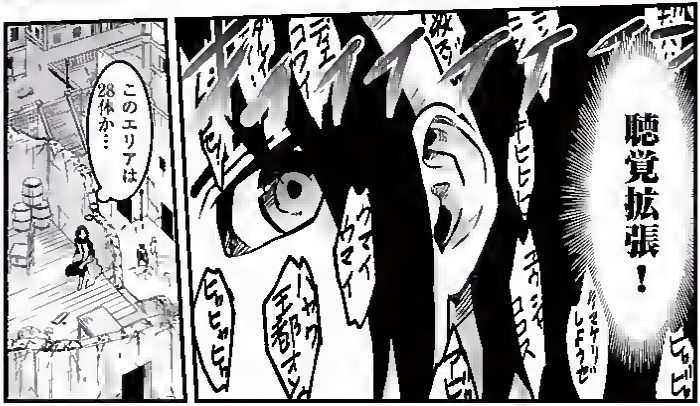

「第26話でトウカがシルエラに送った手紙」
テメーひとりで勝手に調べてろ…か…
クソ…あの男…！
やはり処刑しておくべきだったか…！
グッ
グッ
グッ
ポオオオ!!
宮廷魔術師…
ロザルか…
宮廷魔術師
ロザル・カリス
どうかしましたか、シルエラ君。
バサ
バサ

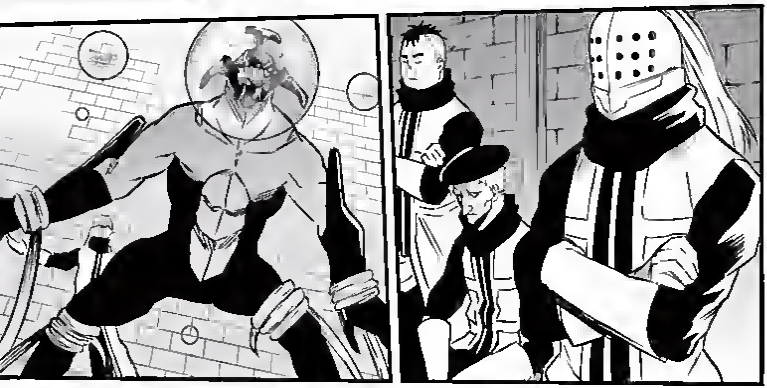
――ユナたちの魔人化まで、残り「14時間」

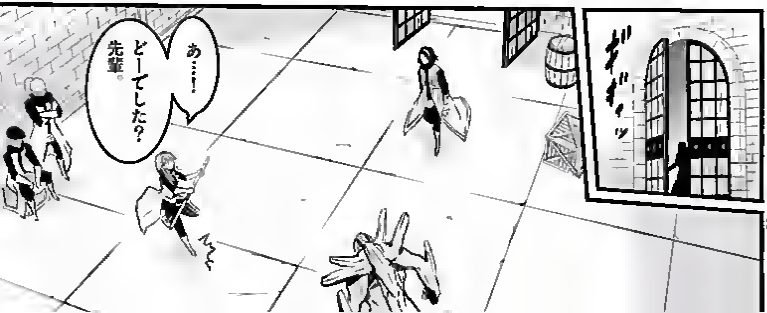
第48話 ▶ 魔術戦士隊
エルバニア

ギャアッ
ギャギャ
ギャハハッ
ギャハハッ
ズン
ズン


"アイン・メナディエル"


聴覚拡張！
このエリアは28体か…

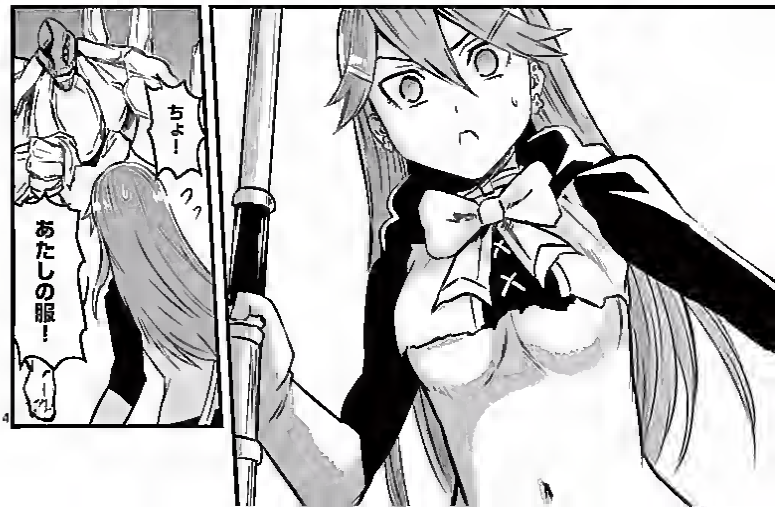



ぎぎぎぎッ
あ……！
どーでした？先輩。

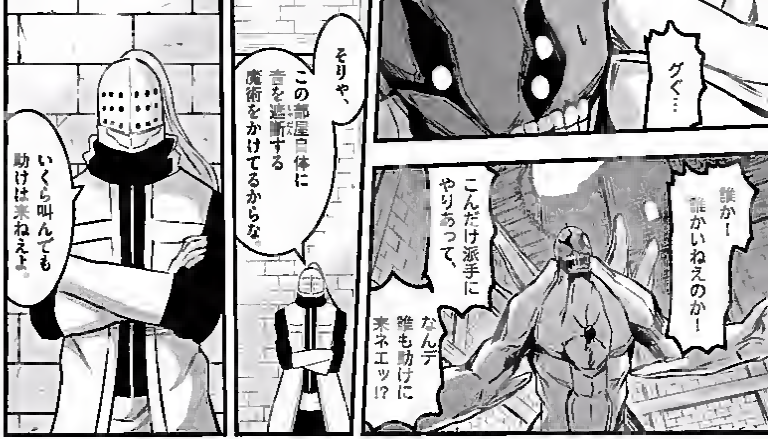
今この場にいる
屍術師は、
ディエゴ、
そして鼻水の旦那と
呼ばれる二人――
声を聞く限り
街に600前後、
遺跡に400前後の
悪魔もいる。
これだけの規模の
悪魔の巣は
3年前以来だ。

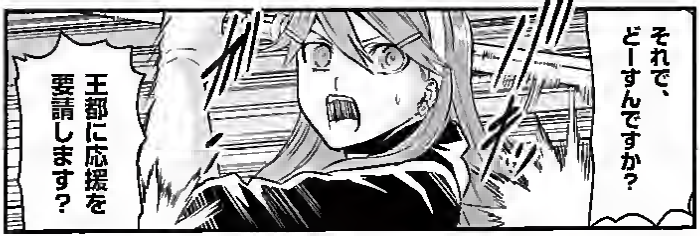
それと遺跡の方では
人の声も多く聞こえた。
恐らく悪魔共の
食糧として
捕まってる人々が
いるんだろう。

ええ！
想像以上に
ヤバいじゃない
ですか！


ちょ！
あたしの服！

ありえないんですけど！
このエロ悪魔！
オ…
オレの岩石化したカラダが…
それなのに何も考えず真っ向勝負なんて…
やっぱ悪魔ってバカばっかですよね。
あたしは炎と氷の魔術の使い手…
そりゃ熱して冷ませばもろくもなるでしょ？


グく…
誰か！誰かいねえのか！
こんだけ派手にやりあって、
なんデ誰も助けに来ネエッ!?
そりゃ、この部屋自体に音を遮断する魔術をかけてるからな
いくら叫んでも助けは来ねえよ。


それで、どーすんですか？
王都に応援を要請します？

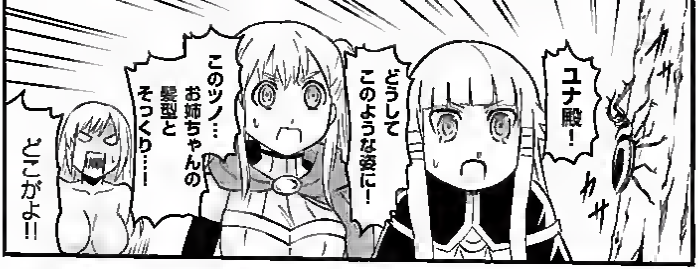
大量の悪魔はどうしようもないからね。
ただし、任務を終えてからだ。
僕たち魔術戦士隊の専門は、潜入と暗殺。

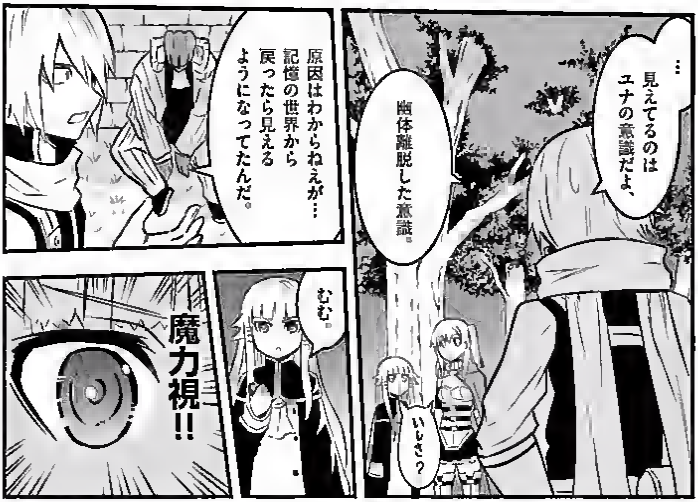
こいつらの頭は僕らが殺る。

ちょ…
もう少しで倒せそうだったんですけど！
何かっこつけて部下の手柄奪ってんすか!?
あ…
す…すまん！

いや…俺 戻るつもりねーんだけど…
いいから早くアンリちゃんに頼んで！

憑依屍術！
パアアアアッ
クソ…
またこの身体かよ…
トウカ
ユナの肉体→勇者の肉体
ソーマの雫２本使用
魔力レベル１→７
よーやく気持ち悪いのが出ててくれたわね。
無理に戻す必要ねーじゃねえか。
お前の姿がまた見えなくなる可能性だってあったんだぞ！
見えてるみたいだしいーじゃない。
あの…さっきからどなたと話してるんですか？
え？ああ…
そこにユナがいるんだ。


ユナ殿！
どうして
このような姿に！
このツノ…
お姉ちゃんの
髪型と
そっくり…！
どこがよ!!

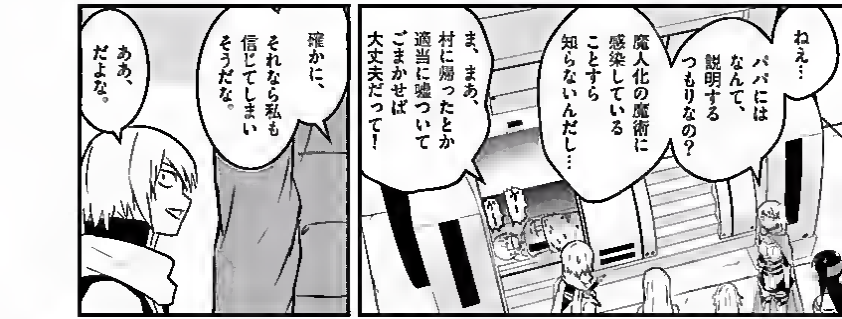

…
見えてるのは
ユナの意識だよ、
肉体離脱した意識。
いいさっ？
原因はわからねえが…
記憶の世界から
戻ったら見える
ようになってたんだ。
むむ。
魔力視!!

何かいるな。
これが
ユナ殿の意識か。
ふむ、
どうやらトウカ殿が、
ユナ殿の身体に
憑依し続けた結果、
精神同士に
繋がりが
できてしまった
ようだな。
繋がり？

うむ。
トウカ殿の記憶の世界にユナ殿が巻き込まれたのも…
魔力の糸が見える。
すべてその繋がりができたことが原因だろう。
そして今度はユナ殿の意識が認識できるようになったのも…

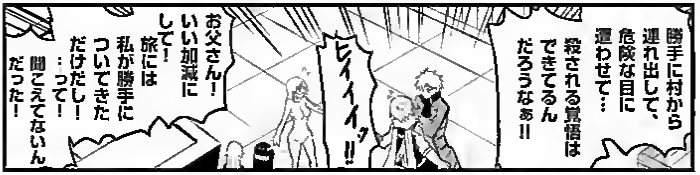
俺たち心が繋がり合ってるってよ。なんだか照れちまうな。
え…？普通に気持ち悪いんだけど…
えぇー いいなぁ！あたしもお姉ちゃんと繋がりたい！
ちょっと！勘弁してよ！これ以上私の身体を好き勝手されるのは誰だろうとごめんだわ！
じゃあ次はお前が憑依しろよ。
はあ？誰かが憑依しなけりゃまた化け物みたいになっちまうんだぜ？
このまま遠隔屍術で制御し続けるとなると、
アンリの魔力がいくらあっても足りないだろうしよ。
じゃあ、
暴れないよう縛って閉じ込めればいいでしょ。
ちょっと…
ては、遠隔屍術を解除するぞ。
おう。いつでもいいぜ。

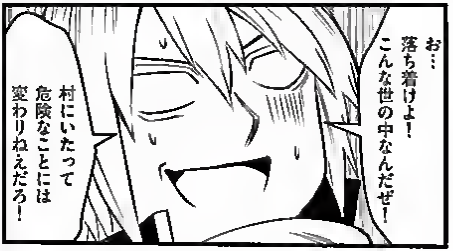
なんなのよ
この鎖…
これは
ないんじゃない…？
ガシャ
ガシャ
ブー!!
ブー!!
そうだな。
これだけだと
ユナなら
引きちぎって
しまいそうだ。
何か分厚い
鉄の箱でもないか
じいさんに
聞いてみよう。
逆よ！ 逆!!
縛りすぎだって
言ってんのよ!!


ねぇ…
パパには
なんて、
説明する
つもりなの？
魔人化の魔術に
感染している
ことすら
知らないんだし…
ま、まあ、
村に帰ったとか
適当に嘘ついて
ごまかせば
大丈夫だって！
確かに、
それなら私も
信じてしまい
そうだな。
ああ、
だよな。

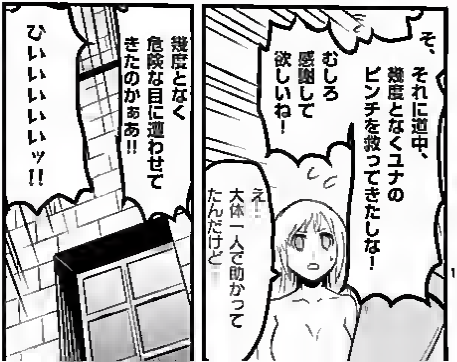
え？

こいつが
今までユナのフリを
していただとォ!?
グッグッグッ
ヒィィィッ!!


勝手に村から
連れ出して、
危険な目に
遭わせて…
殺される覚悟は
できてるん
だろうなぁ!!
ヒィィィッ!!
お父さん!
いい加減に
して!
旅には
私が勝手に
ついてきた
だけだし!
…って!
聞こえてないん
だった!


お…
落ち着けよ!
こんな世の中なんだぜ!
村にいたって
危険なことには
変わりねえだろ!

はッ…!
さっきから
黙って
聞いてりゃ…
アンタに
うちの弟子を
責める資格はないよ。


そ、
それに道中、
幾度となくユナの
ピンチを救ってきたしな!
むしろ
感謝して
欲しいね!
え…
大体一人で助かって
たんだけど…
幾度となく
危険な目に遭わせて
きたのかぁあ!!
ひいいいいいッ!!

娘を置いて旅立ったあんたも同罪だろう？
ヒュー！やっぱり師匠は俺の味方！そーだ！そーだ！コイツが悪い！コイツがすべての元凶だ！
ふん…賞金首が罪を責める資格はあるのか？
そ、そうだよな！よし！師匠！俺を助けるために今すぐ罪を償ってくるんだ！
もういい。そいつは今すぐ殺しな。
確かに…ユナを置き去りにしたのは事実。
それは私の責任だな。
だが、君がユナを危険に晒したことも、ユナの身体に入り変態行為を働いたことも紛れもない事実なのだ。
親として簡単に許すわけにはいかない。
どのみち、ユナは危険な目に遭っていたことだろう。
…
だから…一つ条件を出す…
それを呑めば君の行為もすべて水に流そう…
条件…？

今すぐオッパイ教に改宗しなさい。

ドーン

どーせそんなことだろうと思ったわよ！この変態親父!!

いや、別にフトモモは好きだけど、オッパイだって好きだぜ。

男だから当たり前じゃねーか。ホントはどうでもいいけどな…

そうか…

ならば共におっぱ…

娘を救おう…

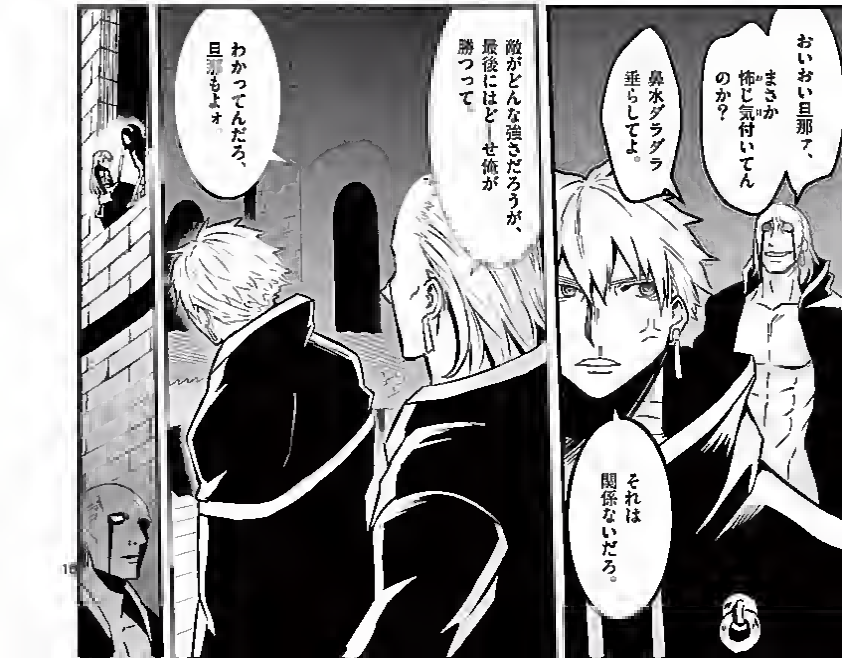
ガシッ

ああ、共にフトモモ…

ユナを救おう…

元に戻ったら真っ先にこいつらを始末しなきゃ。

エセルが裏切り…
ネフは倒され
おそらく魔晶石は
奪われる…
これでは
やつらの戦力を
上げるだけだ。
ディエゴ、
これ以上
無計画に刺客を
送るのはやめろ。


おいおい旦那ァ、
まさか怖じ気付いてんのか？
鼻水ダラダラ垂らしてよ。
敵がどんな強さだろうが、
最後にはどーせ俺が勝つって。
わかってんだろ、
旦那もよォ
それは関係ないだろ。

ブン
ブン
ガラ
ガラ
外した…！
クソ…
ちょーどいい、
そいつらを使って
証明してやるよ。
そしたら
旦那の鼻水も
収まんだろ？
イズ
それは
関係ないだろ。

「奇襲失敗」

今日から
私はこの町の
町長を一任された！

私の出世街道は
ここから。

この町を
大陸一に発展させ、
私はさらなる富を
手に入れるのだ！

第49話▶町長の財産

診療所…

学校…

娯楽施設…

ここは
何もかもが
不足してる…

金はかかるが
仕方がない…
これは先行投資だ。

武器商人の
成金野郎が…

人の死で
金儲けしたヤツが
町長だなんて
認めねえぞ！

治安も最悪だ。

このままでは
私の財産まで脅かされ
かねない。

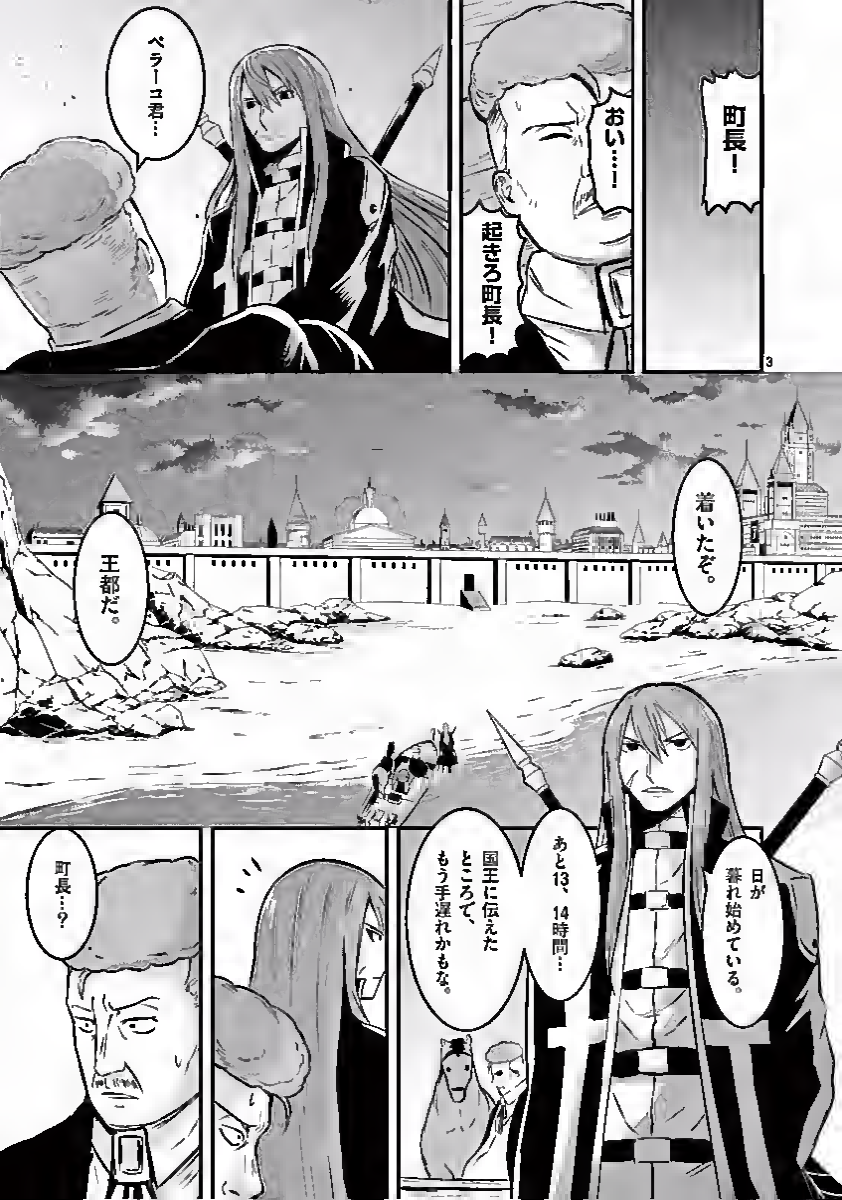
町を壁で囲み、
私自ら見回りをすれば
不足はあるまい！

なんだよ、
あいつ！

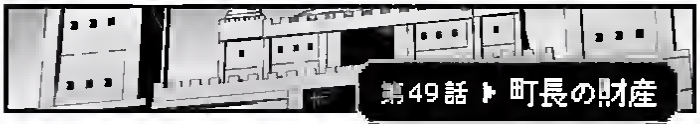
…

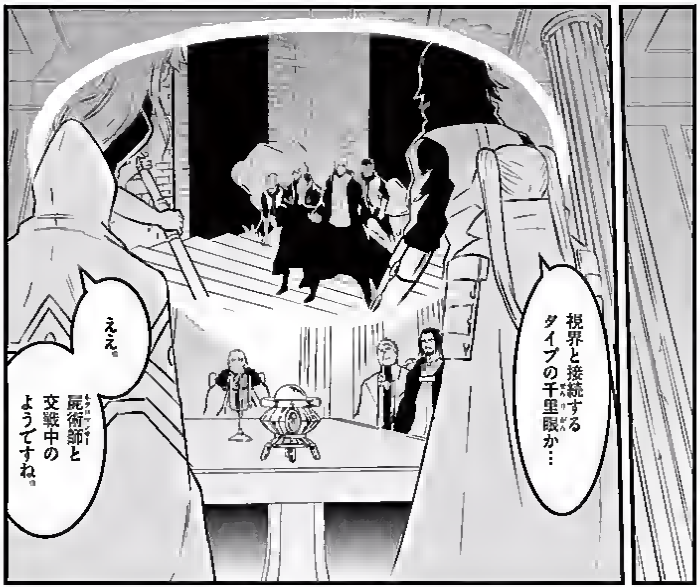
町長。

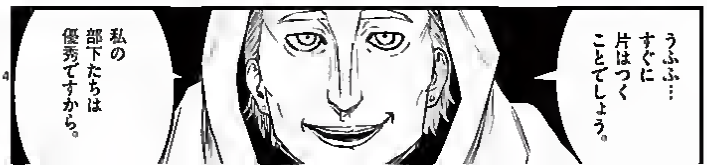
これ、町長へのお礼！
町長の建てた学校でおともだちができたから！
あの温泉！
あれのおかげで最近 娘の調子が良くてのう。
ガヤ
ガヤ
バーンズさんのおかげで町は豊かになるばかり
ありがたいねえ。
…
…
いつからだ…なぜ彼らは私を落ちようになったんだ…？
私は自分の財産を増やすために、この町を利用していただけなのに…
町長！いっしょに飲もうぜ！
町長！こっちこっち！
町長…
しかしこれはなかなか…
悪くない気分だ…
町長！
町長！
町長…！


町長！
おい……！
起きろ町長！
ベラーユ君…
3
着いたぞ。
王都だ。
日が暮れ始めている。
あと13、14時間…
国王に伝えたところで、もう手遅れかもな。
町長…？

私は…
なんて
愚かだったんだ…


第49話▶町長の財産

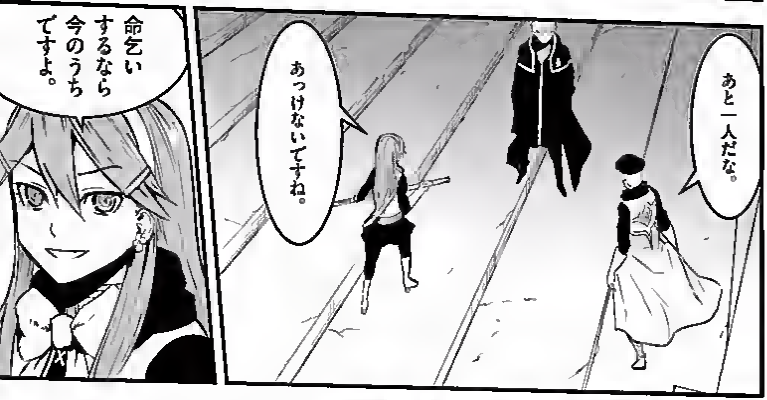

視界と接続する
タイプの千里眼か…
ええ。
屍術師と
交戦中の
ようですね。

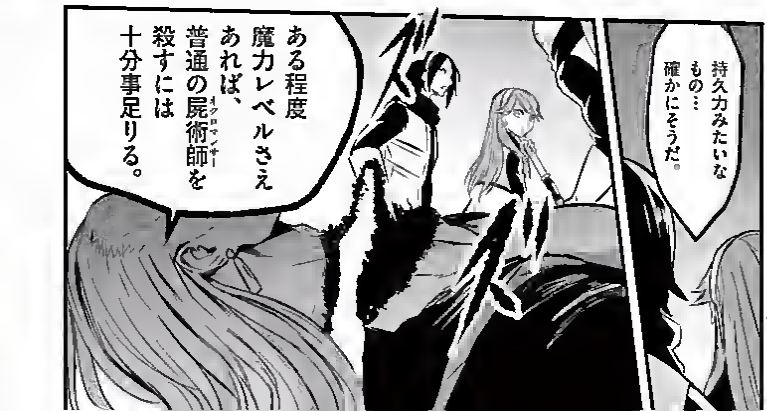

うふふ…
すぐに
片はつく
ことでしょう。
私の
部下たちは
優秀ですから。

オオオオオ
その服装…
ファロムの
魔術師部隊か…
3年前は
同胞が世話に
なったな。
あの男が
世話になったと
言ったろ？
真っ向勝負は
こちらが
不利ですよ。
どーすんですか？
相手は屍術師…
魔力レベルは
遥かに上…

僕たち魔術戦士隊は、
何人もの魔術師を
始末してきた
ポンッ
魔力レベルは
持久力みたいなもの…
長期戦は不利だ。
だが、
僕の魔術は、
一撃必殺の
光の剣。

終わりだ、
屍術師（ネクロマンサー）。


あと一人だな。
あっけないですね。
命乞いするなら今のうちですよ。


持久力みたいなもの…
確かにそうだ。
ある程度魔力レベルさえあれば、普通の屍術師（ネクロマンサー）を殺すには十分事足りる。

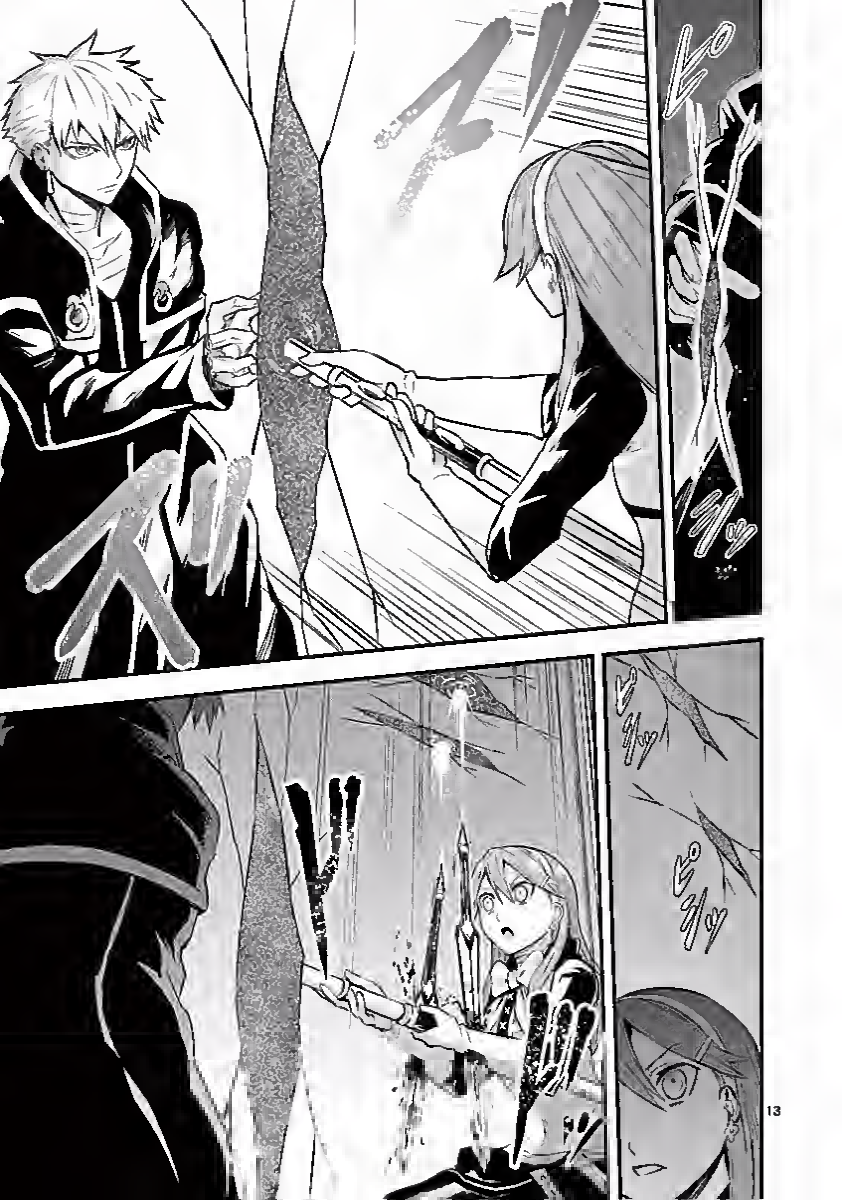
だけどよォ、
この通り、
どうやっても
持久戦に
なっちまうんだよ。
とりあえず、
1匹目だ。

クソ！
マジかよ！
駄目です！
貫通してます！
もう
助からない……
そのありえない
再生能力…
それはまるで…
ああ。
四大魔公の
力(よんだいまこう)だ。
この中には
その一体の死体が
入っている。
こいつを
魔晶石代わりにすりゃ、
四大魔公の再生能力を
使い放題ってわけさ。

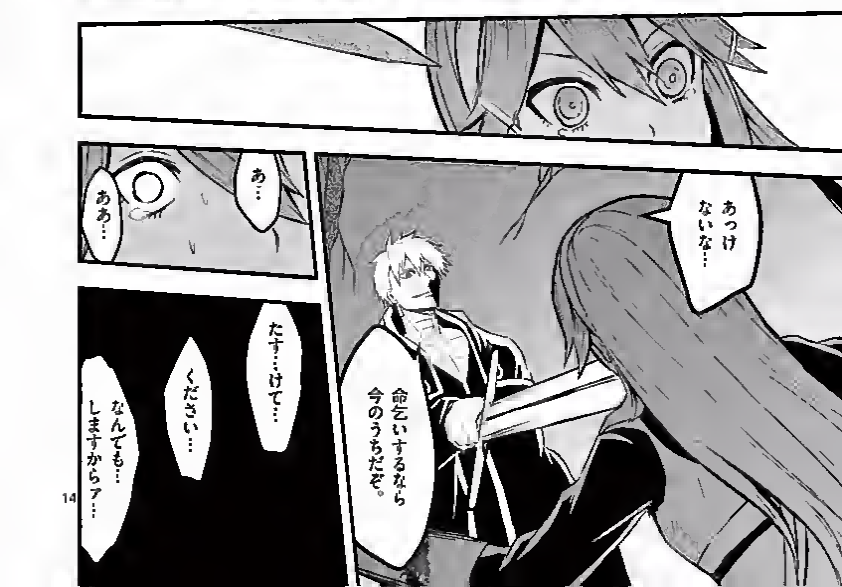
解説どうも。
これでお前の再生能力は封じた。
ブラッドワイヤーナックルぅ…

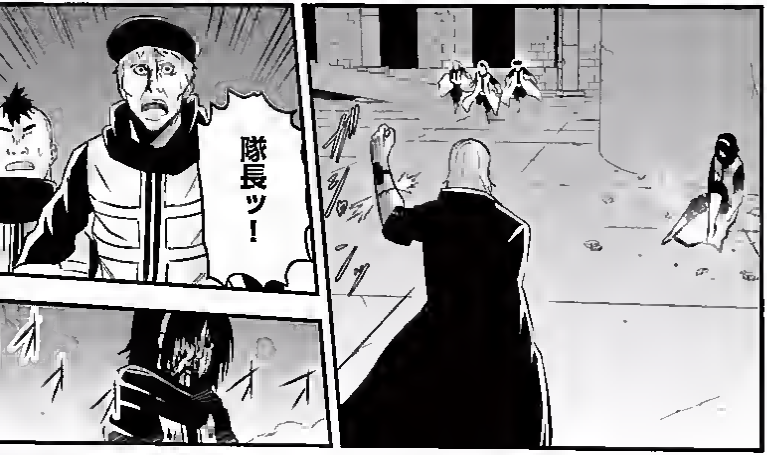
グ…
クソッ…
街で手に入れた岩石化の魔術がなければ死んでた…
悪いな。
血の魔術の方は四大魔公の魔術じゃねぇんだ。
にしてもまだ生きてんだなあ！
お前も不死身の魔術を持ってたりすんのかァ？
ヒャハハハハ！

んじゃあ、
魔力が尽きるまで
ぶん殴ってやんねえとなァ！
ガン
ガン
ガン
持久力勝負と
いこうぜェ!!
ヒャハハハハハッ!!
隊長!!
今、助けに
行きます！
ちょっと、
どいてくださいよ。
雑魚に
構ってる場合じゃ
ないんですけど！
どけって
言ってんの
ですよ！
このハナタレ
ヤローッ!!


ピ
ピシッ
ピシッ
ピシッ

ヒイイイイ…ッ!!
なんで!! どうなってんの!?


あっけないな…
命乞いするなら今のうちだぞ。
あ…
ああ…
たす…けて…
ください…
なんでも…しますからァ…

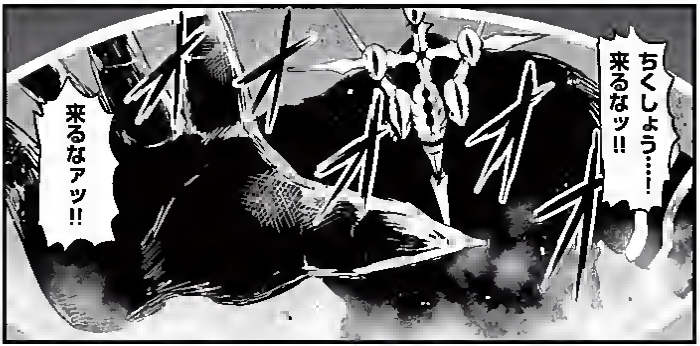

隊長ッ！

隊長がこんなザマなのに…
それでも立ち向かってくるなんて、
勇敢な部下たちだなぁ。
泣けてくるぜ。

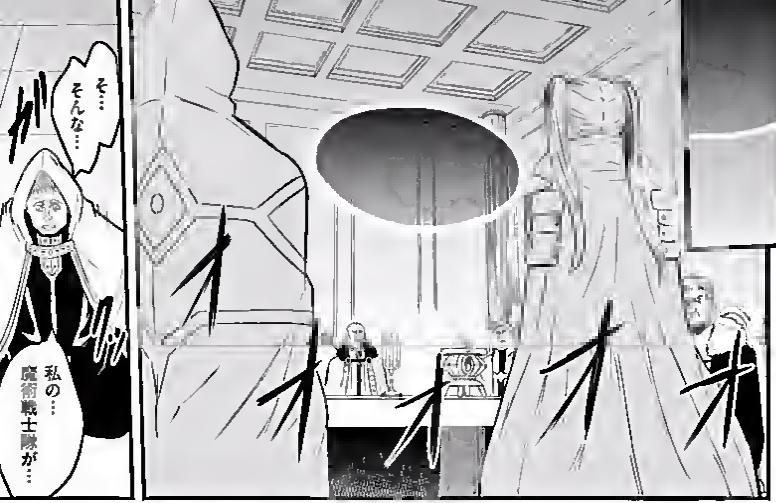
その勇敢さを讃えて、
こっちも本気でやってやるよ。
アイン・ビフロンス
『遠隔屍術』

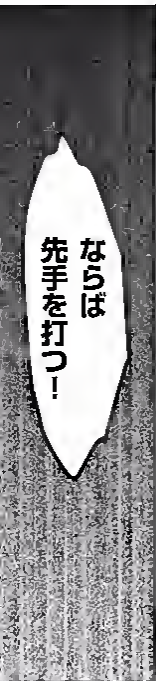
四大魔公

さあ、
お前らも
泣きながら
死んでくれや。
『ベルテクス』



グシャッ


そ…
そんな…
私の…
魔術戦士隊が…


ならば
先手を打つ！

四大魔公…
地獄の門の解放と
共に復活している
可能性は考えたが、
よもや死体となって
我々の前に
立ちふさがろうとは。

あの人型の悪魔…
ネクロマンサーは
3年前に
滅ぼしたはずじゃ
なかったのか！
なぜ、二体も
生き残っている！
さらには
大量の悪魔まで
従えている…
王都に
攻め入られれば
こちらもただでは
済まないでしょう…

諸侯に通達し、討伐軍を編成するのだ！！

エルバニアへ進軍し、ヤツらを根絶やしにするぞッ！

おい！勝手に入るな！

今は会議中だ！

陛下！すぐにでも進軍を！

もう時間がありません！

そなたは…モアランの町長、ドット・バーンズか…

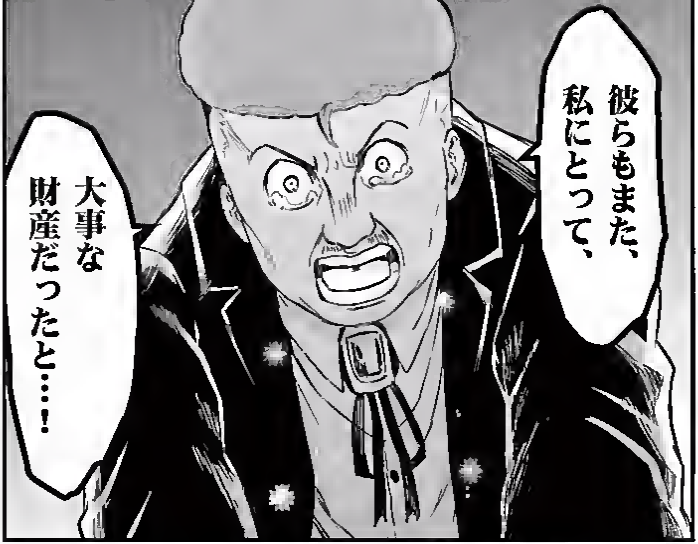
それに…もしや、双槍のベラーコ…！

双槍のベラーコ…!?
悪魔を同時に
100体倒した男…!
ザワ
ザワ
いや、私は上級悪魔を
100体
倒したと聞いたぞ!

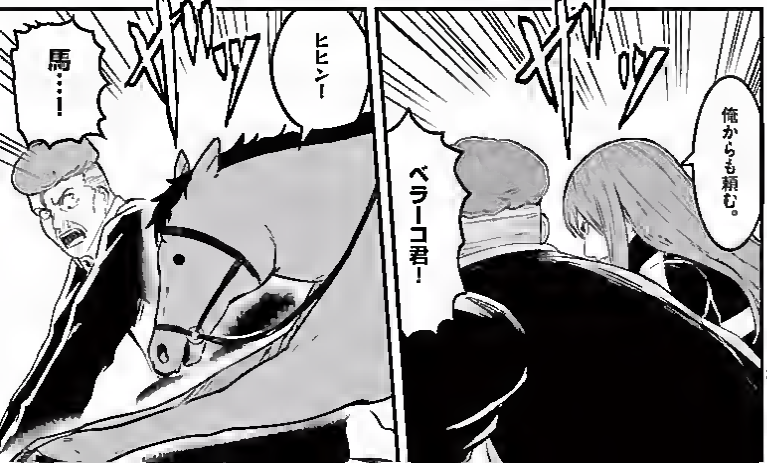
時間がないとは
どういうことだ。
屍術師が従える
悪魔によって…
私の町の住民たちが、
化け物に変えられようと
しているのです。
時間はあと
半日あるかないか…

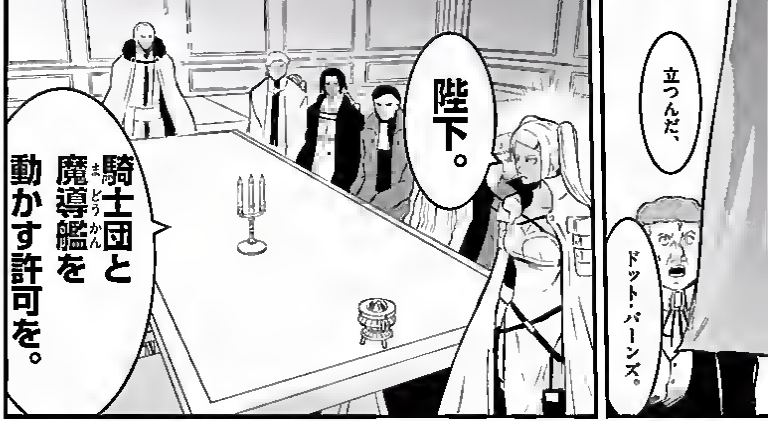
勇者様が連中を
倒すために
動いてはくれていますが、
エルバニアが
悪魔の巣窟ならば、
彼らだけで
なんとかできるとは…
そうはいっても
軍を編成するまで
4、5日かかる。
気の毒だが、
町の者たちのことは
死んだと諦めていただくしか…

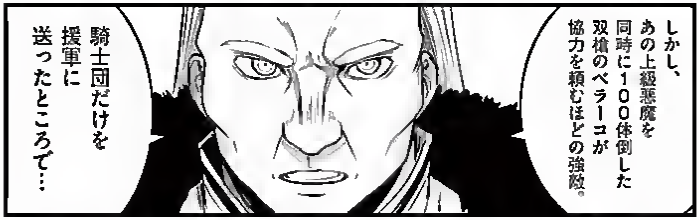
お願いします！
そこをどうか！
せめて勇者様と共に
戦う仲間だけでも……！
勇者シオンの
もとには
伝令を送りますよ。
討伐軍を
待つようにね。
彼に無駄死に
されては
困りますから。
お願いします！
なんだってします！
金だって
いくらでも出します！
町の者たちを
救ってください！
私は…
町長のクセに
自分の命と、
自分の財産の
ことしか
考えないクズです。
半日前だって…
自分だけ逃げ、
助かろうとしていた。
パッ
町の者たちは
私を町長として讃め…
慕ってくれていた
というのに……！
そう…
私は…
あまりに
愚かでした…
…今になって
ようやく
気づいたんです……！

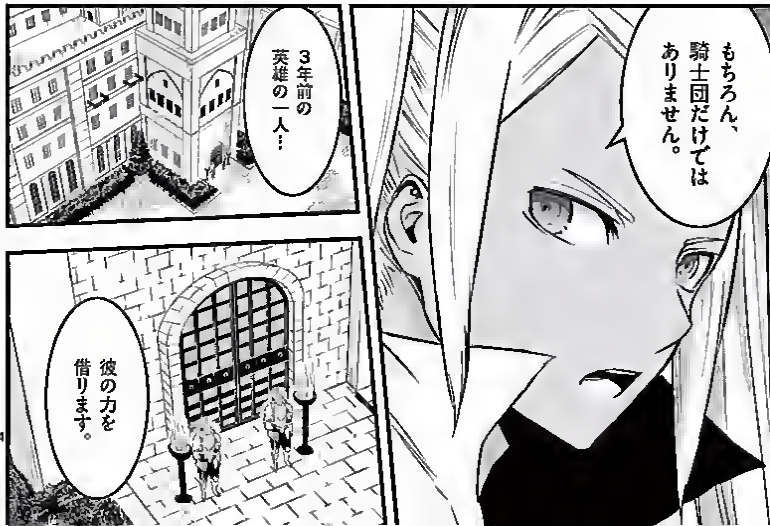

彼らもまた、
私にとって、
大事な
財産だったと…！

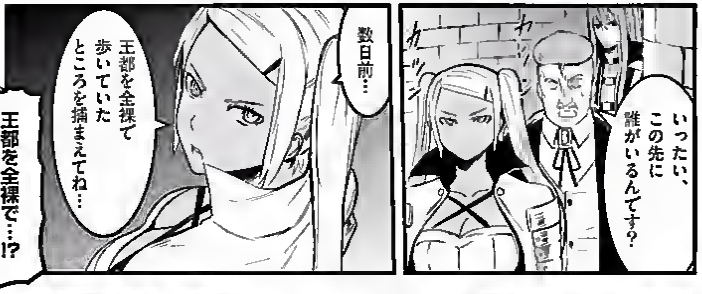
私は…
彼らを
失いたく
ない…！

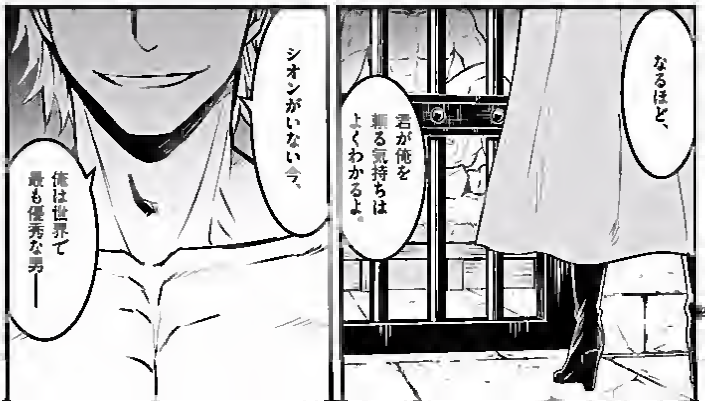

俺からも頼む。
ベラーコ君！
ヒヒンー
馬…！


立つんだ、
ドット・バーンズ。
陛下。
騎士団と魔導艦を動かす許可を。


しかし、あの上級悪魔を同時に100体倒した双槍のベラーコが協力を頼むほどの強敵。
騎士団だけを援軍に送ったところで…

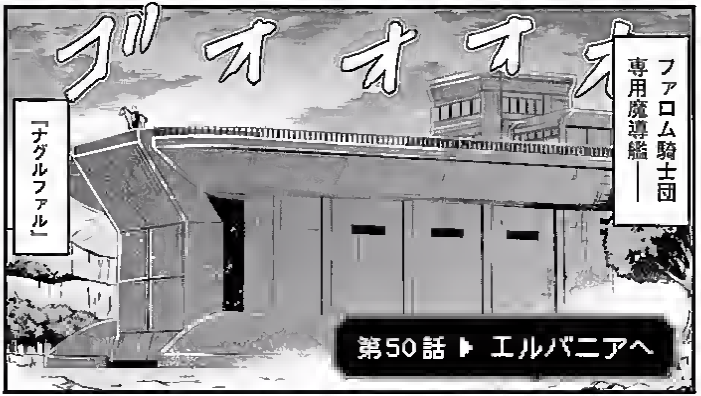

もちろん、騎士団だけではありません。
3年前の英雄の一人…
彼の力を借ります。

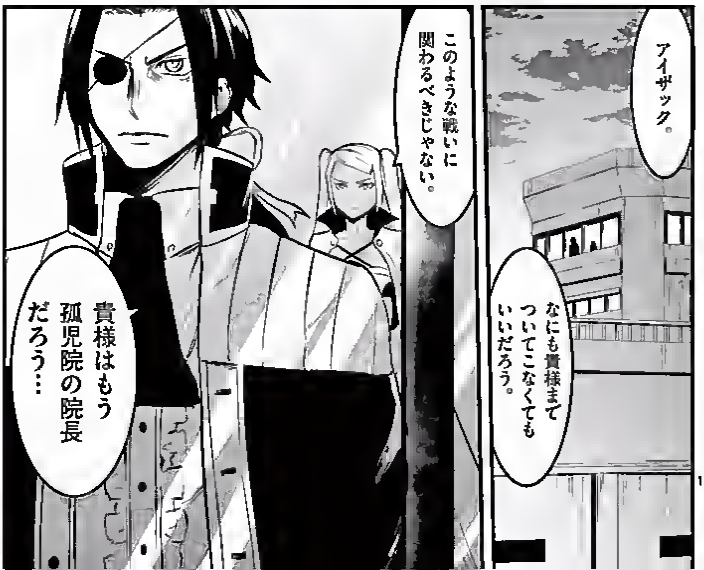

いったい、この先に誰がいるんです？
数日前…
王都を全裸で歩いていたところを捕まえてね…
王都を全裸で…!?


なるほど、
君が俺を斬る気持ちはよくわかるよ。
シオンがいない今。
俺は世界で最も優秀な男――

――ユナたちの魔人化まで、残り「13時間」

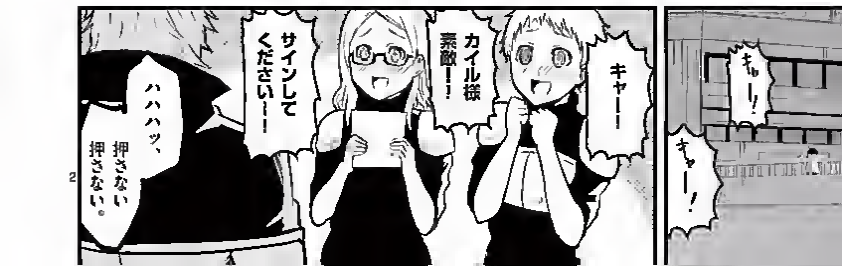
ゴオオオオ


ゴオオオオ
ファロム騎士団
専用魔導艦――
「ナグルファル」
第50話▶エルバニアへ

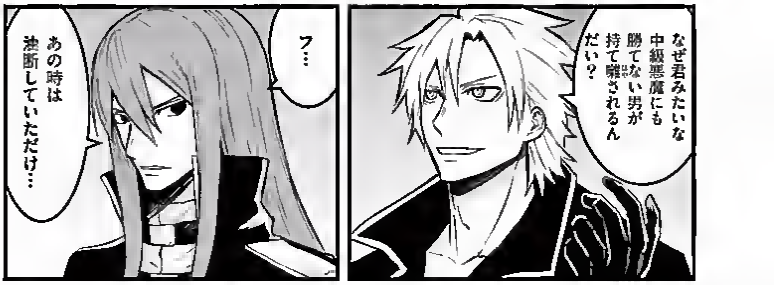

アイザック。
なにも貴様まで
ついてこなくても
いいだろう。
このような戦いに
関わるべきじゃない。
貴様はもう
孤児院の院長
だろう…

今日からは艦長も兼任する。
ドン
妙に様になってるけど艦長は私だ!!
わからんヤツだな。
姫様の旅立ちに協力しておいて…
危険もすべて承知の上ではなかったのか。
すまない。
姫様がご無事なのか、心配で心配でたまらないんだ。

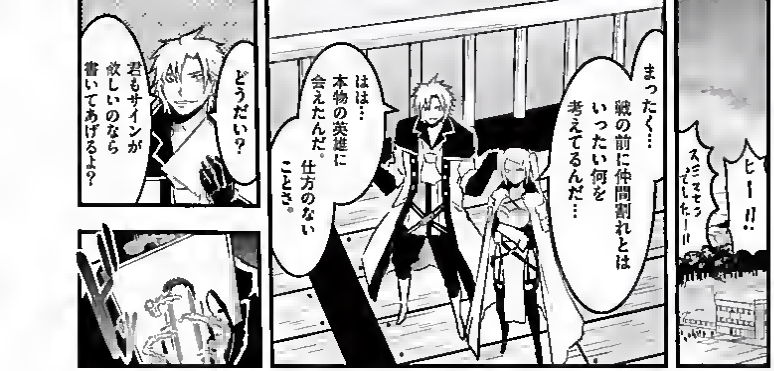
姫様には私のすべてを教えている。
姫様なら立派に戦っていけると信じている。
だが、それでも心配で心配で夜もずっと眠れないんだ!
頼む! ついていくのはこれっきりにするから! これっきりにするからァ!
わかった!
わかったから放せ!

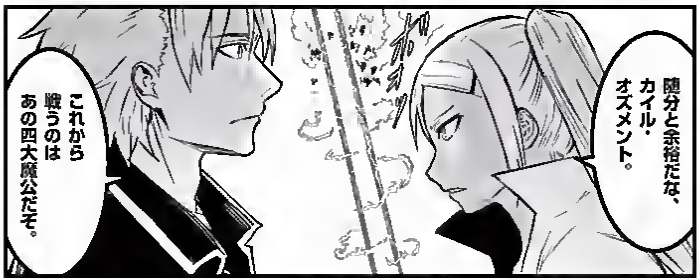

キャー!
キャー!
キャー!
カイル様素敵!!
サインしてください!!
ハハハッ、押さない押さない。

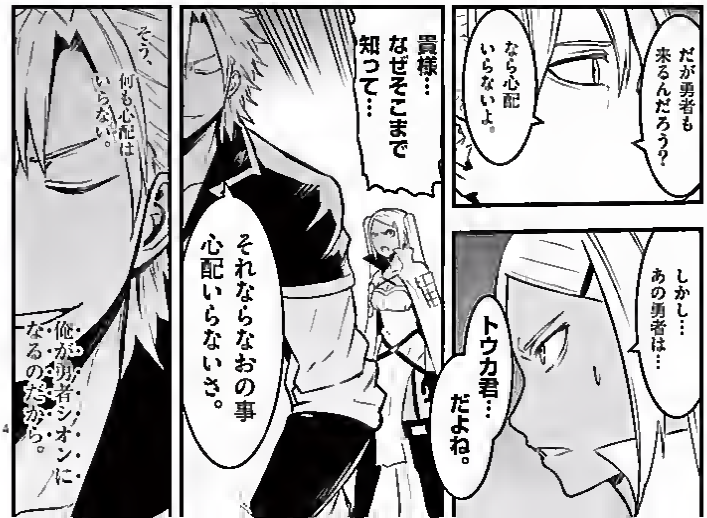
ちゃんとみんなにサインしてあげるから！
時間はたっぷりあるからね。
うおおお!!
ベラーコさん！
伝説の冒険者！
まさか本物に出会えるなんて！
ずっと憧れてました！
サインして！！
ワーワーワー
納得いかないね…


なぜ君みたいな中級悪魔にも勝てない男が持て囃されるんだい？
フ…
あの時は油断していただけ…

そうだ！上級悪魔を同時に100体倒したベラーコさんが中級悪魔に負けるわけないだろ！
ベラーコさんに謝罪して！
ワー
ちょっと、あの英雄のカイル様になんて態度なの!?
そっちこそ謝りなさいよ！
おい！貴様ら！何をやっている!!
散れ!!
散れ!!

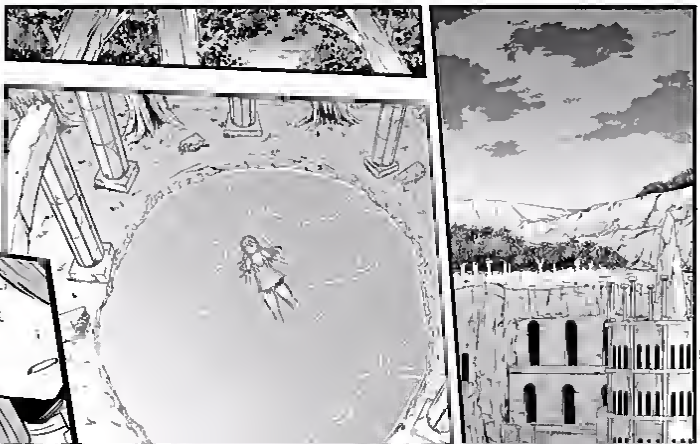

ヒー!!
まったく…
城の前に仲間割れとは
いったい何を
考えてるんだ…
はは…
本物の英雄に
会えたんだ、仕方のない
ことさ。
どうだい？
君もザインが
欲しいのなら
書いてあげるよ？


随分と余裕だな、
カイル・
オズメント。
これから
戦うのは
あの四大魔公だぞ。


だが勇者も
来るんだろう？
なら心配
いらないよ。
貴様…
なぜそこまで
知って…
それならなおの事
心配いらないさ。
そう、何も心配は
いらない。
俺が勇者シオンに
なるのだから。
しかし…
あの勇者は…
トウカ君…
だよね。

再会が楽しみだよ、
トウカ。スコット君。

君も、アンリも、
他の屍術師（ネクロマンサー）も、
四大魔公も…
全部俺が
殺してやるさ。


うー！

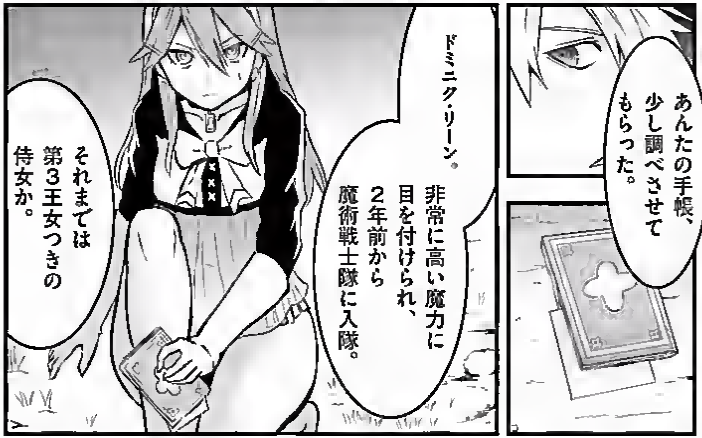
あたし…
生きて…
あれ…
ヒイイイイ!!
助けてくれ…
…ってなんなのよ!
この格好!!
ありえないんですけど!!
あの娘術師…
あたしの傷を治して…
こんな格好させて…
何が目的なの…?
気がついたか。

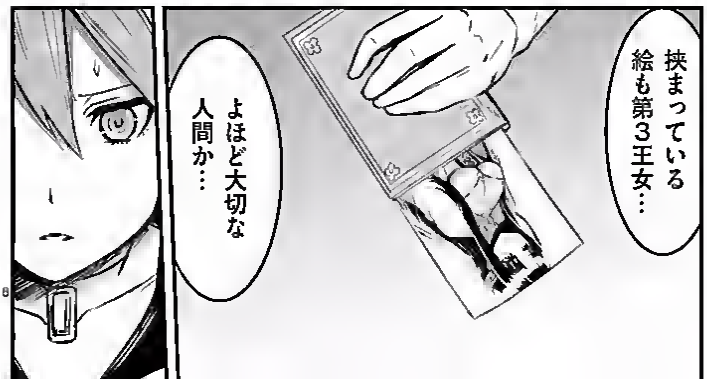
水神の聖衣…
その服装でなければ、癒やしの泉の効果は得られないんだ。
…悪いな。
安心しろ、裸は見ていない。
…着替えさせる時は目を閉じていた。
着替えはそこにある。
さっさとそれを着て消えろ。

消えろって…！
あんたは屍術師…
人型の悪魔！
人間は敵なんでしょ！
傷を治して、逃げろって！
意味がわかんないんですけど！
おい…！着替えろと言っただろ…！

…ディエゴに捕まっていれば、あんたの想像通りの結果になっただろうな。
拷問にかけて引き出せるだけ情報を引き出したのち殺される。
だが、俺は戦意を喪失した者まで殺すほど悪趣味じゃない。
俺には俺の行動理念がある。

でも…
どこに行けば…
これじゃ…
仲間を裏切って
あたしだけ
生き残った感じじゃん…
これで
戻ったら…
ロザルに
処刑される…
ドサッ


あんたの手帳、
少し調べさせて
もらった。
ドミニク・リーン。
非常に高い魔力に
目を付けられ、
2年前から
魔術戦士隊に入隊。
それまでは
第3王女つきの
侍女か。

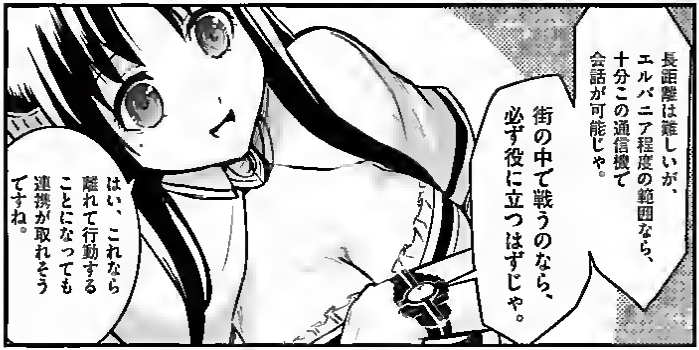

挟まっている
絵も第3王女…
よほど大切な
人間か…

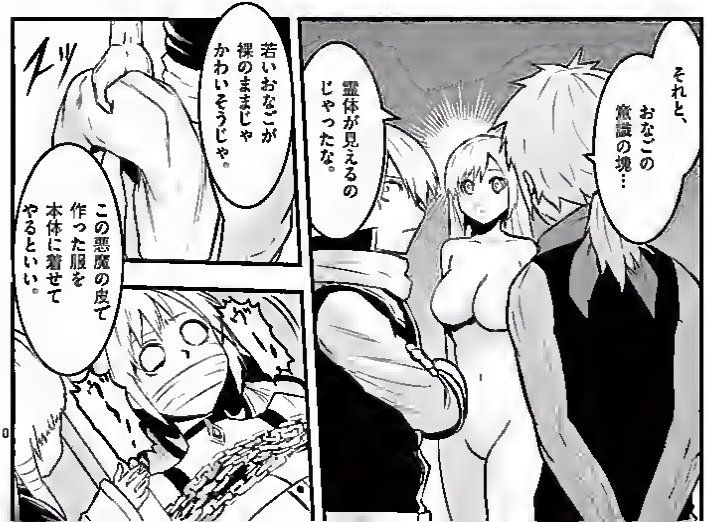
人の道を外れる覚悟があるなら、
居場所はあたえてやるさ。

ただし残るのなら、
今までのすべてを捨てろ。

もしもし、
こちらマルグリットです。
トウカさん聞こえてますか？

トウカさん！
聞こえてますか？
おお！
マジで聞こえてる！
すごいじゃろう、
わしの作った
魔導通信機は。


長距離は難しいが、
エルバニア程度の範囲なら、
十分この通信機で
会話が可能じゃ。
街の中で戦うのなら、
必ず役に立つはずじゃ。
はい、これなら
離れて行動する
ことになっても
連携が取れそう
ですね。


それと、
おなごの
意識の塊…
霊体が見えるのじゃったな。
若いおなごが
裸のままじゃ
かわいそうじゃ。
この悪魔の皮で
作った服を
本体に着せて
やるといい。

悪魔の皮は魔力を伝導する。

つまり、皮膚の一部として身体になじむ。

霊体にも服装が反映されとるはずじゃ。

これちょっといやらしくない…？

いやいやースゲー似合ってるぜ。

裸よりマシだけど…

じいさん…良い趣味してるな。

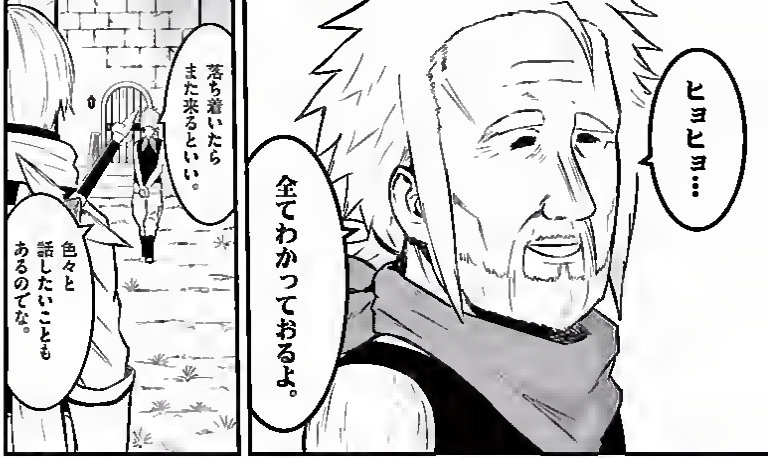
グッ

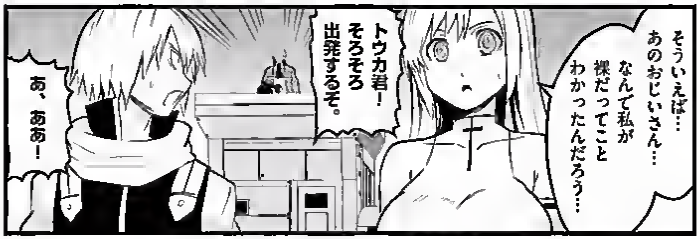
じいさんには、何から何まで世話になったな。

孫のためならお安い御用じゃ。

話…聞いてなかったのかよ…

あのな…じいさん…もうシオンは…


ヒョヒョ…
全てわかっておるよ。
落ち着いたらまた来るといい。
色々と話したいこともあるのでな。


そういえば…あのおじいさん…なんで私が裸だってことわかったんだろう…
トウカ君！そろそろ出発するぞ。
あ、ああ！

あたしは忠告したからね。
どうなっても知らないよ。

本気でエルバニアまで戦いに行くんだね。

ああ、
師匠とはここで
お別れの約束だったよな。
……
やれやれ、
トウカはあたしに
なついているからね。
あれこれ言って、
ついてこさせようと、
するんだろうけど
あたしゃは敵同士の間柄。
ここはいっそ鬼になって
突き放さないと。
よし！
出発だ！
ゴオオオオ
ちょ…
ちょっとおおおおッ!!!
ドドドドド
トウカ！
無言で去るなんて
そりゃあんまりじゃ
ないか！

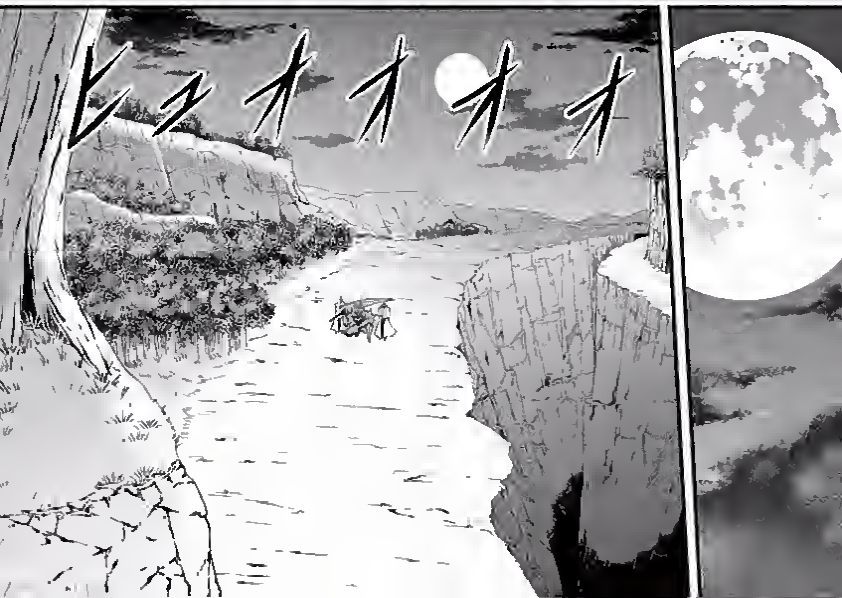
師匠ゲーット！
は？
!?

いやー、
どうやって
ついて来させようか
悩んだんだけどよー。
無言で去れば、
嫌われたかと不安になって、
追ってくるんじゃ
ねーかと思ってな。
正解だったぜ。
なんだかんだ言って、
師匠は俺に
なついているからなぁ。
な！
な！

さてと、
俺たちに
協力するコースか、
人質として
利用されるコース…
どっちがいい？

この…
この…
クソ弟子がああああ!!

お頭が攫われた!
ワタシたちはどうすれば…
茶でもどうじゃ?

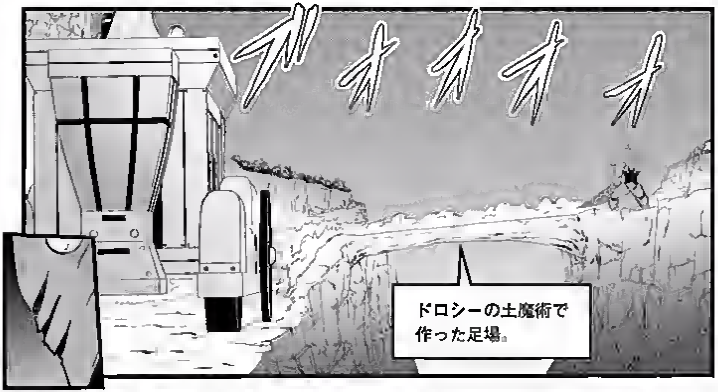

ヒュオオオオ

ククク…
エルバニアへ向かうのなら、勇者パーティは必ずここを通る。
エセルやネフじゃ役不足…
下手な小細工など必要ない。
オ・オ・オ・オ
力だ。
オレの深紅の大魔刀「エリゴル」の圧倒的破壊力でヤツらを葬る！
上級悪魔
ヘルムッド

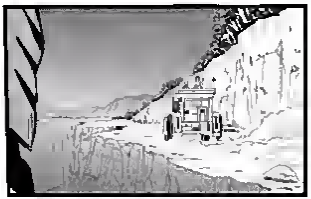
来たか…
ブオオオ
トウカさん！前方に悪魔がいます！
ゴオオオオオ
ドロシー！マルグリット！手筈通り頼むぜ！

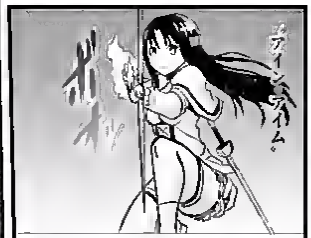
死ね！
墨消しパーティ！
魔導車ごとまとめて
粉砕してくれる！
形状変形…
〝壁〟!!

ブオオオ
やったか…
フン…

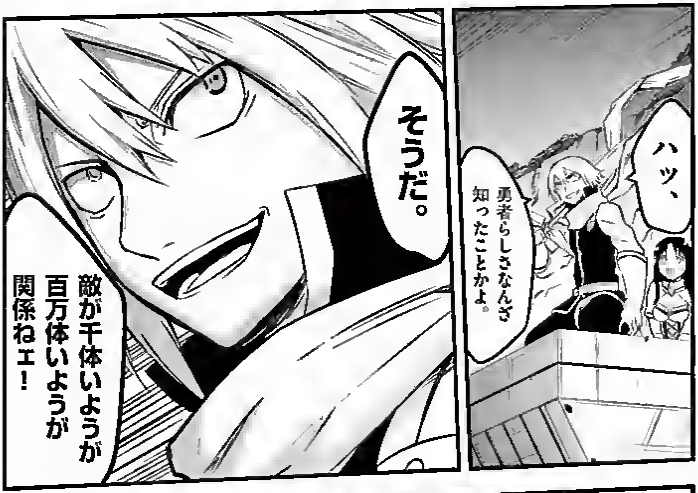

ブオオオオ
ドロシーの土魔術で
作った足場。

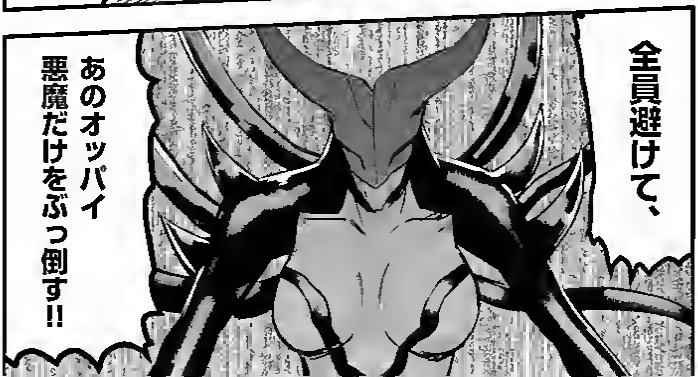
爆発の矢！




ファイムム。

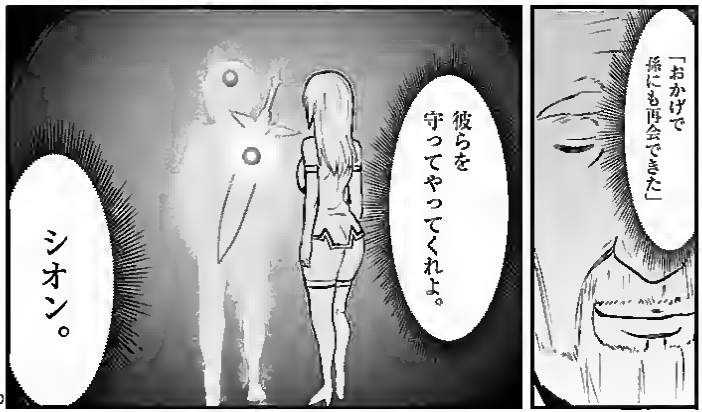
ブオォオオ
んじゃな!!
臆病者!
勝負から逃げる気か!!
ぐっ
ぐぐ
お前は
それでも勇者かッ!!

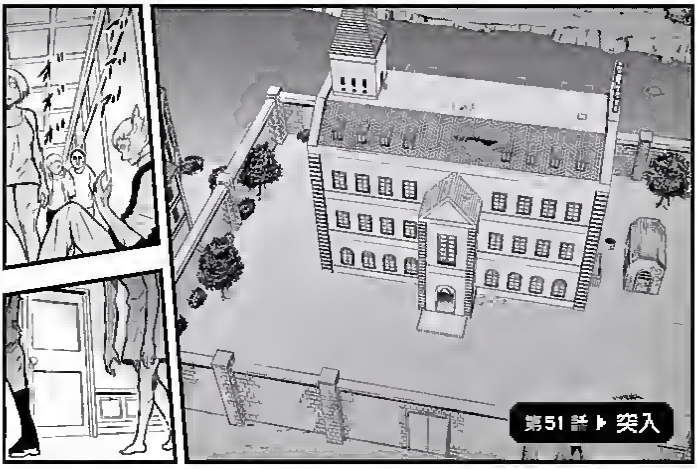

ハッ、
勇者らしさなんざ
知ったことかよ。
そうだ。
敵が千体いようが
百万体いようが
関係ねェ!

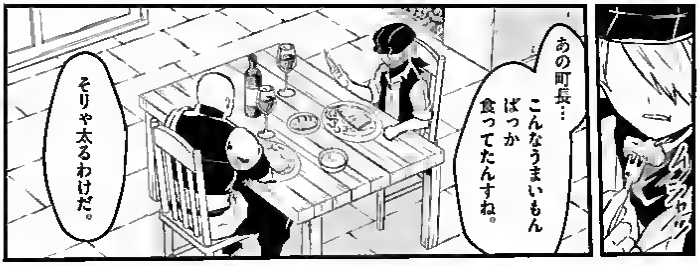

全員避けて、
あのオッパイ
悪魔だけをぶっ倒す!!

ゴロウジン。
やはりアナタ、目が見えるのでは？
いや、視力は衰えておる。

代わりに目には見えないものが見えるんじゃがの。
魔力や精神体の類いじゃ。
ボワッ

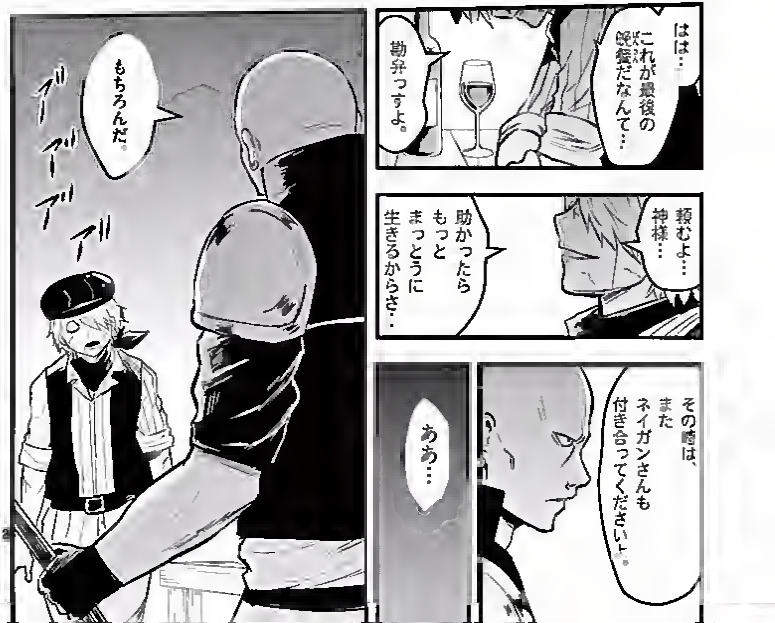

「おかげで孫にも再会できた」
彼らを守ってやってくれよ。
シオン。


第51話▶突入

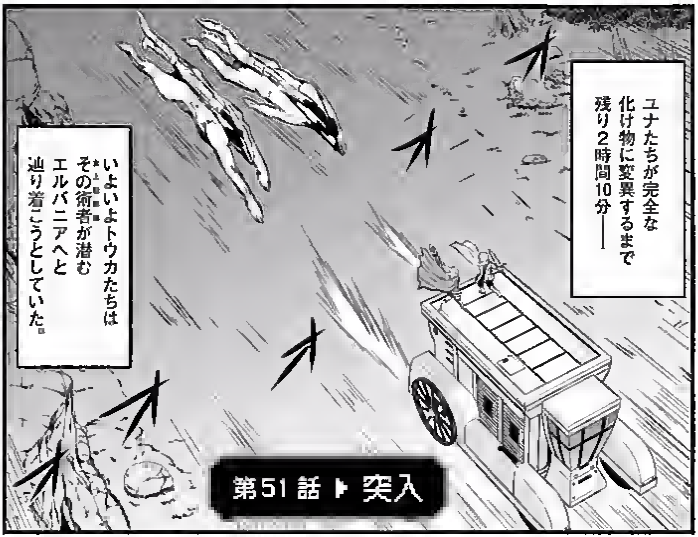

あの町長…
こんなうまいもん
ばっか
食ってたんすね。
そりゃ太るわけだ。

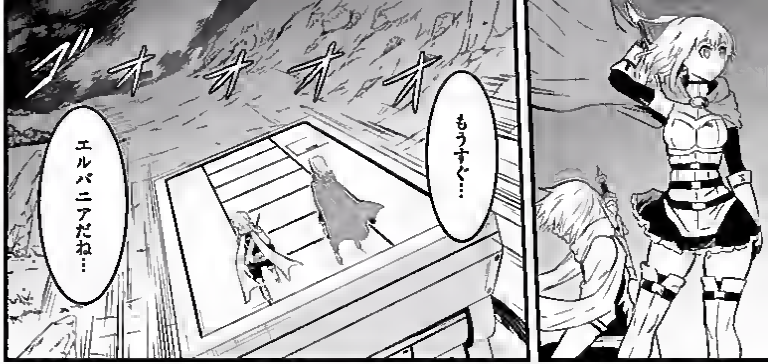
屋敷に残ったおかげで
おいしいご飯が食べ放題。
最高っすよ。
魔力レベルが
高いおかげてか、
感染の進行も
遅いみたいだし…
ポロッ
ドッ

でも、
もう限界みたいっす。
逃げた方が
いいっすよ、
ネイガンさん。
あんたを…
守るために
残ったんだ！
何があろうと…
最後まで…
いる…
あはは…
ホント
バカ
っすね…


はは…
これが最後の
晩餐だなんて…
勘弁っすよ。
頼むよ…
神様…
助かったら
もっと
まっとうに
生きるからさ…
もちろんだ。
ブーブーブー
その時は、
また
ネイガンさんも
付き合ってください。
ああ…

ユナ、
そして
モアランの
町の住民たちが
感染した。
人を化け物に
変える魔術――
「魔人化の魔術」


ユナたちが完全な
化け物に変異するまで
残り2時間10分――
いよいよトウカたちは
その術者が潜む
エルバニアへと
辿り着こうとしていた。
第51話▶突入

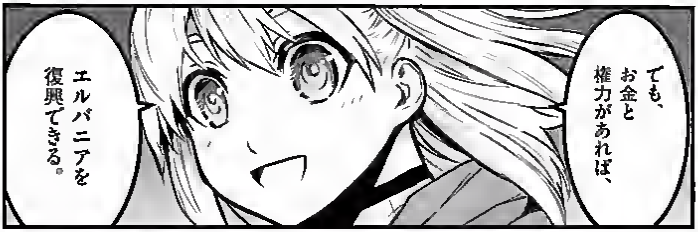

ゴオオオオ
もうすぐ…
エルバニアだね…

お兄ちゃん…
なんであたしが勇者になったと思う…？
は？
なんだよ、いきなり。

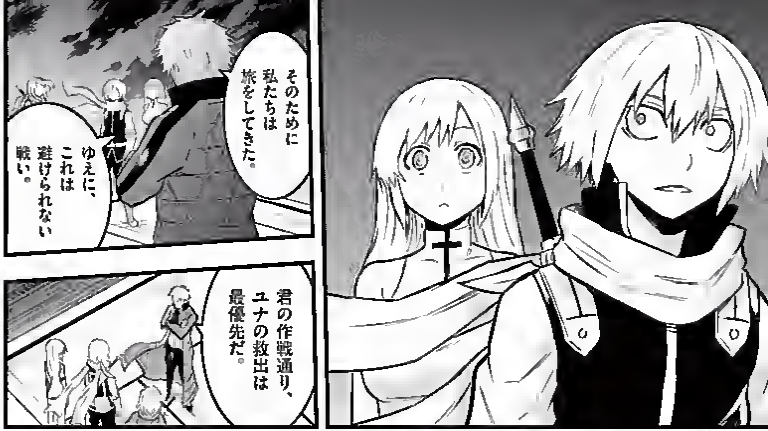
あたしは世界平和のためだとか…
立派な理由で勇者になったんじゃない。

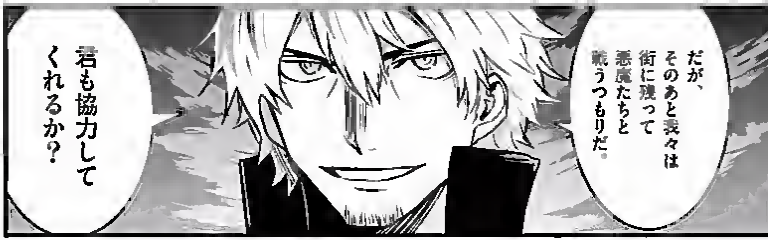
あのね…
世界を救うことに大きく貢献すれば、
今より高い地位と…
そして、各国から莫大な報奨金がもらえるの。

あたしは…
そのお金と権力を
手に入れるために、
必死に修行して
人造聖剣の所有権を
手に入れた。
え…
お前そんな欲望に
まみれたヤツ
だったっけ…
幻滅だわー。
その言葉、
鏡見て
言いなさい。


でも、
お金と
権力があれば、
エルバニアを
復興できる。

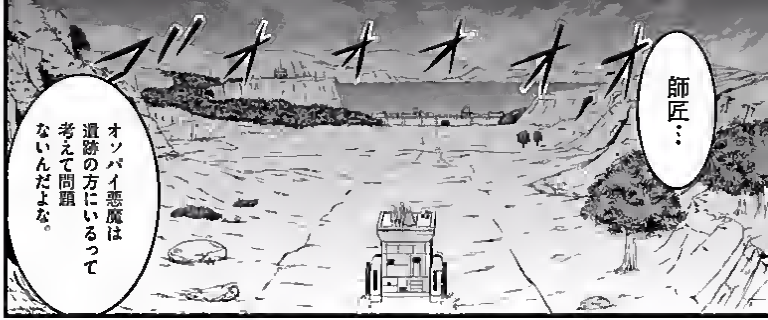
あの日を…
エルバニアでの
日々を
取り戻すことができる。


そのために
私たちは
旅をしてきた。
ゆえに、
これは
避けられない
戦い。
君の作戦通り、
ユナの救出は
最優先だ。

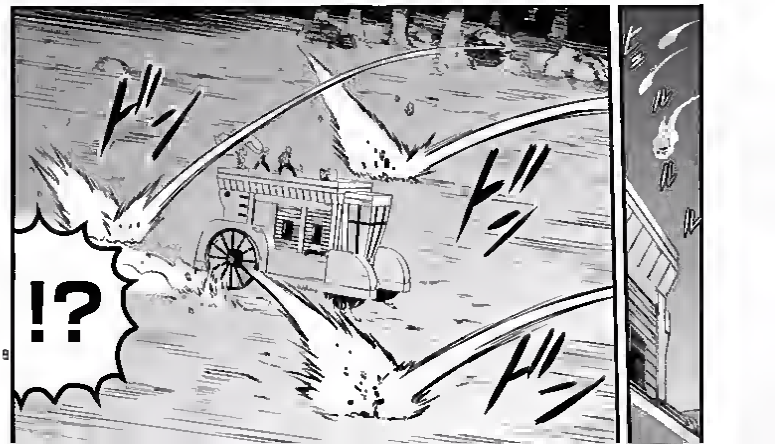

だが、
そのあと我々は
街に残って
悪魔たちと
戦うつもりだ。
君も協力して
くれるか？

…
はあ？
誰がやるかよ、
そんな無謀な戦い。
ちょっとトウカー
エルバニアは
あんたにとっても
大事な故郷でしょー
それなのに、
そんな言い方…！

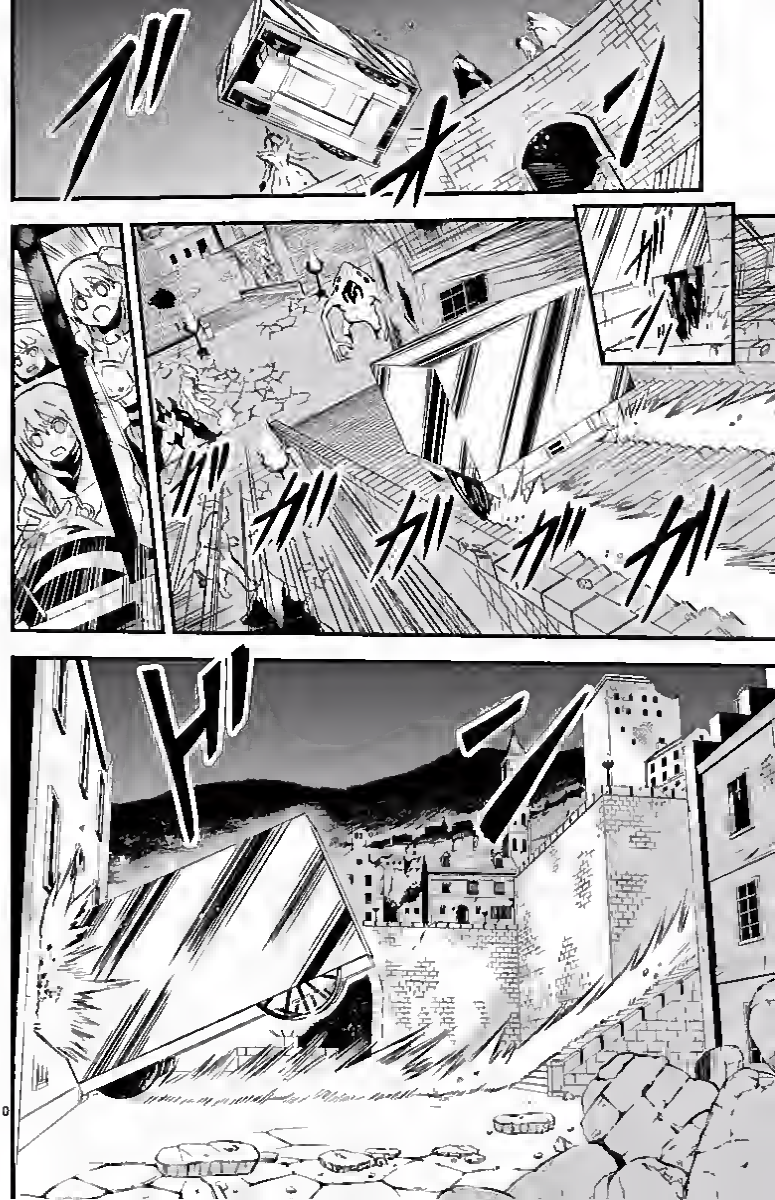
ユナを助けたのにお前らが死んだら、意味ねーだろ。
あの日を取り戻すための戦いなら、なおさらだ。
そこからならまあ…
町長が増援を連れてくるか、
そうでなければ王都へ戻るか…
なんにしてもこちらが圧倒的に有利な状況にしてからでも遅くねえ。
協力してやってもいいぜ。
お兄ちゃん……！
ガコン
エルバニアが見えてきたよ！
準備しな！


ゴオオオオオ
師匠…
オソバイ悪魔は遺跡の方にいるって考えて間違いないんだよな。

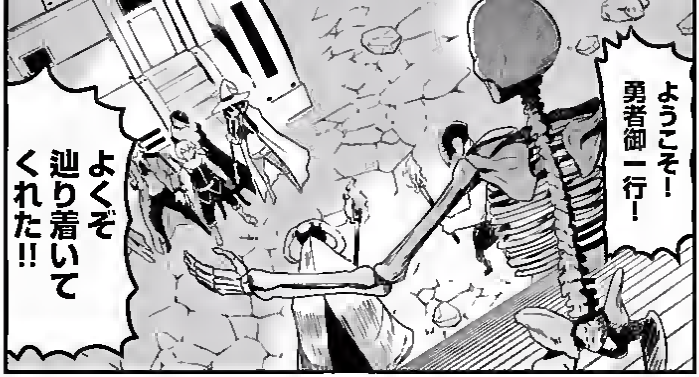
ああ、あっちがヤツらの本拠地だからね。
こっちの狙いはわかってるんだ。わざわざ街まで連れてくる意味がない。
んじゃ、作戦通り頼むぜ。
アンリも師匠もクイミング間違えるなよ。


ドン
ドン
ドン
ドルルルル
!?

エルバニア正門から
魔術攻撃です!!
全員、
魔導車の中に
退避だ!
魔導車ごと
聖剣で殴う!
運転席のシャノンに
透視の魔晶石を!
シャノン!
見える!?
はい!
エルバニアに
突入します!!
みなさんも
つかまってて!!

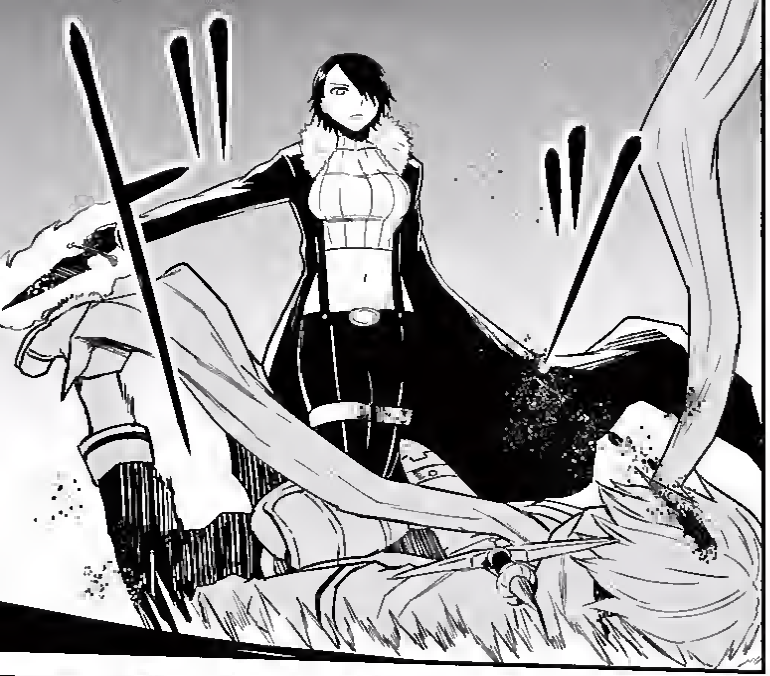

ゴゴゴゴゴゴ
ドン

ズゥゥゥン
ヒュルルルッ
オオオオッ
オオオオッ
オオオオオオ


ようこそ！
勇者御一行！
よくぞ
辿り着いて
くれた!!

血涙野郎か…
盛大な歓迎…
ありがたいね。
そりゃ、
最高の
遊び相手が
来てくれたん
だからな！
歓迎するさ！
どこまで
生き
残れるか…
たっぷり
楽しませて
くれよ。

はっ！
そりゃこっちの
セリフだ…
テメーらが
何体いようが、
勝つのは俺たち…

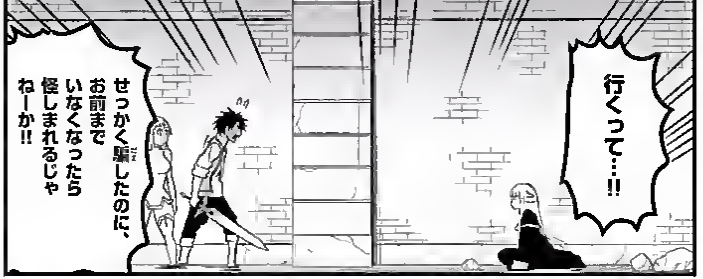


お兄ちゃん!!
トウカさん!!
悪いね、トウカ。
師匠として、せめてこの手であんたを斬りたかったんだ。
不死身のゾンビも…
魔力を込めた攻撃で精神体を破壊すれば殺せる。
ほう…
裏切ってなかったのか?

当たり前じゃないか。ずっとチャンスを窺ってたのさ。
疑うなら魔力視で見るといい。
トウカの精神体はもう消滅してるさ。
ズズ…
確かに…
消滅してる…
しかし、一番の楽しみがこんな簡単に終わっちまったのは残念だぜ。
ヒャハハハハ！こりゃ一杯食わされたぜ！
さすがは人間を裏切った女！弟子を殺すことも躊躇なしか！
悪かったね。
あとは好きに遊びなよ。
あたしは鼻水の旦那…フリードに、この死体を渡してくるからさ。
さて…

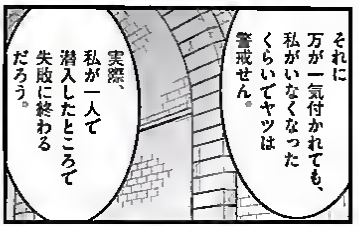
あとは
うまくやるんだよ…
トウカ。
潜入成功。
ドン
スタ

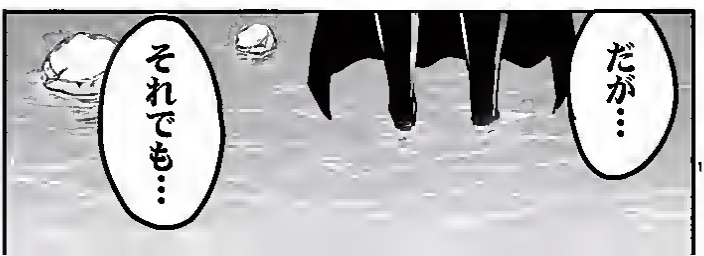
王都で血涙野郎が
憑依した悪魔を
倒したってのに、
ヤツが生きてたことに
ピンと来てな。
攻撃が当たる直前に
アンリに憑依屍術を
解除してもらえば、
殺される前に脱出できる。
相手は抜け殻の
死体を見て、
精神体が消滅したと
勘違いするって
わけよ。
16
そして、
エルバニアは俺たちの
ホームグラウンドだ。
この街のことは
なんだって知ってる。
この地下道が
遺跡に繋がってる
こともな。
ドガン
トウカ殿！
私も
行くぞ！
アンリ!!


行くって…!!
せっかく騙したのに、
お前まで
いなくなったら
怪しまれるじゃ
ねーか!!

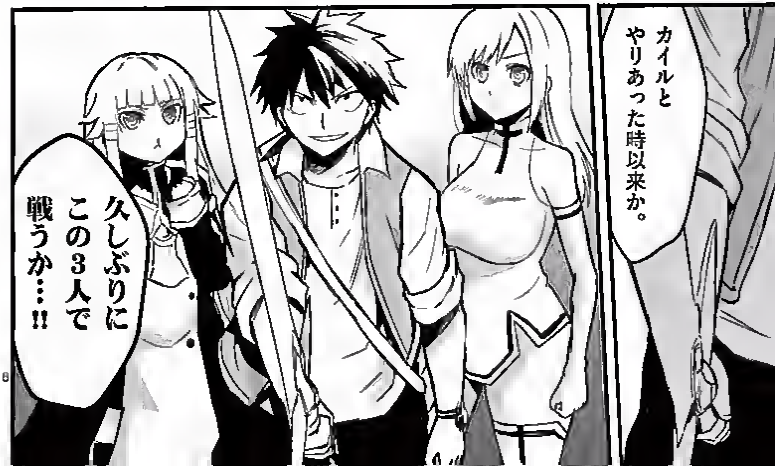
私は…
屍術師の
落ちこぼれ
だからな。

大丈夫だ。
身代わりを置いてきた。
身代わりって…

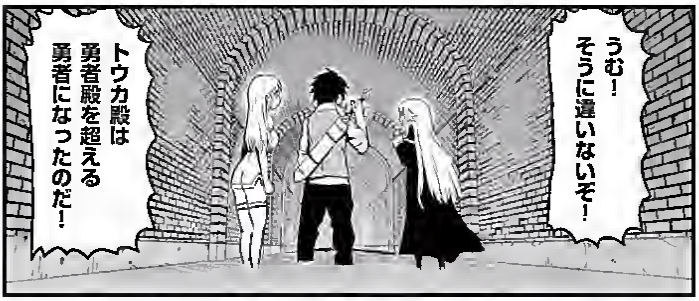

それに
万が一気付かれても、
私がいなくなった
くらいでヤツは
警戒せん。
実際、
私が一人で
潜入したところで
失敗に終わる
だろう。


だが…
それでも…

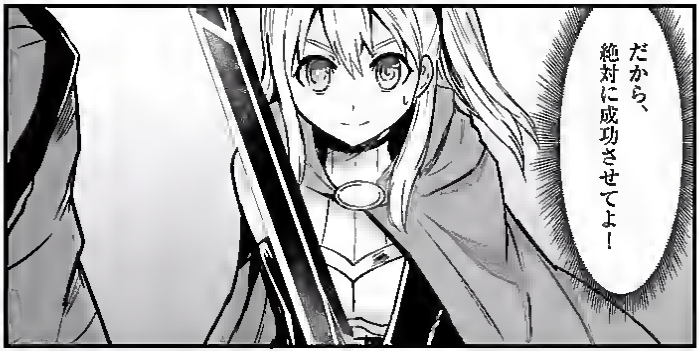
トウカ殿の
役になら立てる。
ったく…
ついて
来ちまったもんは
仕方ねぇか。


カイルと
やりあった時以来か。
久しぶりに
この3人で
戦うか…!!

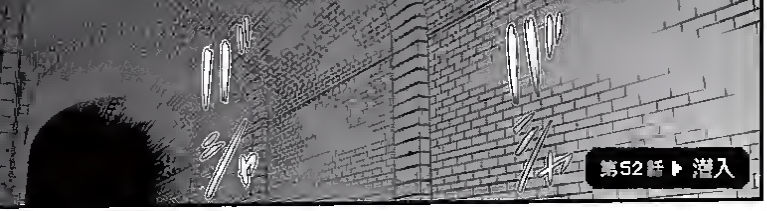
む…
その聖剣…
やはり元の身体でも
使えるように
なってたのだな。
ああ…
もしかしたら、
マジで聖剣に
選ばれちまったのかもな。


うむ！
そうに違いないぞ！
トウカ殿は
勇者殿を超える
勇者になったのだ！

オオオオオ
オオオオ

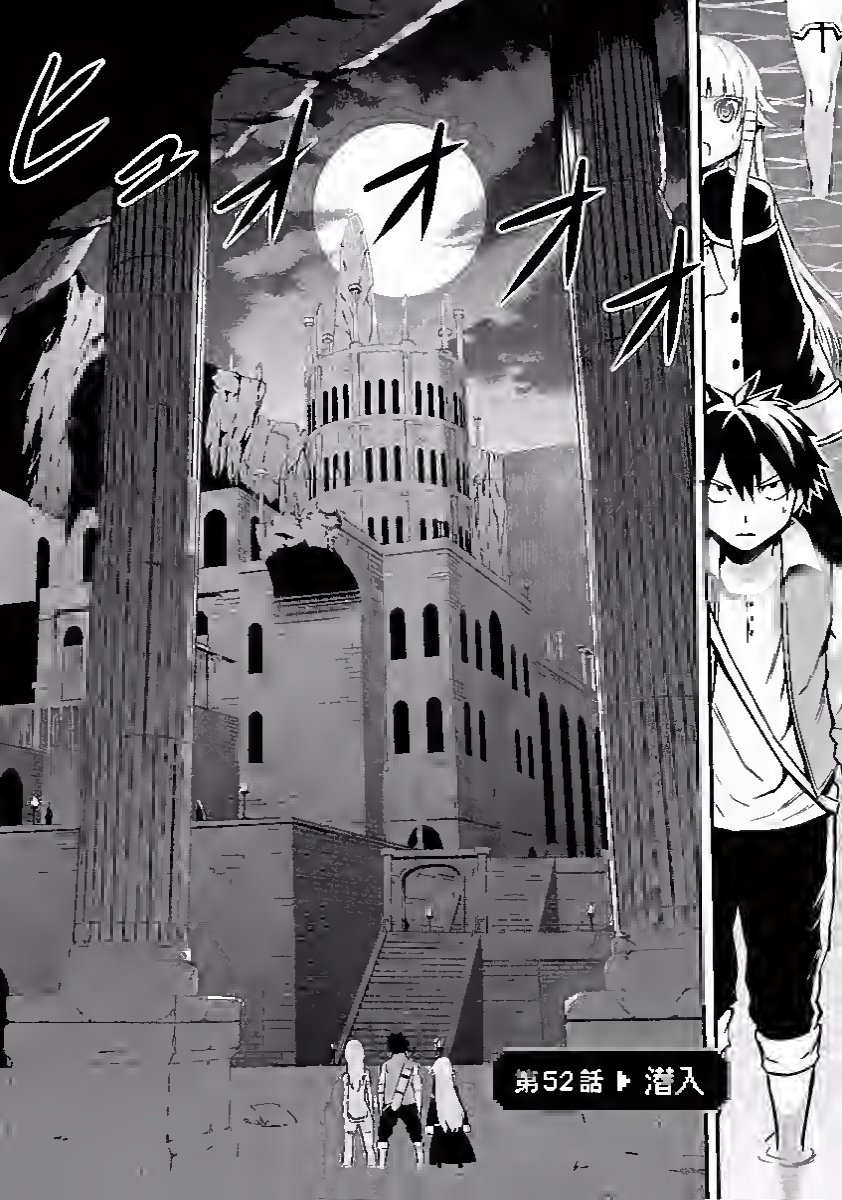


——ユナたちの魔人化まで、残り「１時間50分」

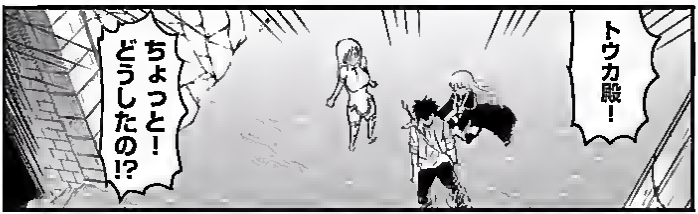

第52話▶潜入

悪いな、アンリ。
この身体に
戻してくれて。
ホントは嬢だったろ。
俺、逃げちまう
かもしれないし…
嬢ではない
ぞ！
私はトウカ殿を
信じてるからな。

しっかし
この身体…
悲しいかな、
勇者やユナの身体と
比べると
動きにくいぜ。
遺跡だ！
これを機に、
あんたも
体鍛えたら
どうよ。
スローライフに
そんな肉体
必要ねぇっての。
つかお前！
浮けるのかよ。
トウカ殿！


ヒョオオオ
第52話▶潜入

さて、こっからだ。
…2時間以内にオッパイ悪魔を見つけ出して…


トウカ殿！
ちょっと！どうしたの!?

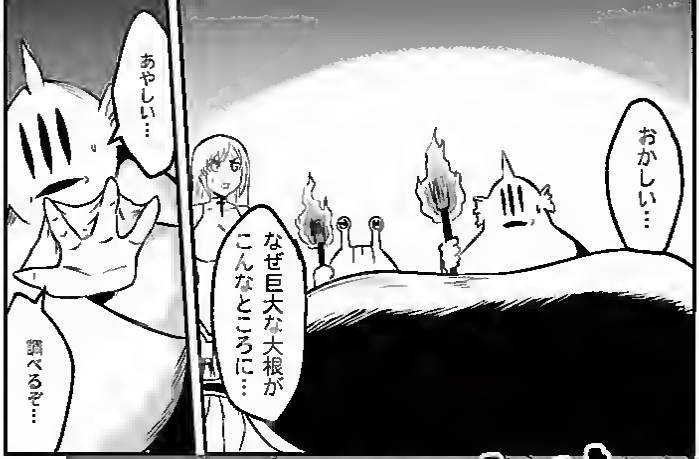
あ、いや…久しぶりの身体だからな。
バランス崩しただけだ…
やっぱホントに鍛えた方がいんじゃない？
ダラッ
鼻血が…
頭もガンガンする…

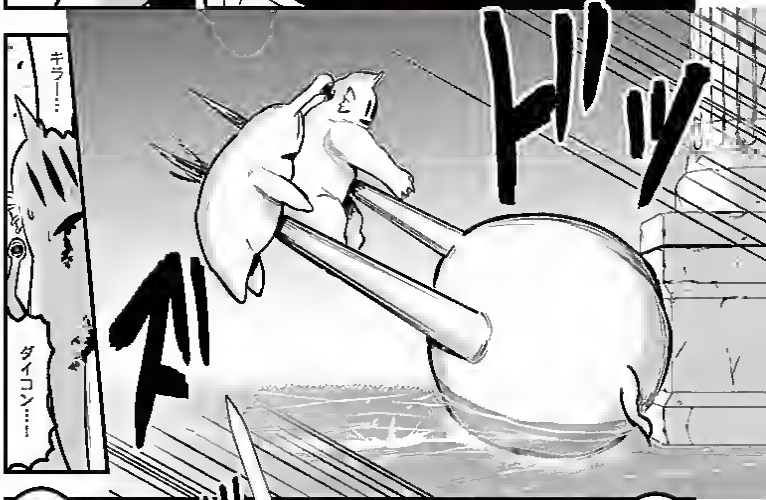
「死術」で精神移動しすぎた影響か…？
いや…
リーランドと同じ…！
精神も膨大な耐え切ボロボロなる
調子こいて
ソーマの雫を使い過ぎたのがまずかったか…
トウカ
ユナの肉体＝勇者の肉体
ノーマの甲二本使用
魔力レベル1→7

まあいい…
まだこの程度なら耐えられる…
ユナを救うまで、倒れるわけにはいかねえしな！
おい…
なんだ、今の音…！

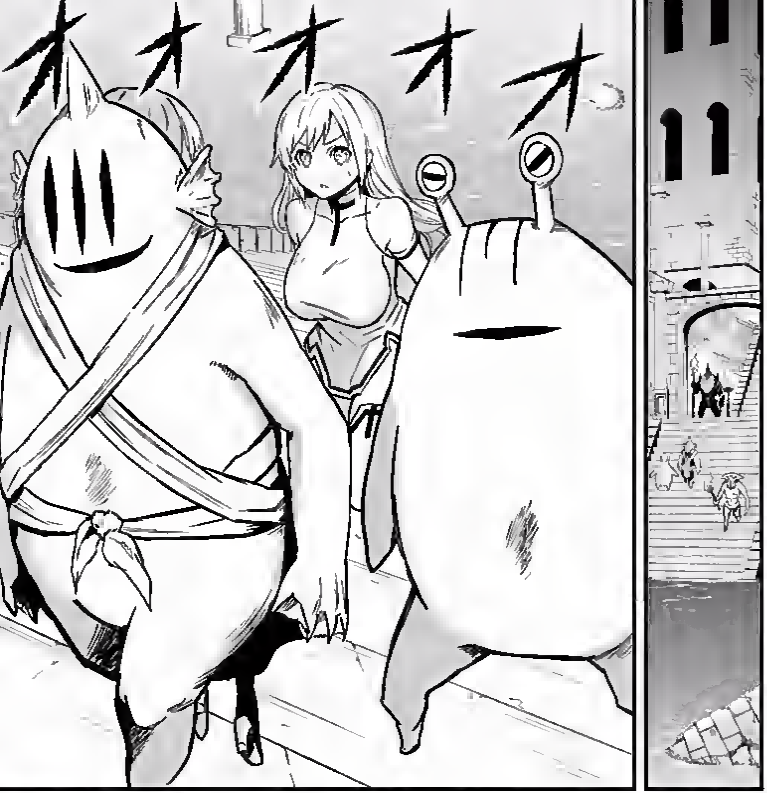
まずい…
潜入がバレたら、作戦が失敗するー
でも隠れる場所なんてないわよー
形状変化！

ガッ
!!!
巨大な大根が
落ちてきた
だけのヨウダ。
大根ヨ～…
!!!
敵かと
思ったぜ…
なんでそこで
大根なのよ
い、いや…
焦っちゃって…
ま、まあバレ
なかったし
いいだろ。
遺跡にも
たくさん敵がいる
ようだな。
むむ…
ニン
ちょっと
二人とも!!
さっきの連中
戻ってくるわよ!!
クソ!
これじゃ全然
先に進めねえ!!

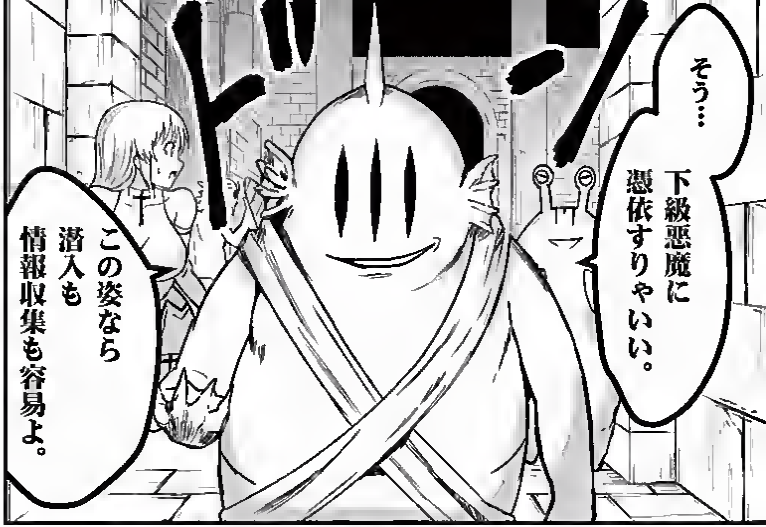

おかしい…
なぜ巨大な大根がこんなところに…
あやしい…
調べるぞ…


キュー…
ダイコン……
トリッ
ズ

コソコソすんのは終わりだ。
アンリ、出番だぜ。
サッ

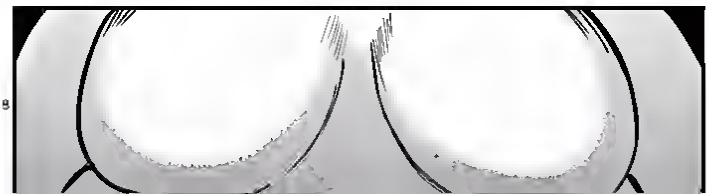

オ
オ
オ
オ
オ

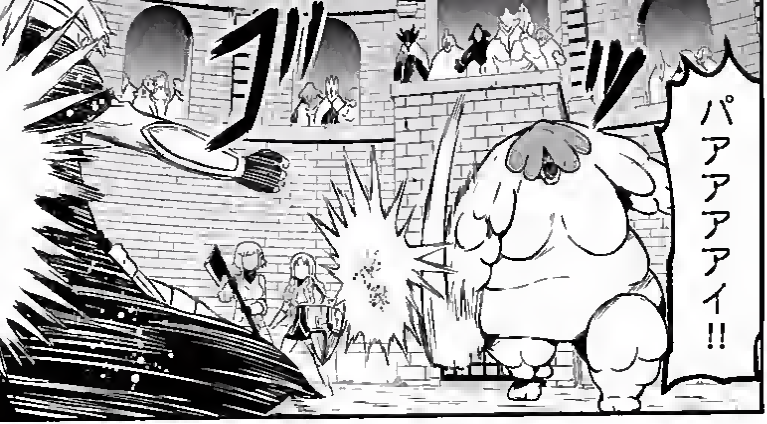
オッパイの大きい悪魔？
ああ…それならこの先の地下ダゼー
ヒッ


そう…
下級悪魔に
憑依すりゃいい。
この姿なら
潜入も
情報収集も容易よ。

俺の肉体は
生者の棺に戻す。
そして
アンリの肉体は、
侵入者を捕まえた体で、
運べばいい。

さてと…
ガヤ
ガヤ
オソバイ悪魔と
ご対面だ。

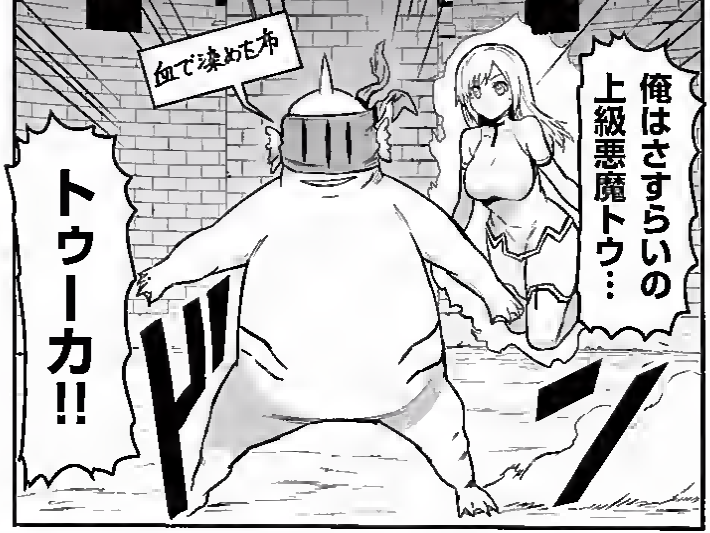


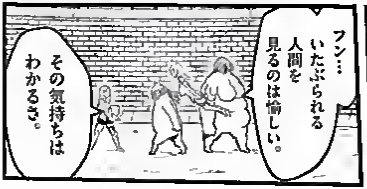

パアアアアイ!!

確かにオッパイおっきいけど!!
ねえ…
あの冒険者っぽい人たち
このままだと殺されちゃう…

ひゃはははは!もっとやれ!
死ぬぞ!
もうとっく死ぬぞー
だが…こいつらと戦えば、潜入がバレちまう…!!
むむ…!
おい!アンリどこに行く!

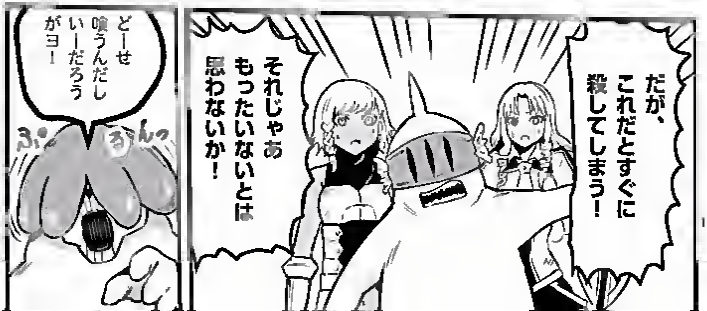
みなの者！
勇者パーティが
攻めてきているのだぞ！
このような
くだらぬ
ことはやめて、
早く街で
戦うのだ!!
うるせー！
下級のクセに
指図してんじゃ
ねえ!!
すっこん
でろー！
オレ達の
勝手だろーが!!
10
トウカ殿…
怒られて
しまったぞ…
しゅん…
なるほど…
下級悪魔の
言葉がダメなら…
バアアアイ…
お願い…
助けて…！
バアアアイ…
待ちな！


血で染めた布
俺はさすらいの上級悪魔トウ…
トゥーカ!!

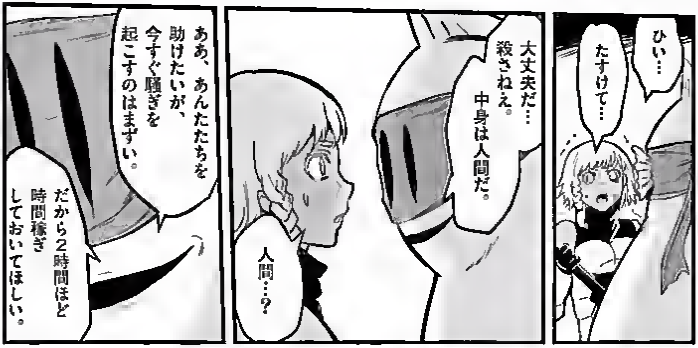

フン…いたぶられる人間を見るのは愉しい。
その気持ちはわかるさ。

バアアアイ!何勝手に入ってきてやがる!
邪魔すんじゃネエ!
ぷるんっ

え…わかるの?
本気にすんじゃねえよ!


だが、これだとすぐに殺してしまう!
それじゃあもったいないとは思わないか!
どーせ喰うんだしいーだろうがヨ!
ぷるんっ

落ち着け…
俺は人間共の文化を学び、
こいつらを120%楽しみ尽くす方法を学んできた！
120%…
楽しむ…


ひい…
たすけて…
大丈夫だ…殺さねえ。中身は人間だ。
人間…？
ああ、あんたたちを助けたいが、今すぐ騒ぎを起こすのはまずい。
だから2時間ほど時間稼ぎしておいてほしい。

これに着替えてな。

この旅で俺は気付いたことがある。

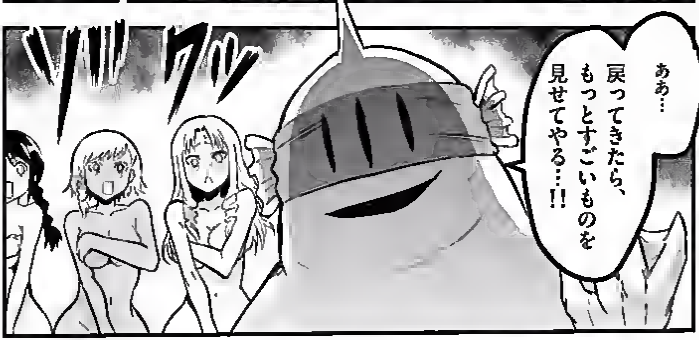
なんダあ――
この光景はァ……！
すごい…
すごスギル！
悪魔は…
変態だらけ!!

ハダカニーソ！
ハダカニーソ！
ハダカニーソ！

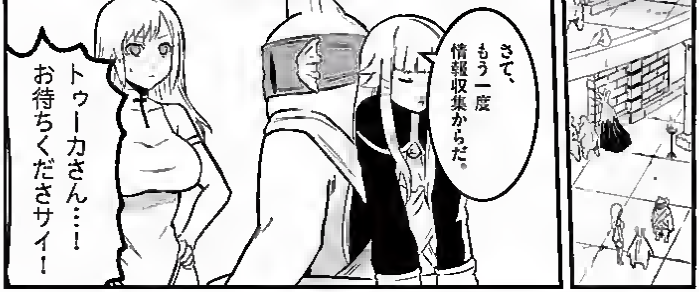
ニンゲンの女共を120％楽しむ方法……！
それが…
ハダカニーソだ!!

あんた…
ホント最低ねクズ！
ド外道！
いっそ殺して！
…

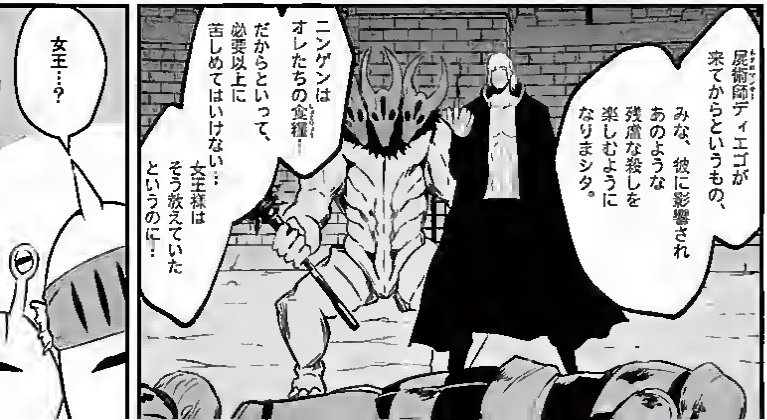
俺は今から別の用事を
済まさなきゃならねえ！
お前たちは
2時間ほど
ハダカニーソを
楽しんでくれ！
絶対に手を
出すんじゃねえぞ！
こいつらには
まだ利用価値が
あるからな!!
利用価値…


ああ…
戻ってきたら、
もっとすごいものを
見せてやる…!!

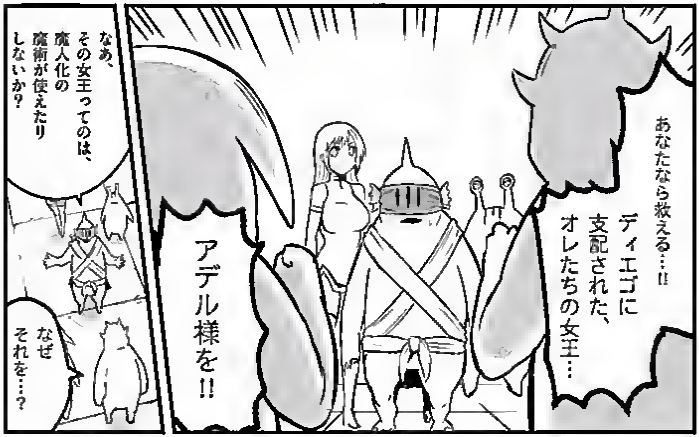
スゲエぜ！
トゥーカさん！
マジリスペクト
だぜ!!
トゥーク!!
トゥーカ!!
ちゃ…
ちゃんとあとで
助けるから！
トゥーカ!!

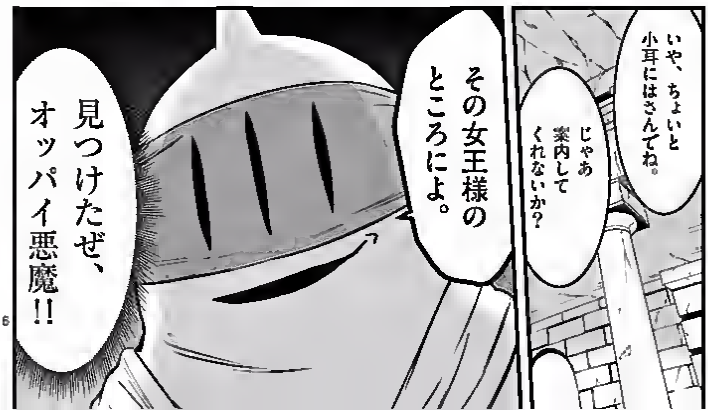

さて、
もう一度
情報収集からだ。
トゥーカさん…！
お待ちくださサイ！

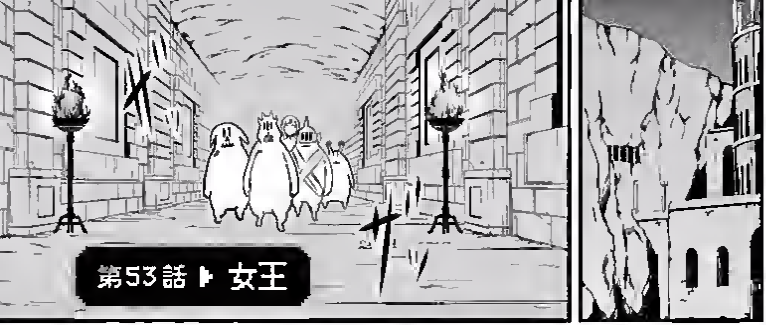
悪いが…
俺は急いで…
先ほどの
勇敢な行動…
感動しまシタ!!
へ？

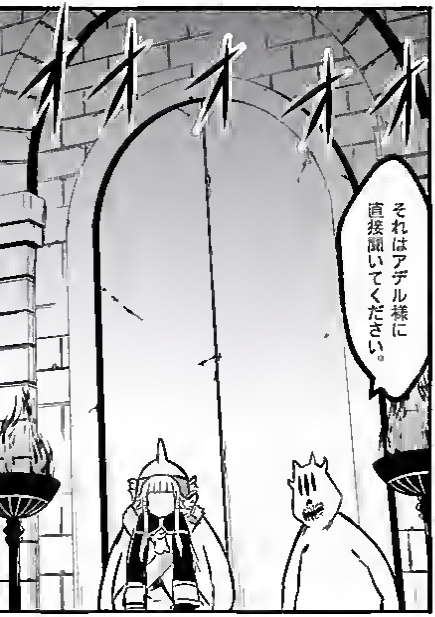

尾術師ディエゴが
来てからというもの、
みな、彼に影響され
あのような
残虐な殺しを
楽しむように
なりまシタ。
ニンゲンは
オレたちの食糧！
だからといって、
必要以上に
苦しめてはいけない…
女王様は
そう教えていた
というのに！
女王…？

でも、あなたは
それを変えた!!
血に飢えた
みなの心を一瞬で
変えてしまった…!!
ニーソ!
ニーソ!
ニーソ!


あなたなら救える…!!
ディエゴに
支配された、
オレたちの女王…
アデル様を!!
なあ、
その女王ってのは、
魔人化の
魔術が使えたり
しないか?
なぜ
それを…?

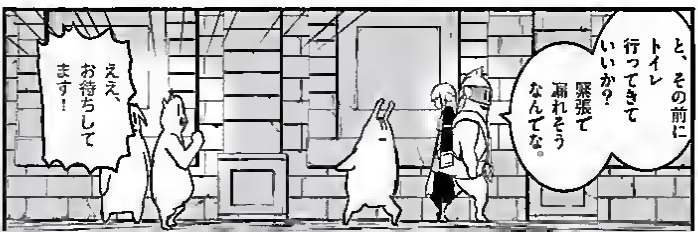

いや、ちょいと
小耳にはさんでね。
じゃあ
案内して
くれないか?
その女王様の
ところによ。
見つけたぜ、
オッパイ悪魔!!


第53話▶女王


それはアデル様に直接訴いてください。

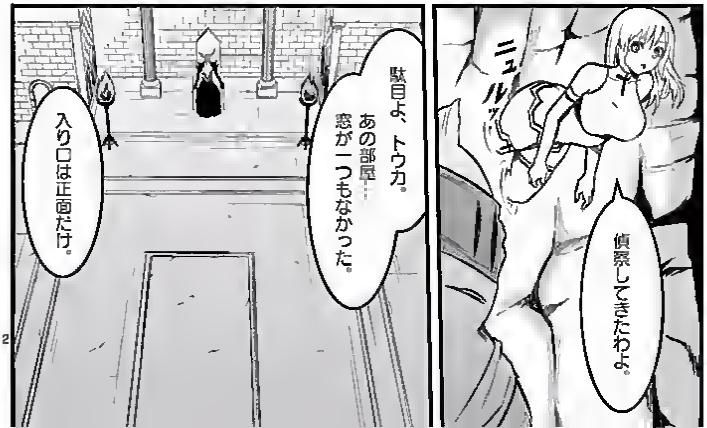
まさかトゥーカさんの方から、女王アデル様に会いたいと言ってもらえるなんて。
トゥーカさんとアデル様が手を組めば、オレたちの理想を実現するのも夢じゃない！

理想…？
理想ってなんのことだ？


と、その前にトイレ行ってきていいか？
緊張で漏れそうなんでな。
ええ、お待ちしてます！

さて…
居場所はわかった
あとはどうやって
オッパイ悪魔を倒すかだ…

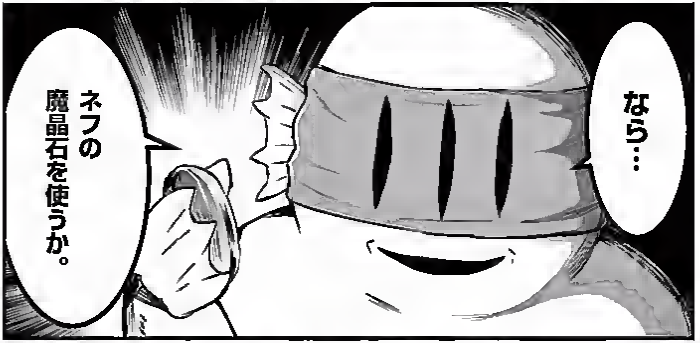
このまま乗り込んで
普通に戦えば…
仲間を呼ばれる
可能性が高い。
うがが!
そもそも普通に
倒せる自信はねえ。
やはり
あの部屋に
こっそり忍び込み、
背後から一撃…
これがベストか。


偵察してきたわよ。
ニュルッ
駄目よ、トウカ。
あの部屋…
窓が一つもなかった。
入り口は正面だけ。

時間は
残り1時間半だな。
トウカ殿…
ここは慎重に
行くべきだ。

マジかよ…
じゃあ壁ごと
破壊して攻撃するか…
だけど、
相手は上級悪魔よ。
瞬時に気付いて
避けられる可能性も…

慎重に…
か…


なら…
ネフの
魔晶石を使うか。

トウカ…

ちゃんと魔晶石は
回収していきな。
こいつの魔術は
役に立つはずだよ。

記憶の世界を作る魔術か…

確かに強々楽しめそうだけど、回りくどいし実戦じゃ使いものにならねえだろ。

何も記憶の世界に入る必要はない。

相手を眠らせる魔術として使えばいい。

呪文は"アイン・ダンタリオン"だ。

なるほど。

アイン・ダンタリオン。

…か…記憶の世界に入る前、頭を触られたような感覚があったから…

あれ、何も起きねーぞ。

どうせやるだろうと思って警戒してたからね。

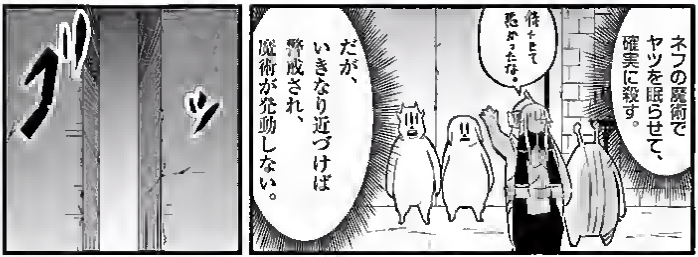
警戒してない相手に対しては…

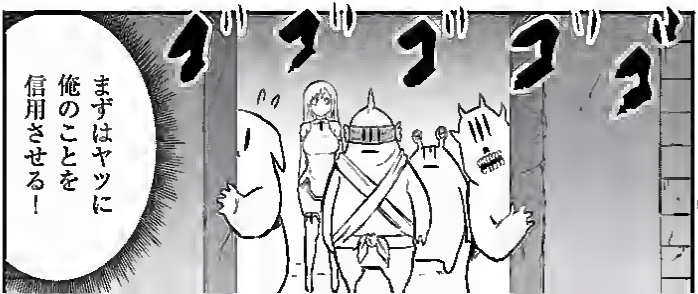
あ、トウカさん！

出発準備できましたか？

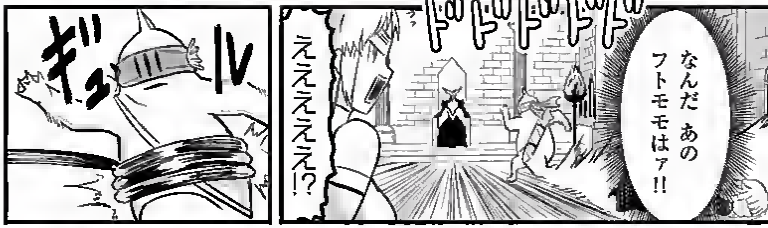
"アイン・ダンタリオン"

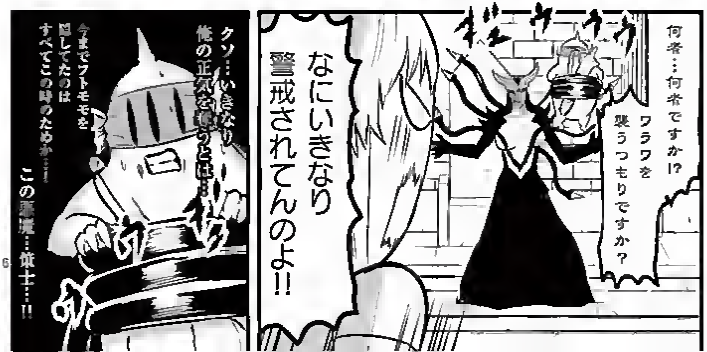
ほら、この通りさ。
なるほどね。
コイツは便利だ。
とりあえず、せっかくなのでハダカニーソに…
やめな。


ネフの魔術でヤツを眠らせて、確実に殺す。
だが、いきなり近づけば警戒され、魔術が発動しない。

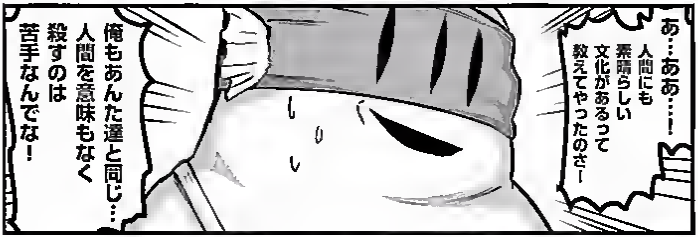

まずはヤツに俺のことを信用させる！

ムチーン

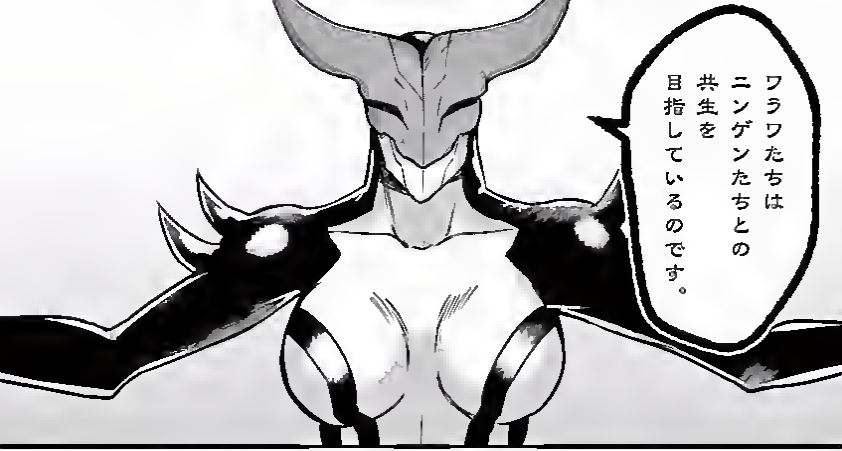

なんだ あの フトモモはァ!!
ドドドドドド
えええええ!?
ギュル


何者…何者ですか!? ワラワを襲うつもりですか?
ギュウウウ
なにいきなり警戒されてんのよ!!
クソ…いきなり俺の正気を奪うとは…
今までフトモモを隠してたのはすべてこの時のためか…
この筆魔…筆士…!!

アデル様！
トゥーカさんは
わるい悪魔じゃないー
トゥーカさんは
あの狂気に取りつかれた、
仲間たちの心を
一瞬で元に戻したんですー
彼なら、
オレたちの理想を
実現するための
頼もしい味方に
なってくれるはずですー
いいぞ、
俺をもっと
持ち上げろー
…その話、
ホントウですかっ


あ…ああ……！
人間にも
素晴らしい
文化があるって
教えてやったのさー
俺もあんた達と同じ…
人間を意味もなく
殺すのは
苦手なんでな！

なるほど…
確かにアナタには
ワラワたちが目指す
理想の世界について、
語ってもよさそうですね。
理想の…
世界…


ワラワたちは
ニンゲンたちとの
共生を
目指しているのです。

はい。
ニンゲンとは
コトバでの
意思の疎通が可能。
話し合えば、
きっとわかり
合えるはずです。

共生!?
人間と争うのを
やめるってのか!?

そういや、
噂に聞いたんだが、
モアランって
町の人間たちを、
あんたの魔術で
悪魔に変えようと
しているらしいな。
共生するんなら、
元に戻してやるべき
なんじゃないか?
何を
言ってるのです?

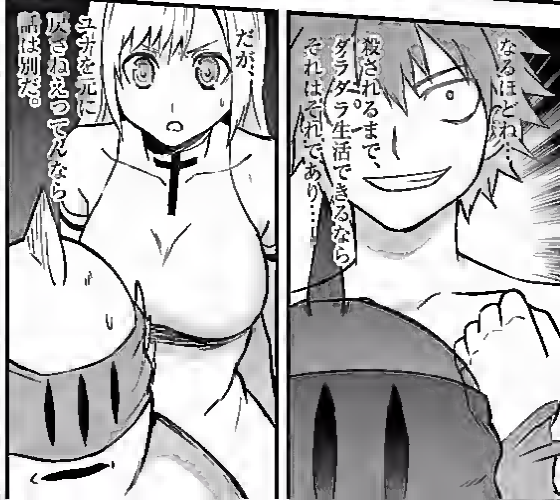
スケート老
ニチムゲの
フーモの持ち手に
悪いやつはいない
…交渉すれば
ユナたちも元に
戻してくれるんじゃ
ないか。

本気で
言ってるの
かしら
何か裏が
ありそうだけど…

せっかくワラワたちの仲間にして差し上げようというのに。
心配はいりません。
ニンゲンだった頃の記憶は失われ、悪魔としての自我が新たに生まれますから。
そこの者たちも元はニンゲン。
ですが、こうして今ではワラワたちの味方です。
!?
じゃあ、あんたの言う共生って…

はい、半数をワラワの魔術で仲間にし…
そして、残った半数のニンゲンたちは家畜として管理します。

住む場所も、
食べるものも、
すべてワラワたちが
用意します。
ワラワたちの
管理下で
幸せに暮らして
いただくのです。
これがワラワの
考える共生。
ずっとニンゲンたちも
感謝し、
喜んでその身を
捧げてくれるように
なるでしょう。

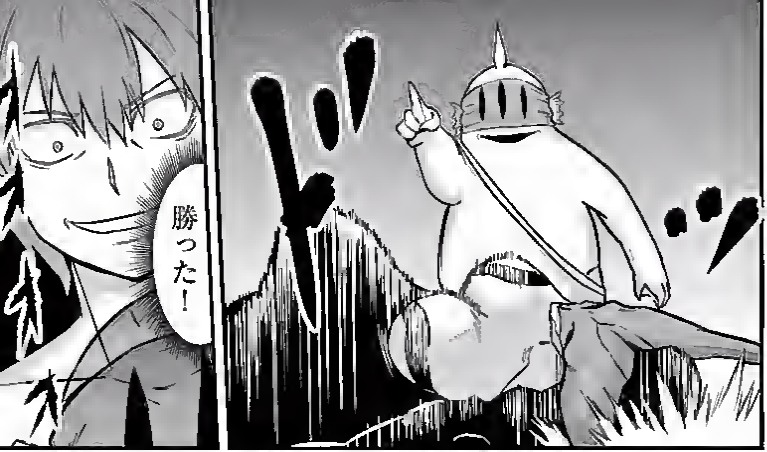

なるほどね…
殺されるまで、
ダラダラ生活できるなら
それはそれであり…!!
だが、
ユナを元に
戻さねえってんなら
話は別だ。
結局は俺たち
人間を食いモンとして
見ている連中…
どうやっても
わかりあえない…!!

アデル様、彼と共にもう一度理想の実現を目指しましょう！
ディエゴ様は、ニンゲンを皆殺しにすることしか考えてない！
ニンゲンがいなくなれば、オレたちを変理難が襲う！このままではオレたち悪魔の未来はない！
なりません。ディエゴ様を裏切るようなことはできない。
裏切りを知れば、見せしめに多くの仲間たちが粛清される。

なら、ディエゴも説得すりゃいい。
俺も協力するぜ。

俺は人間のことをたくさん学んできた。
二人で説得すれば、ディエゴも理解してくれるはずさ。
どうやらこの出会いは運命だったようだ。
俺はあんたと理想を実現するために生まれてきた。
トゥーカさん…

そうだ！
人間の文化には友好の証しとして、
互いの額に指を当て合う慣習があってな。
額に指を？
それは…
禁厳ですね。
そんなの初めて聞いたんだけど
さあ、指を当ててくれ。
これから俺達は同じ理想を志す、仲間同士だ。
ああ、頭には精神体が宿っているだろ？
精神と精神…
つまり、心と心が繋がり合う間柄になったって意味さ。
ありがとうございます…
アナタに出会えてよかった…

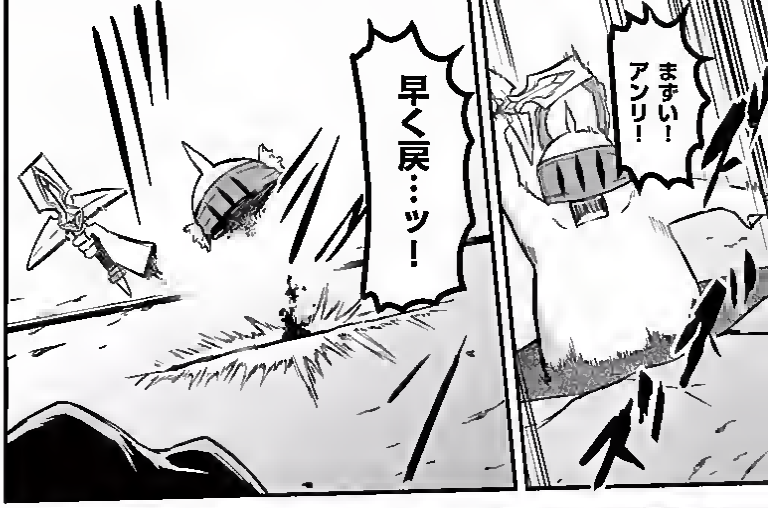

勝った！

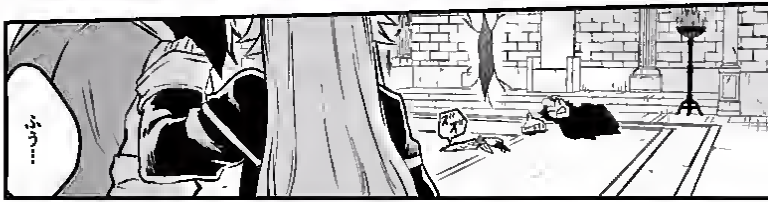
アデル様…！
トゥーカー
いったい何を！
魔術で
眠らせたのさ。
フハハハハ！
私は屍術師
だったのだ！
なッ!?

そして俺の中身も
人間さァ!!
まんまと
騙されてくれたな!!
ククク…
ハーハッハッハ!!

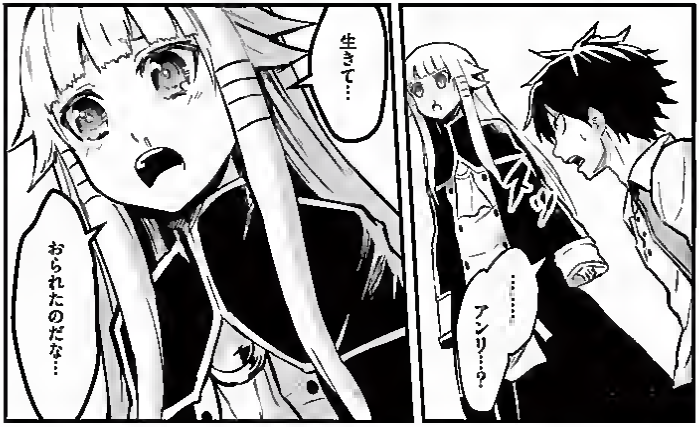
悪いが、このオッパイ悪魔の命はここまでだ！
テメー5の理想は永遠に実現しねえー 残念だったなアー
ゆるさない！ ゆるさないぞー
トゥーカぁあああー
ハッ！
下級の分際でこの聖剣の力に誇てるわけねーだろ。
クソ… 絶対に…させない……
女王様は…殺させない……！
なぜかしら…
トウカの方が悪者に見えてしまうのはなぜ…？
ハハハハ！
フハハハ！
ああ……！
これで…終わりだ！
トウカ殿、さあ とどめを。

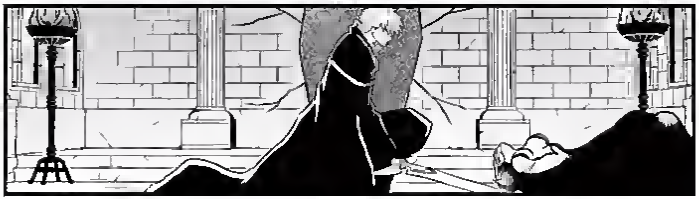
ズ
ズ

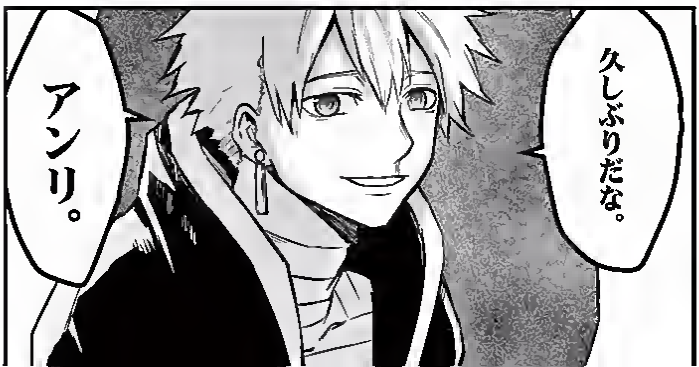

まずい！
アンリ！
早く戻…ッ！


ふう…

間一髪
だったぜ…


生きて…
おられたのだな…
……
アンリ…？




久しぶりだな。
アンリ。

——ユナたちの魔人化まで、残り「１時間10分」

——勇者が死んだ！5・完——

そして黒歴史へ――

ユナはいつもトウカと魔法少女ごっこをしていた。
出たわね！怪人ニーソマン！
ククク！服かせちゃうぞ～！
だが、トウカはエルバニアを旅立ってしまった。

一人でだって続けられるわー
魔法少女マジカルユナリン参上！
さあ誰か困ってる人はいない!?

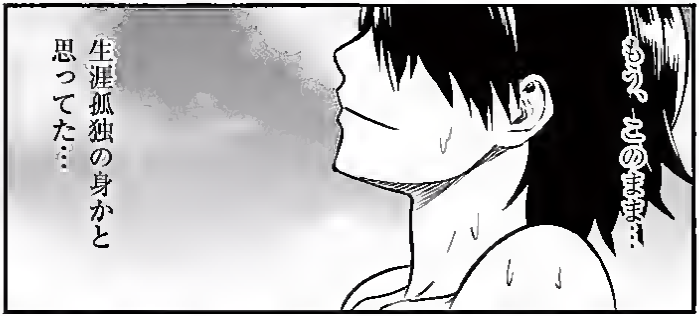
元気だねぇ。
ママー、あのお姉ちゃんヘンな格好！
マジカルユ…なんじゃって？
ユナリンです…

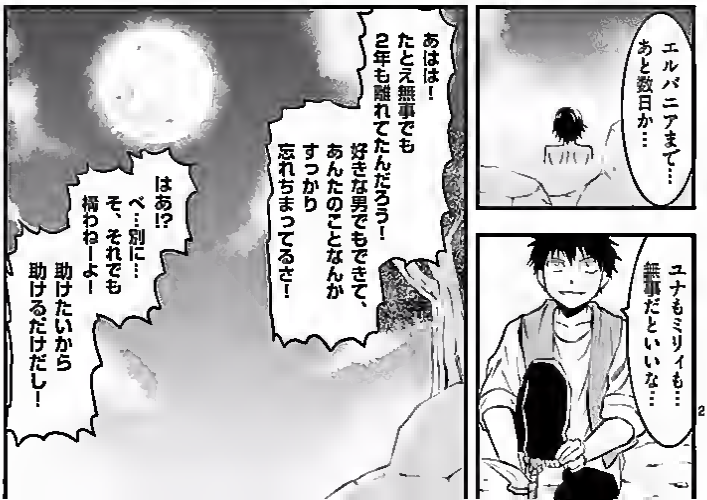
ほほー！う…ユルリンかあ。
……もう。
名前もへーん！
やめよう。
ひとりだと死ぬほど恥ずかしかった。

おまけ

3年前のトウカとエセル

ったく…
懲りないやつだねえ…
ま、裸狙いなだけマシだけどね…
あたしの前に現れるのは〝首〟を狙う連中ばかり…


もう、このまま…
生涯孤独の身かと思ってた…


エルバニアまで…あと数日か…
ユナもミリィも…無事だといいな…
あはは！
たとえ無事でも2年も離れてたんだろう！
好きな男でもできて、あんたのことなんかすっかり忘れちまってるさ！
はあ!?
べ…別に…
そ、それでも構わねーよー
助けたいから助けるだけだし！

なあ…
もしフラれたらさ…
また
あたしと一緒に
旅でも…
ぎゃあ！

……
トウカ？
おい！
トウカ！
おい！
返事しな！
嘘だ…
あたし…
死ぬような罠なんて仕掛けて…

ククク…
掛かったな…
ビッ

トウカは死んだんだ。
あたしの罠にかかって…
そうだよなあ？
ひいいい！
す…すいませんでした！
もうしないから許して…！
死ね！
死ね！
ひいいいいい！

勇者が死んだ！⑤

裏少年サンデーコミックス

ISBN978-4-09-127258-4

2016年5月17日初版第1刷発行

著者　スバルイチ
©Subaruichi 2016

発行者　佐上靖之

印刷所　図書印刷株式会社

Printed in Japan

「裏サンデー」2016年1月12日配信分～4月12日配信分掲載作品
連載担当／白水美咲
単行本編集責任／親田正樹
単行本編集／白水美咲／山本紗代（アイプロダクション）

発行所　（〒101-8001）東京都千代田区一ツ橋二の三の一
TEL 編集03(3230)5480
販売03(5281)3556
株式会社小学館

●造本には十分注意しておりますが、印刷、製本など製造上の不備がございましたら「制作局コールセンター」（フリーダイヤル0120-336-082）にご連絡ください。
（電話受付は、土・日・祝休日を除く9:30～17:30）
●本書の一部または全部を無断で複製、転載、複写（コピー）、スキャン、デジタル化、上演、放送等をすることは、著作権法上での例外を除き禁じられています。代行業者等の第三者による本書の電子的複製も認められておりません。

書　名　勇者が死んだ！　5
著者名　スパルイチ
発　行　株式会社小学館
〒101－8001　東京都千代田区一ツ橋２－３－１

電子書籍制作会社　株式会社昭和ブライト